

昭和51年 9 月台風17号の

災害と復旧の記録



香川県小豆郡池田町

ごあいさつ



過ぐる昭和51年9月、突如来襲した台風17号は、9月8日から13日迄6日間に於て、実に降雨量が1,200ミリにも達し、1年間の雨量に匹敵する記録的な集中豪雨をもたらし、28名の方々の尊い生命を奪い去り、重軽傷者28名、家屋の全壊60世帯、半壊42世帯、床上浸水469世帯、床下浸水1,026世帯と、本町史上最大の被害を蒙り、壊滅的な大打撃を受けたのであります。

災害発生直後「災害救助法」の適用を、更に「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」の発動によって、国及び県の行財政に亘る指導、援助を得、又町内皆さん方の復旧への旺盛なる意欲と格別の理解と協力をいただき、お陰を以て災害復旧事業も本年3月末には完了の見込みでございます。

ここに皆様方のご協力と御援助に対し、衷心から深く感謝申し上げます次第であります。

なお、二度と再びこのような災禍を蒙らざるよう、治山治水事業等、防災対策を積極的に推進し、「郷土の安全」と「民生の安定」確保に向って最善の努力を傾注すべきであると信ずるのでございます。

「転禍為福」ここに一致協力、大災害を乗り越えて「物心ともに豊かな池田町」としての大いなる前進を念願する次第であります。

終りになりましたが、「51年災害と復旧の記録集」編纂に当り、御協力を賜りました関係者各位に対し、厚く御礼申し上げます。

昭和54年3月

池田町長 佐々木 武 雄

目 次

ごあいさつ	〈池田町長 佐々木 武雄〉	1
写真で見る災害と復旧の状況	〈谷尻地区・石場地区・上地地区〉	4
池田町の概要		10
災害の発生		11
台風17号の概況		
降雨の状況		
池田町被災位置図		16
災害を報道する各新聞社の紙面		17
写真で見る各地の被害状況		18
〈池田地区・二生地区・三都地区・中山地区〉		
災害発生の状況		30
1. 発生の場所 2. 発生の日時 3. 発生の概況 4. 町災害対策本部 の記録		
避難と救援活動		34
被害の状況		38
1. 地区別被害状況 2. 人的被害 3. 建物被害 4. 農林被害 5. 土 木被害 6. 水産被害 7. 商工被害 8. 環境保健被害 9. 文教施設 被害 10. 公共施設被害 11. その他の被害		
応急対策と防災対策		42
1. 堆積土砂・ゴミの排除 2. し尿処理対策 3. 防疫対策 4. 住宅		

対策 5. 給水対策 6. 交通・通信・電気対策 7. 教育対策 8. 災害
援護資金の貸付状況 9. 防災建設課の設置 10. 広報防災（行政）
無線の設置 11. 避難所予定施設 12. 防災訓練の実施

災害復旧事業の状況	54
1. 災害復旧状況	
2. 写真で見る復旧概要	
義援金・救援物資	68
災害を体験して	80
西田 卓荘	（前土庄土木事務所長）
山本 久義	（前南蒲野地区総代）
八木 成晴	（室生地区総代）
岡 覚	（前池田町消防団第4分団長）
浜岡久美子	（池田漁業協同組合職員）
浜口 礼子	（三都小学校 6年）
合 同 葬 儀	88
弔辞	町長・県知事・地区総代会代表・県議会議長・町議会議長
感 謝 状	94
編 集 を 終 え て	95

写真で見る

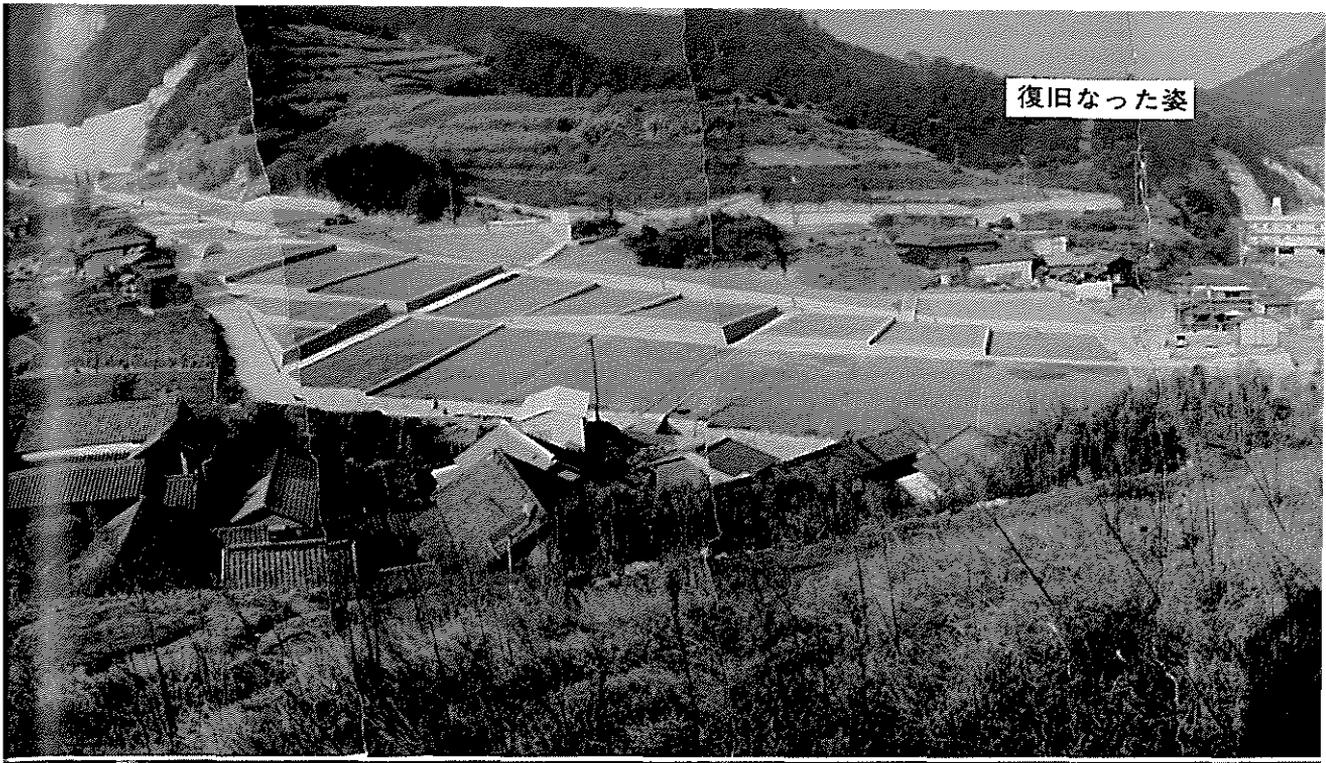
災害と復旧の状況

谷尻地区

最も被害の大きかった谷尻地区



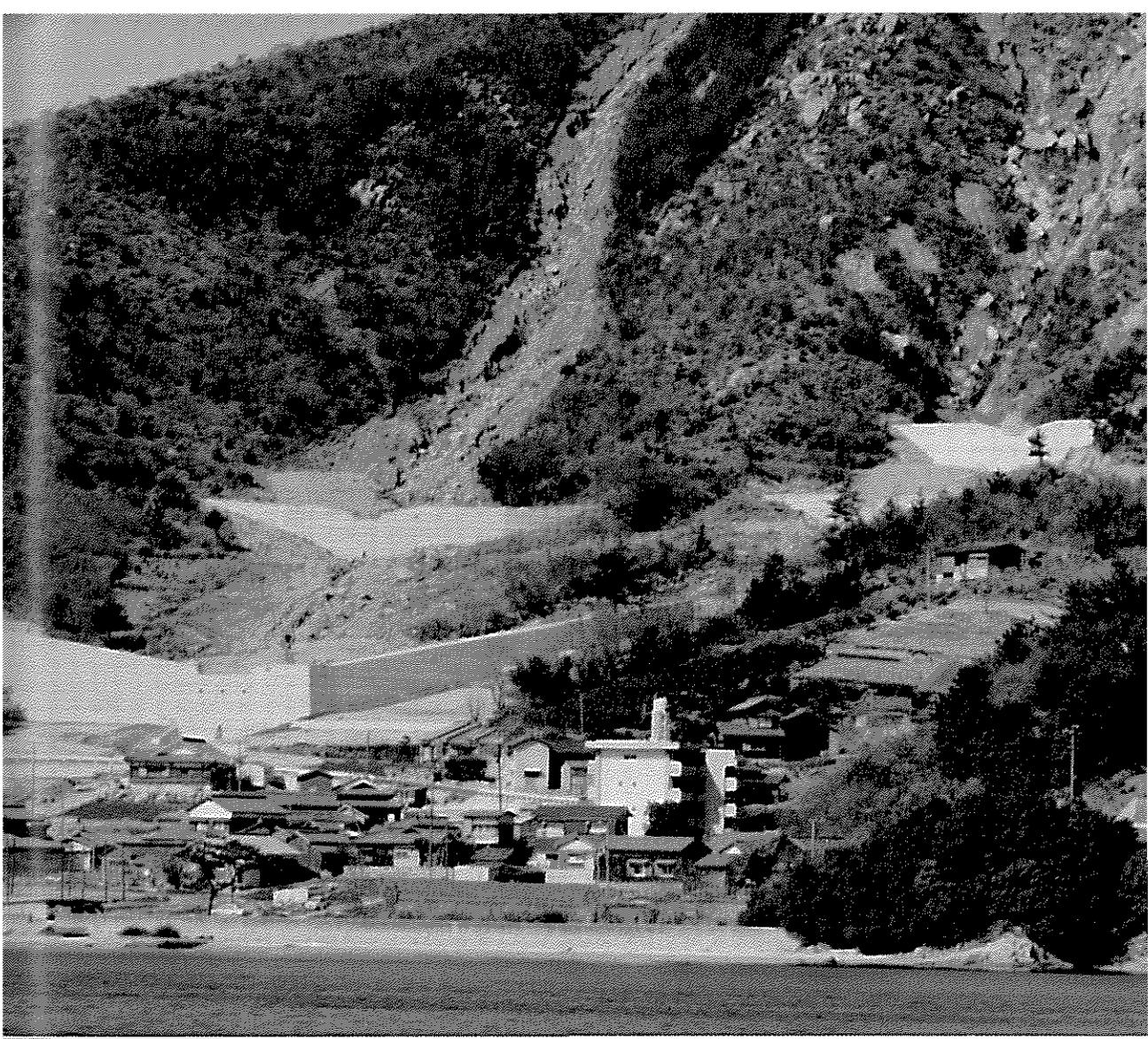
復旧なった姿



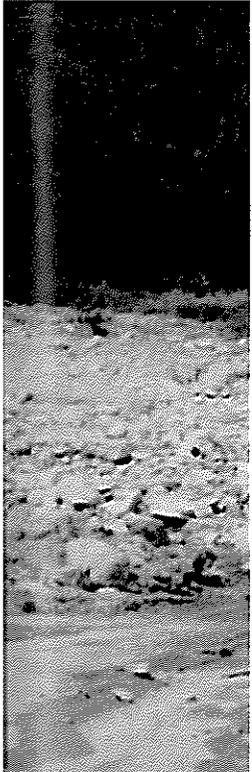
石場地区

10トンもある石が



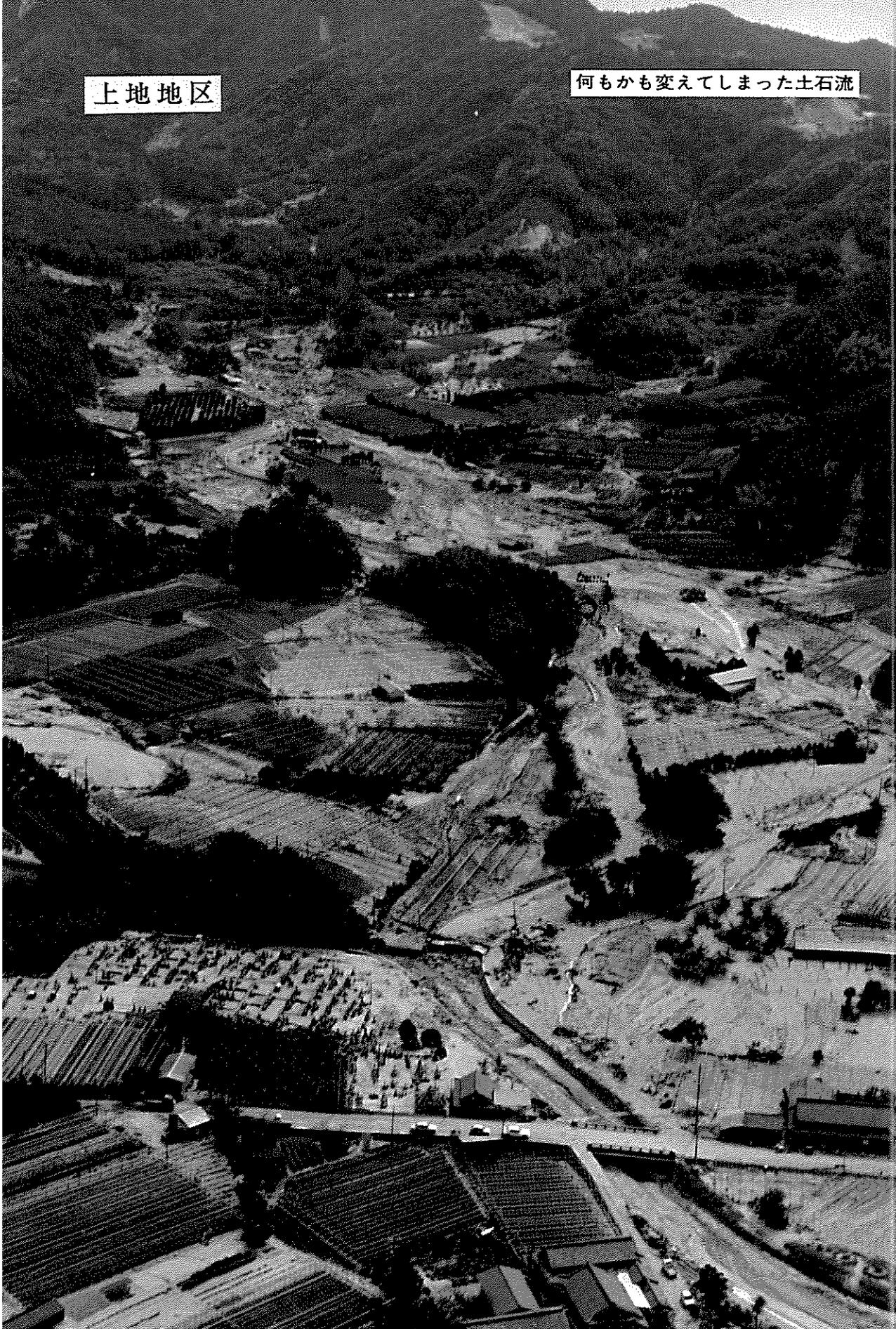


完成した砂防ダム

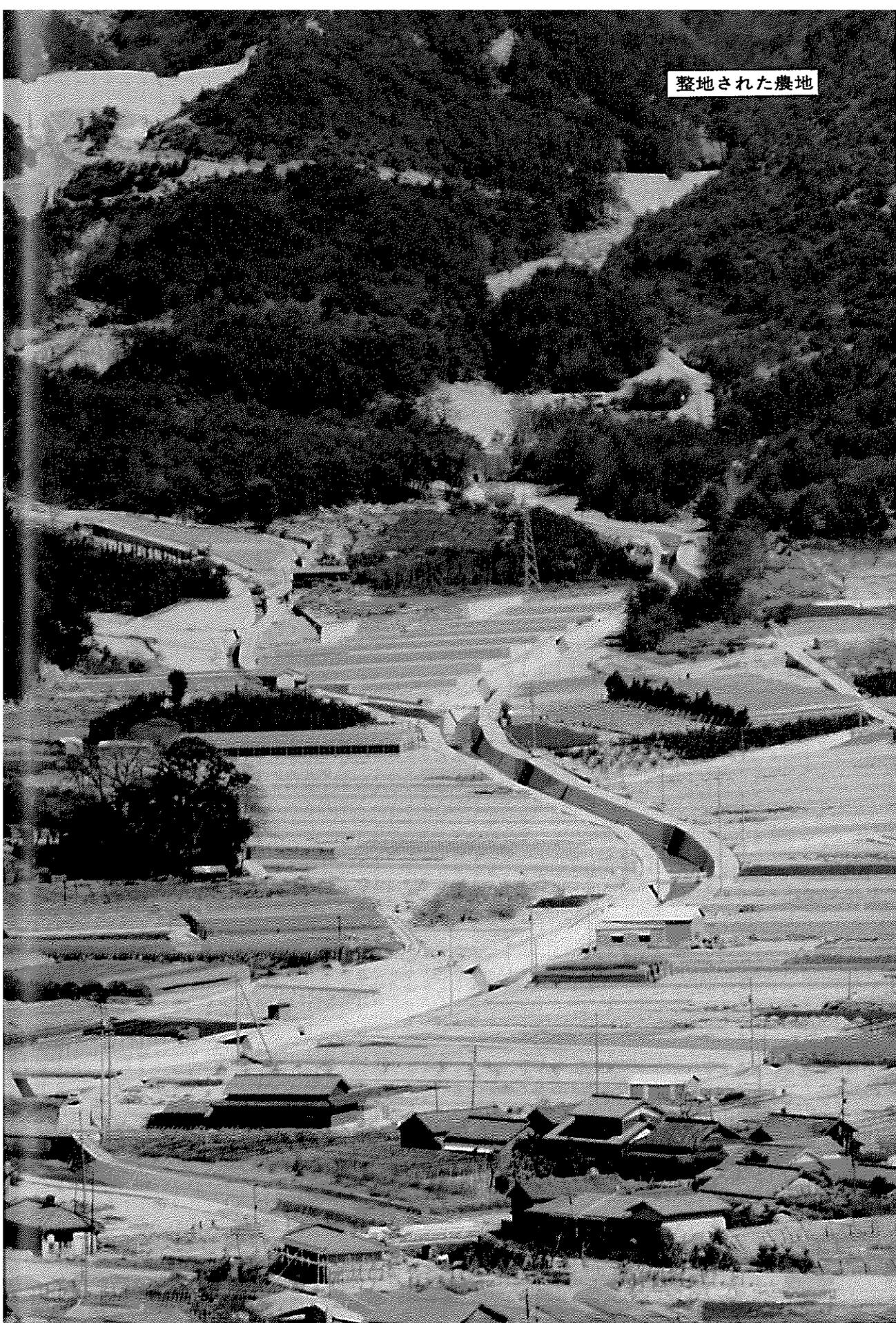


上地地区

何もかも変えてしまった土石流



整地された農地



池田町の概要

池田町は風光明媚な瀬戸内海国立公園の中心で、全国的に「オリーブ」の島・「二十四の瞳」の島として知られている小豆島の中央部に位置している。

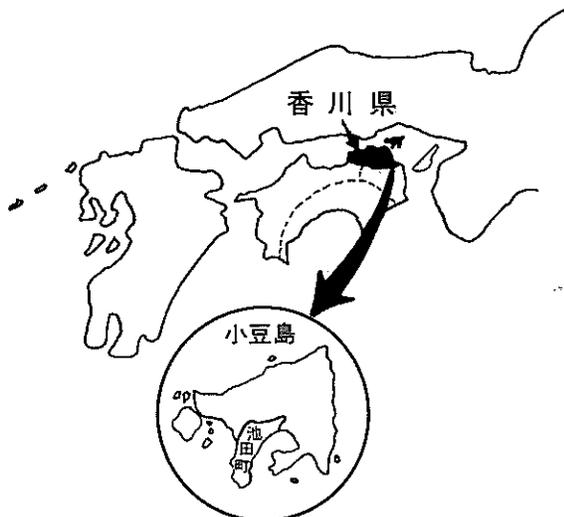
昭和29年10月1日に町村合併促進法により、池田町、二生村、三都村を合併し、新町名「池田町」として発足し、現在に至っている。

気候は瀬戸内気候が最も端的にあらわれており、年間平均気温は15度～16度くらいで、雨量も年間1,000ミリ前後である。そのような自然環境を生かし、足利幕府時代からの歴史をもち、全国的に有名な手延ソーメンの生産、そして、全国三大産地として知られる電照菊栽培を中心とした花卉栽培等、美しい自然に囲まれた「農業の町」として、明るい豊かな町づくりをめざしている。

地区別人口 (S53.6.1現在)

位置	面積
東経 134度14分	34.39km ²
北緯 34度28分	東西 7.06km
	南北 11.12km

主な産業		(S53年度)
電 照 菊	栽培農家	300戸
	栽培面積	55 ha
	生産金額	6億2千万円
ソ ー メ ン	生産者数	125戸
	生産量	13万箱(18kg入り)
	生産金額	9億2千万円



地区名	世帯数	人 口		計
		男	女	
浜 条	166	215	251	466
北 条	61	71	77	148
平 木	154	280	287	567
北 地	164	278	297	575
迎 地	103	198	210	408
上 地	145	277	305	582
段 山	3	3	4	7
東蒲生	88	116	166	282
中 "	49	72	94	166
西 "	80	141	153	294
入 部	141	185	197	382
中 山	146	262	286	548
室 生	166	272	295	567
二 面	151	240	266	506
東 浦	51	91	99	190
吉 野	91	156	164	320
蒲 野	92	133	144	277
南蒲野	78	121	117	238
神 浦	95	153	187	340
計	2,024	3,264	3,599	6,863

(住民登録人口)

災害の発生

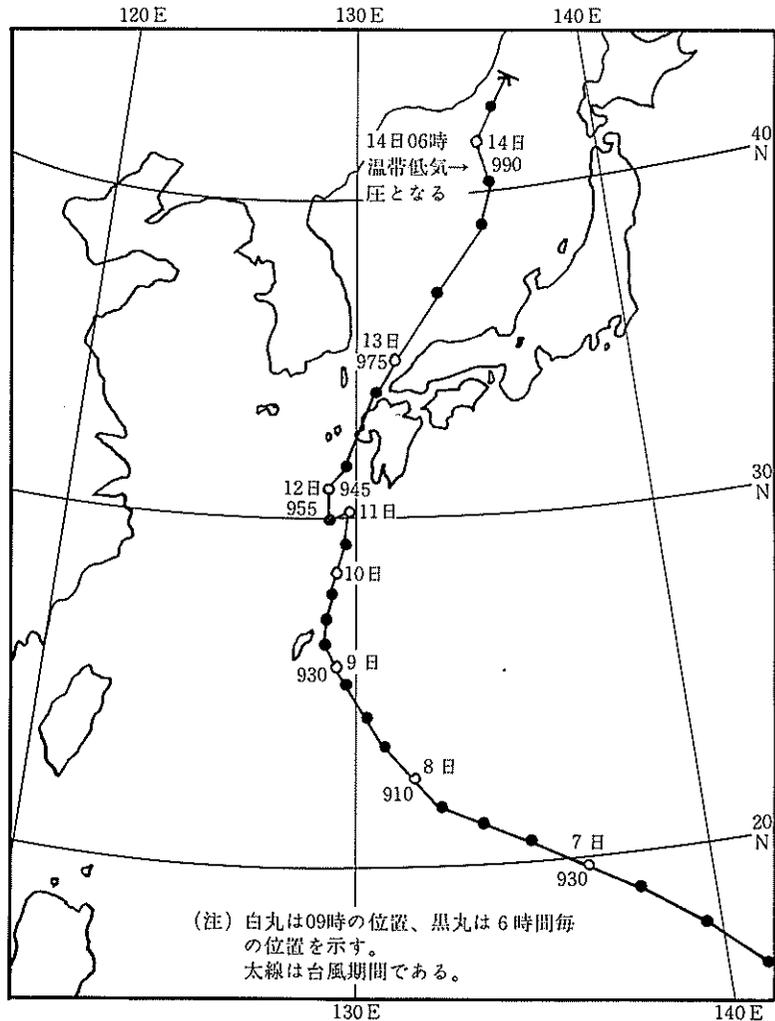
【台風17号の概況】

昭和51年9月3日21時にカロリン群島東部で発生した熱帯低気圧は、4日15時に台風17号になった。その後、次第に発達しながら北西へ時速30kmで進み、8日9時頃にもっとも発達し、中心気圧910ミリバール、最大風速60メートルの非常に強い大型台風になった。

大型の強い勢力をもった台風17号は、北西進を続けたが、次第に速度がおそくなり、9日には沖繩奄美大島を暴風圏内に巻き込み、10日18時頃から12日13時頃まで鹿児島島の南西海上に停滞した。この停滞により、四国地方は長時間にわたって大雨が降り続いた。

台風が停滞した直接的な原因としては、台風の北上中に偏西風波動の状態が加わって、太平洋高気圧が異常に発達したからと思われる。この太平洋高気圧が12日になって大陸からの強い気圧の谷の東進によって後退しはじめ、これにともなって台風はやっと北上した。そして、13日午前1時40分に長崎市附近に上陸し九州南部を縦断して午前5時頃に玄海灘をぬけ、日本海を北東進した。

台風17号の経路図



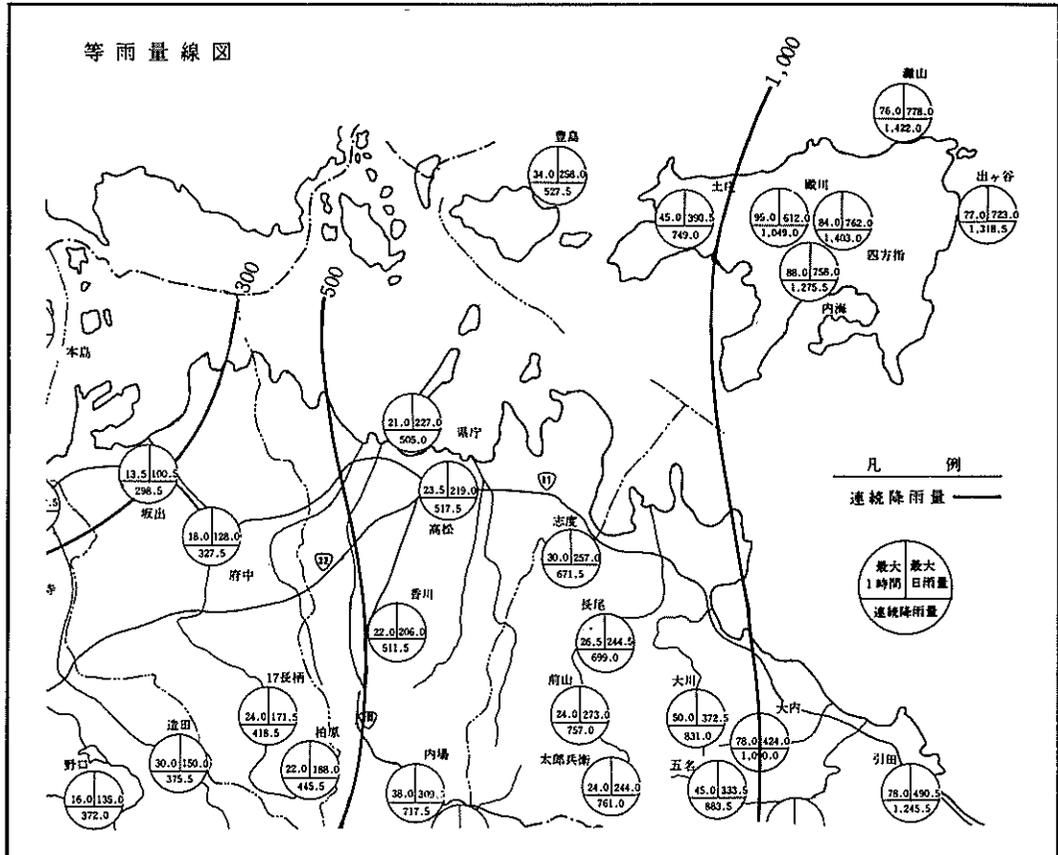
【降雨の状況】

四国地方は、9月8日から13日まで6日間という長時間にわたって記録的な大雨を観測した。これは、九州南西海上に約30時間近く居坐った台風17号の影響によるものである。台風から送りだされる外側の雨バンドは四国へ指向し、これに9日から日本列島沿いに停滞した前線の作用も加わって、四国地方へ大雨を降らせたのである。

台風が奄美大島付近に達した10日に入ると、台風から送りだされた帯状雲が四国地方で停滞し、以後12日の昼過ぎまで60時間あまりにわたって、四国東部と中部に大雨を降らせた。特に11日には池田町（殿川ダム観測）で日雨量 552mm、最大時間雨量95mm（20時～21時）を記録した。

すなわち、この大雨の特徴は、台風が停滞したのと適当な位置に停滞前線が居坐ったため大雨のパターンが何日も続き、未曾有の大雨を記録したことである。特に、年間雨量が 1,000mm前後というこの地域に、わずか6日間でそれを上まわる雨量が降ったことである。

県下の雨量分布図



県下の雨量状況

日界0時(単位:mm)

市町名	観測所	8日	9日	10日	11日	12日	13日	合計
引田町	引田	68.0	128.5	383.5	335.0	297.0	33.5	1,245.5
白鳥町	福栄	54.0	117.0	284.0	310.0	298.0	21.0	1,084.0
大内町	大内ダム	47.5	100.0	235.0	366.5	317.5	22.5	1,089.0
大川町	大川ダム	62.0	52.0	140.5	260.0	303.0	13.0	830.5
志度町	志度	26.0	25.0	134.0	222.0	230.5	25.0	662.5
長尾町	前山ダム	49.0	30.0	160.0	230.0	246.0	24.0	739.0
高松市	県庁	45.0	23.0	124.0	127.0	171.5	15.0	505.5
塩江町	内場ダム	52.5	32.5	176.0	223.5	189.0	34.5	708.0
綾上町	長柄ダム	57.0	19.0	111.0	92.5	118.0	21.0	418.5
坂出市	府中ダム	41.0	25.5	84.5	59.5	105.0	12.0	327.5
丸亀市	本島	34.5	37.5	88.0	71.5	84.0	3.0	318.5
琴南町	勝川	42.0	13.5	75.0	73.0	113.0	43.0	359.0
善通寺市	善通寺	47.5	35.5	103.5	94.5	140.5	5.5	427.0
詫間町	詫間	0	60.0	72.5	54.0	82.5	2.0	271.0
観音寺市	観音寺	42.5	61.5	111.5	103.0	122.5	13.5	454.5
大野原町	五郷ダム	57.0	59.5	123.5	103.0	108.5	32.0	483.5

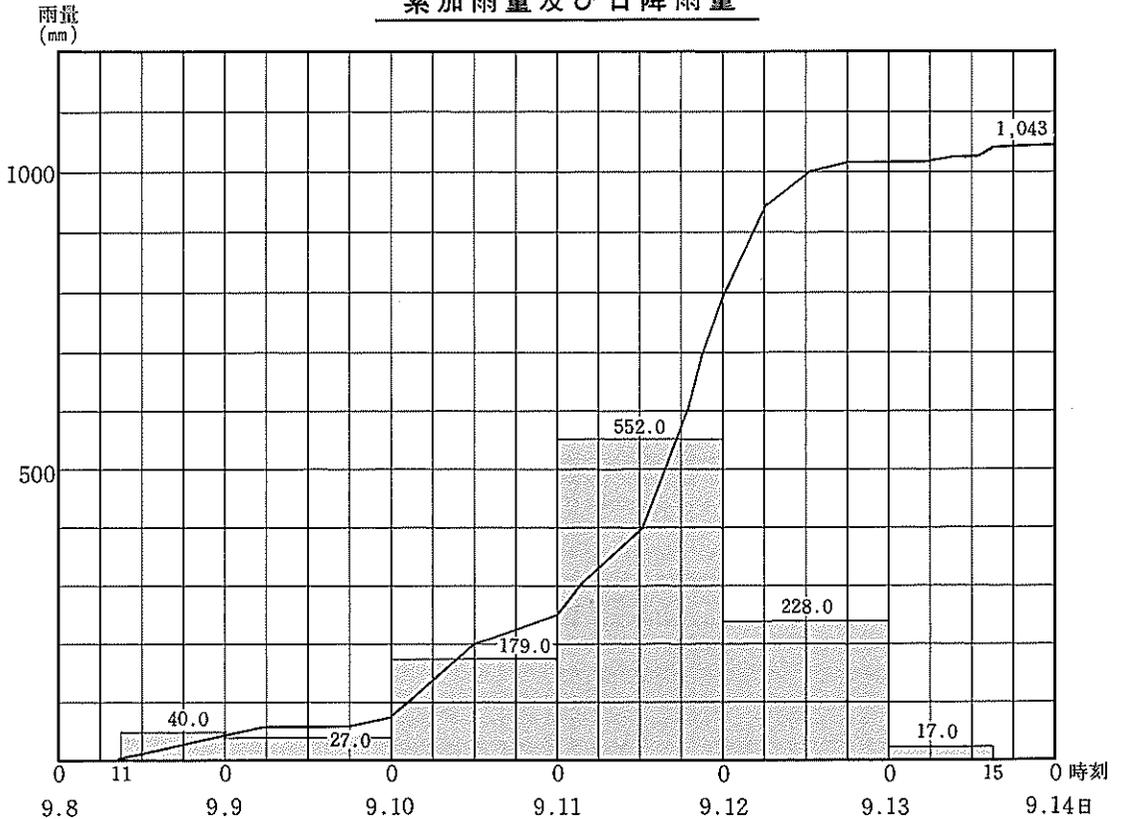
小豆島各地の雨量状況

観測所	所在地	連続総雨量			日最大総雨量(24時間最大)		時間最大雨量	
		雨量	降り始め日時	降り終り日時	雨量	時間帯	雨量	日時
土庄土木	小豆郡土庄町湖崎	749.0 ^{mm}	9月8日13:00	9月13日15:00	390.5 ^{mm}	9月11日12:00 9月12日12:00	45.0 ^{mm}	11日23:00 23:00
殿川ダム	小豆郡池田町中山	1,043.0	9月8日12:00	"	609.0	9月11日7:00 9月12日7:00	95.0	11日20:00 21:00
四方指	小豆郡池田町四方指	1,401.0	9月8日12:00	"	754.0	9月11日0:00 9月11日24:00	85.0	"
内海ダム	小豆郡内海町神懸通	1,275.5	9月8日11:00	9月13日17:00	758.0	"	88.0	"
福田支所	小豆郡内海町福田	1,287.5	9月8日11:30	9月13日15:00	723.0	9月11日1:00 9月12日1:00	77.0	11日8:00 9:00
灘山	小豆郡土庄町灘山	1,433.0	9月8日11:00	"	778.0	9月11日1:00 9月12日1:00	76.0	11日7:00 8:00
小豆島消防署 内海分署	小豆郡内海町安田	1,334.0	9月8日11:00	"	825.0	9月11日1:00 9月12日1:00	94.0	11日19:00 20:00
大部支所	小豆郡土庄町大部	1,340.0	9月8日13:00	"	770.0	9月11日11:00 9月12日11:00	80.0	11日13:00 14:00
岩ヶ谷	小豆郡内海町岩ヶ谷	不明 12日10時まで 1,325.5mm	9月8日10:00	不明	735.0	9月11日0:00 9月11日24:00	90.0	11日7:00 8:00

殿川ダム観測所降雨量調

月日	時刻												
	降雨	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1
9月8日	時間雨量												2.0
	累計雨量												3.0
9月9日	時間雨量	0	1.0	6.0	8.0	2.0	0	0	0	0	0	0	0
	累計雨量	40.0	41.0	47.0	55.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0
9月10日	時間雨量	8.0	7.0	6.0	4.0	0	32.0	26.0	11.0	3.0	9.0	4.0	2.0
	累計雨量	75.0	82.0	88.0	92.0	92.0	124.0	150.0	161.0	164.0	173.0	177.0	179.0
9月11日	時間雨量	31.0	11.0	17.0	4.0	9.0	9.0	6.0	30.0	12.0	6.0	3.0	3.0
	累計雨量	277.0	288.0	305.0	309.0	318.0	327.0	333.0	363.0	375.0	381.0	384.0	387.0
9月12日	時間雨量	27.0	6.0	13.0	46.0	16.0	19.0	17.0	14.0	15.0	10.0	2.0	7.0
	累計雨量	825.0	831.0	844.0	890.0	906.0	925.0	942.0	956.0	971.0	981.0	983.0	990.0
9月13日	時間雨量	0	0	0	0	0	0	2.0	2.0	1.0	2.0	0	0
	累計雨量	1,026.0	1,026.0	1,026.0	1,026.0	1,026.0	1,026.0	1,028.0	1,030.0	1,031.0	1,033.0	1,033.0	1,033.0

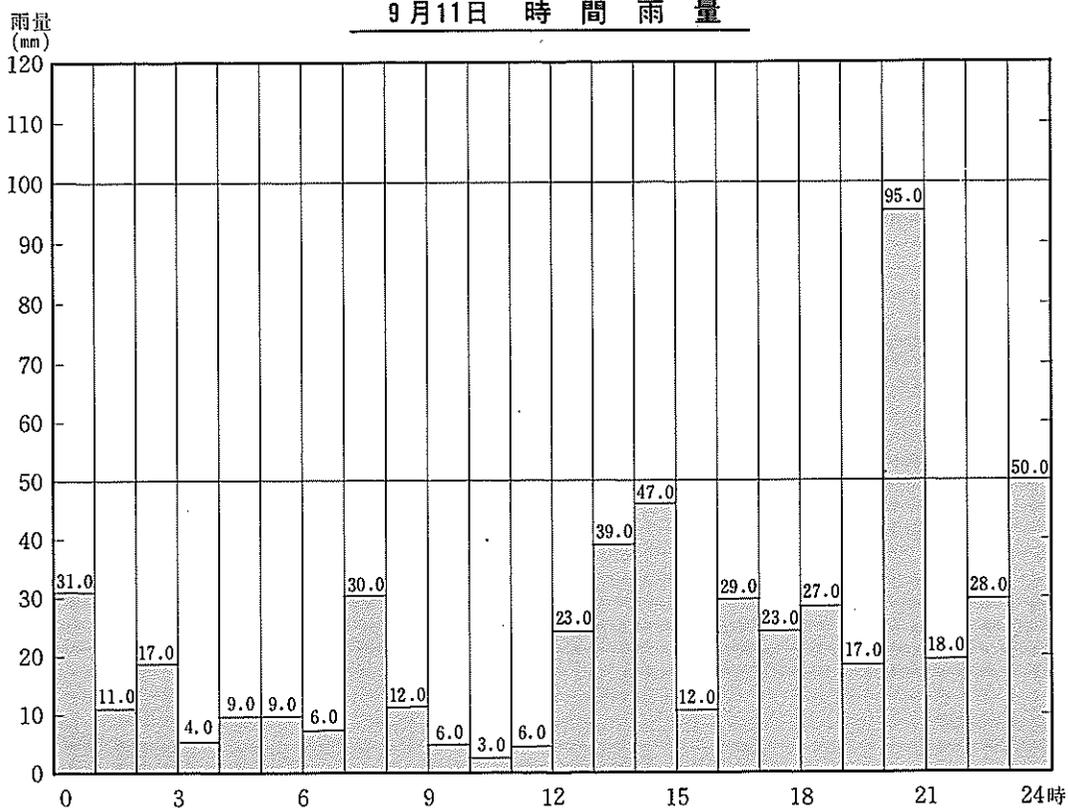
累加雨量及び日降雨量



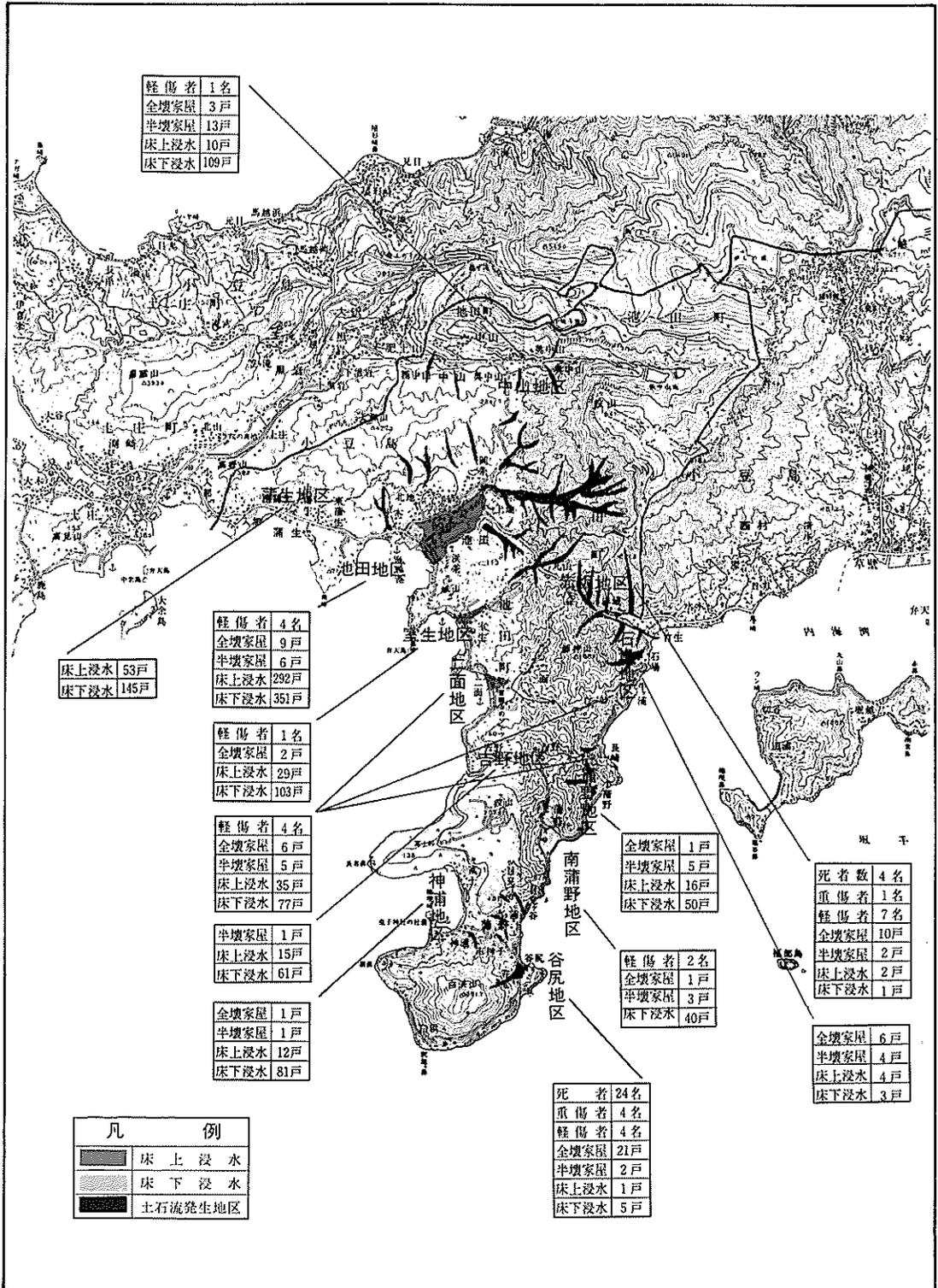
位置 小豆郡池田町中山 (単位mm)

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	日最大時間雨量 日降雨量
1	2.0	3.0	5.0	1.0	2.0	6.0	7.0	6.0	1.0	0	3.0	7.0
2	2.0	6.0	11.0	12.0	14.0	20.0	27.0	33.0	34.0	34.0	37.0	40.0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0	1.0	2.0	6.0
4	7.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	58.0	59.0	61.0	67.0
5	2.0	7.0	11.0	8.0	1.0	1.0	2.0	4.0	6.0	3.0	6.0	1.0
6	3.0	203.0	214.0	222.0	223.0	224.0	226.0	230.0	236.0	239.0	245.0	246.0
7	1.0	39.0	47.0	12.0	29.0	23.0	27.0	17.0	95.0	18.0	28.0	50.0
8	3.0	452.0	499.0	511.0	540.0	563.0	590.0	607.0	702.0	720.0	748.0	798.0
9	1.0	1.0	3.0	1.0	1.0	6.0	6.0	1.0	0	0	0	1.0
10	3.0	1,007.0	1,010.0	1,011.0	1,012.0	1,018.0	1,024.0	1,025.0	1,025.0	1,025.0	1,025.0	1,026.0
11	0	4.0	6.0	0	0							6.0
12	1,010.0	1,037.0	1,043.0	1,043.0	1,043.0							17.0

9月11日 時間雨量



池田町被災位置图



最悪条件ドッキング

居すわり豪雨 荒れ狂う

ウルトラ豪雨

四国軒並み1000ミリを突破



一直線に走った山津波

小豆島 谷尻地区

小豆島 谷尻地区 被害全容なお不明

四十時間後、犠牲確認

悲しみ越え黙々と復旧作業

元気な声 また耳元へ

小豆島 悲しみに沈む追族

敬老の日

祝福するはずが あまりにもむごい

老人16人を奪った山津波

民家を根こそぎ

むき出し鉄砲水の恐怖

貯金箱で音立てて亡命

じっと我慢36時間

早く掘り出して

き災害救助法

家の下敷き姉妹かる

池田町・谷尻

この下に父母や子が

泥の次々遺体

あかり新たな悲しみ

金島に新たな悲しみ

小豆島 谷尻地区

各所に断層・割れ目

避難準備する地区も

ふえる犠牲者、最悪事態に

500メートル

変わる

兵庫一宮危険避け

遅れる救援 いらだち

最悪条件ドッキング

ウルトラ豪雨

並み1000ミリを突破

生き埋め

一昼夜も

舟で給食給水

自給自足のせいで、怒る住民

集中豪雨

また起き

小豆島を救え

寄金そくそく

一救援活動急ピッチ

生活機能を回復

悲し、次々に遺

小豆島 寸断道路を



写真 各地の

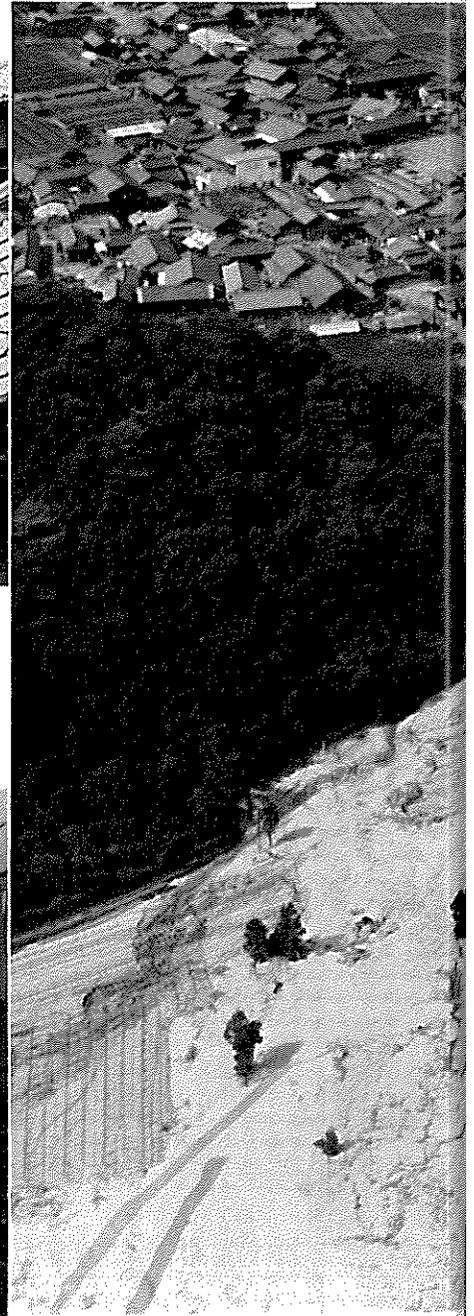
池田地区

◀川のようになった道路
(浜条)



▲池田大川の氾濫により倒れた家屋 (迎地)

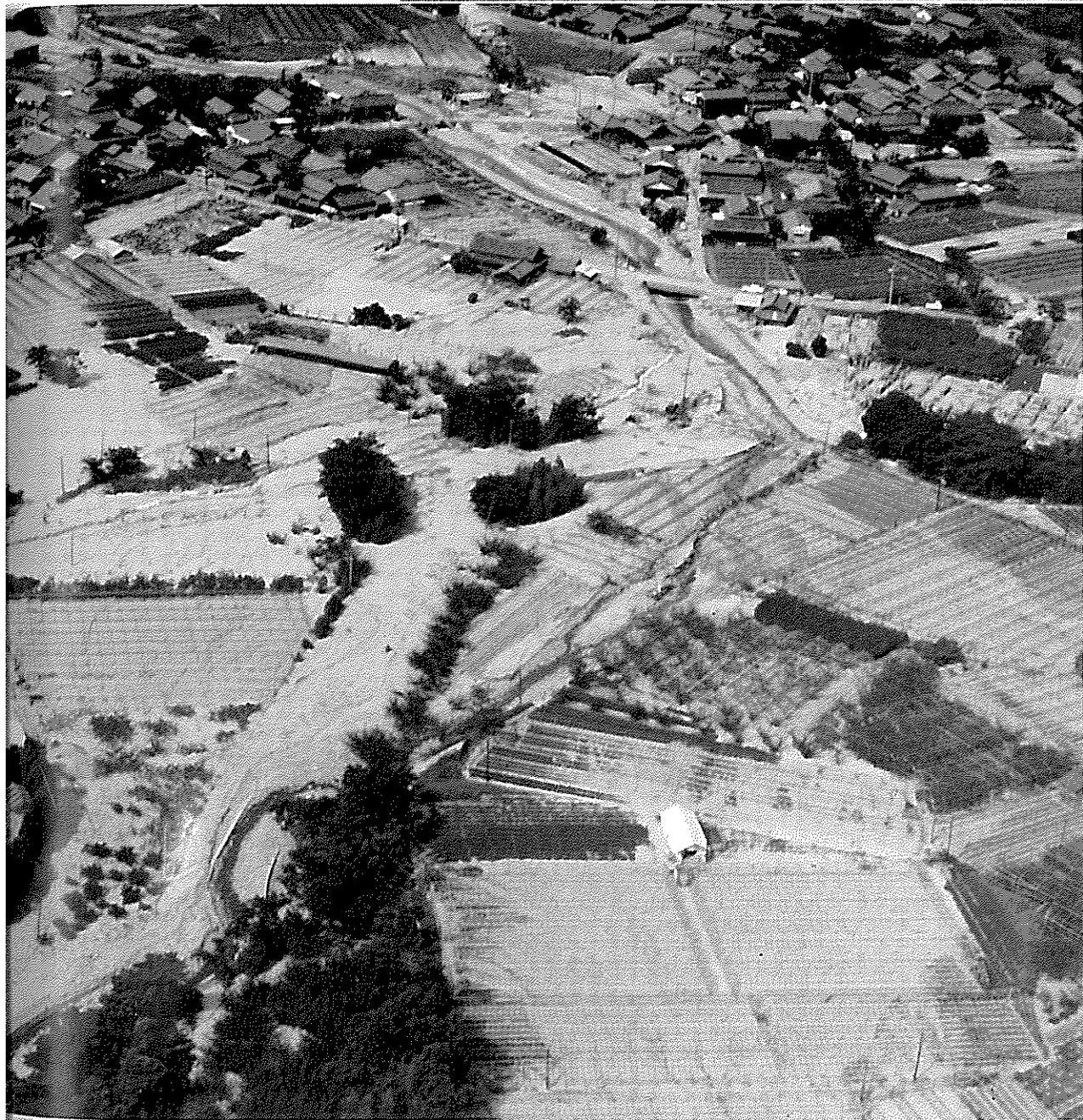
道路の陥没 (迎地)

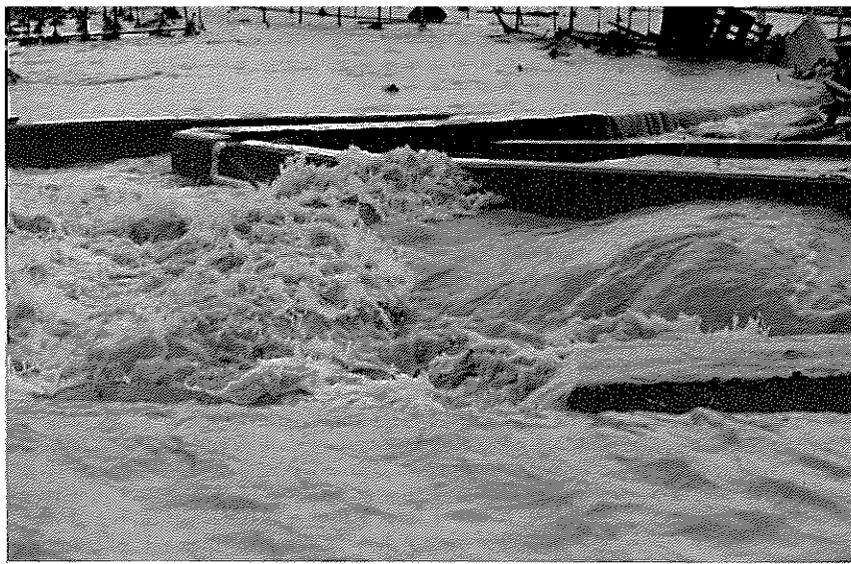


で見る 被害状況

畑と道路の区別もつかない▶
(迎地)

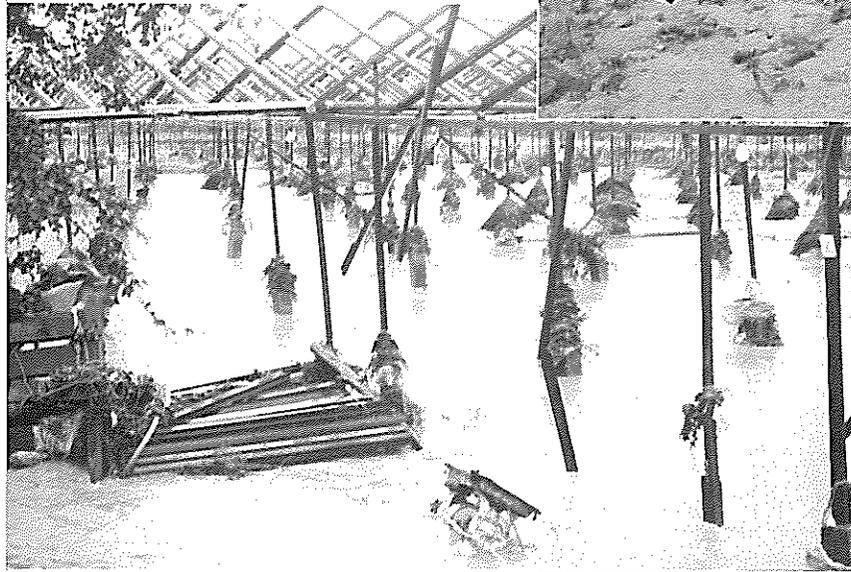
土砂流により田畑が埋った信谷附近
▼
(上地)





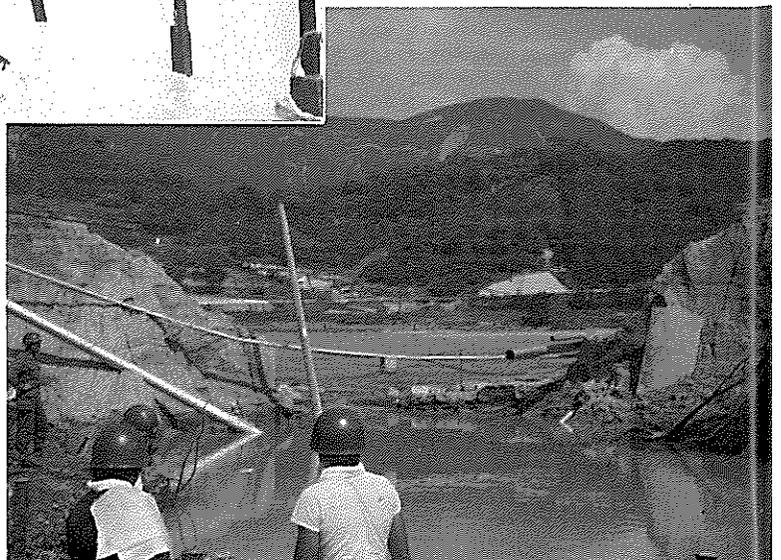
◀ 菊畑を濁流が

石・石・石▶

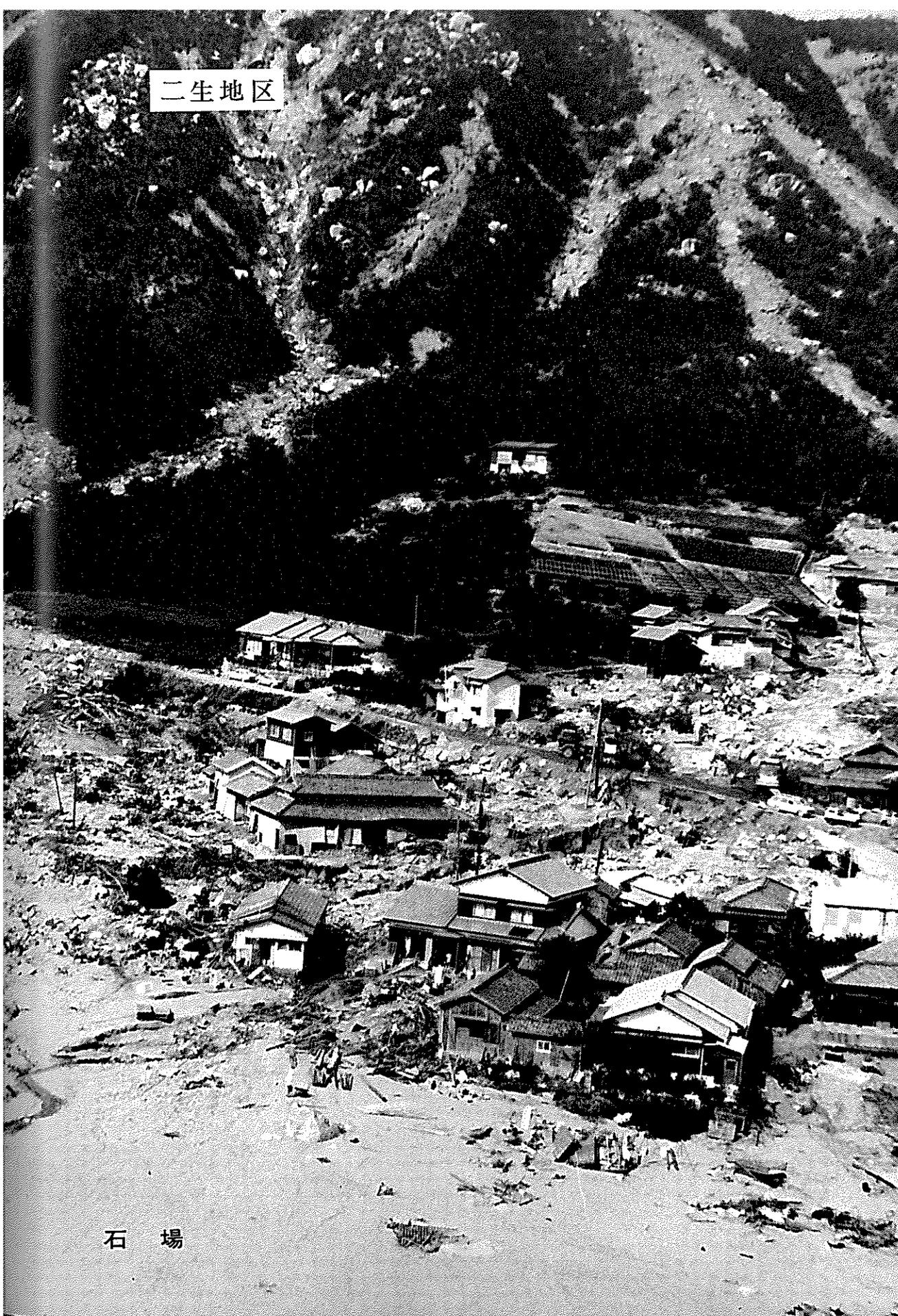


◀ 無残な電照菊のハウス

池田大池決壊▶

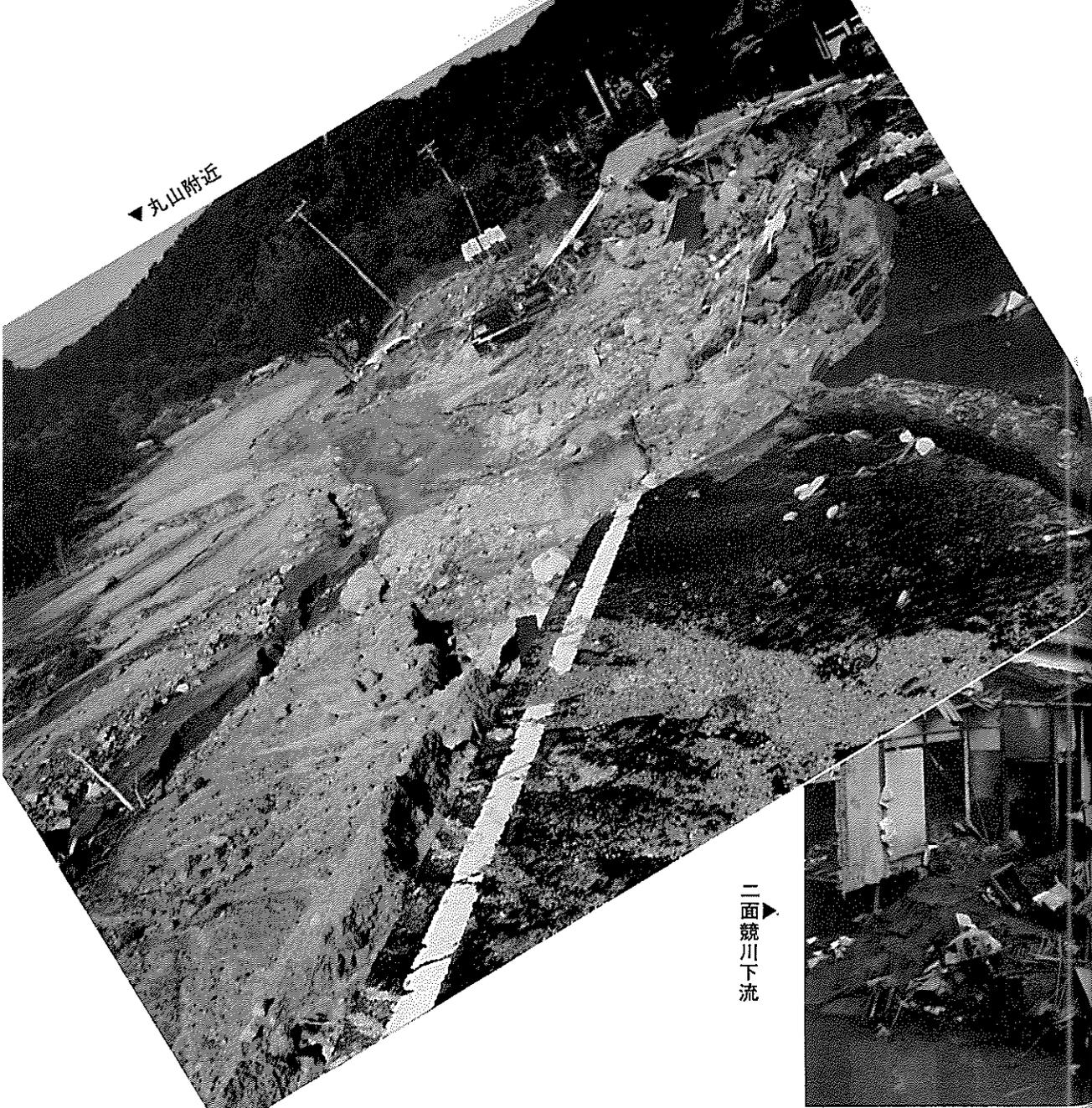


二生地区

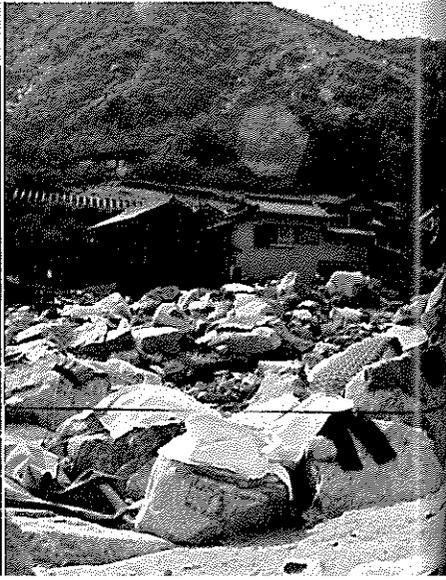
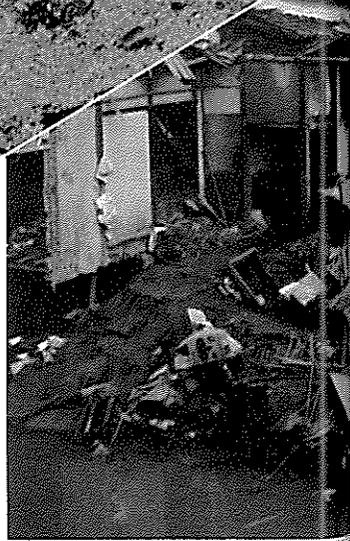


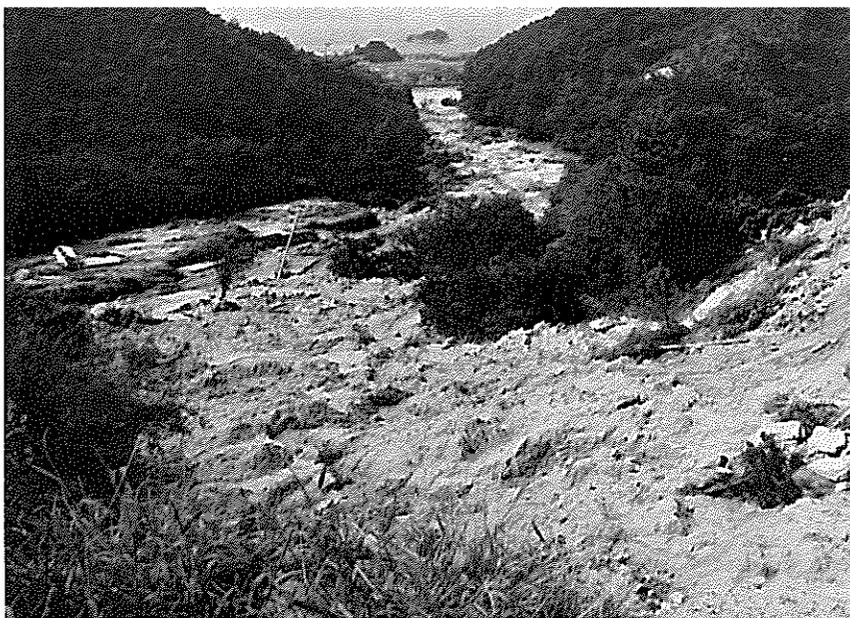
石 場

▼丸山附近



▶二面競川下流

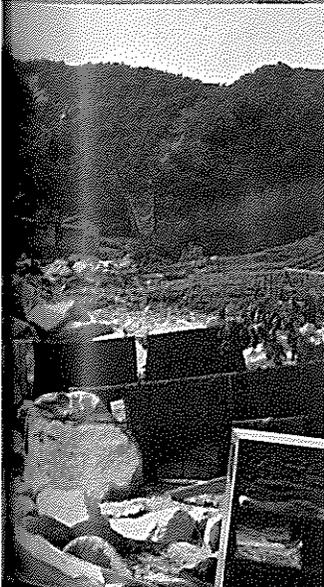


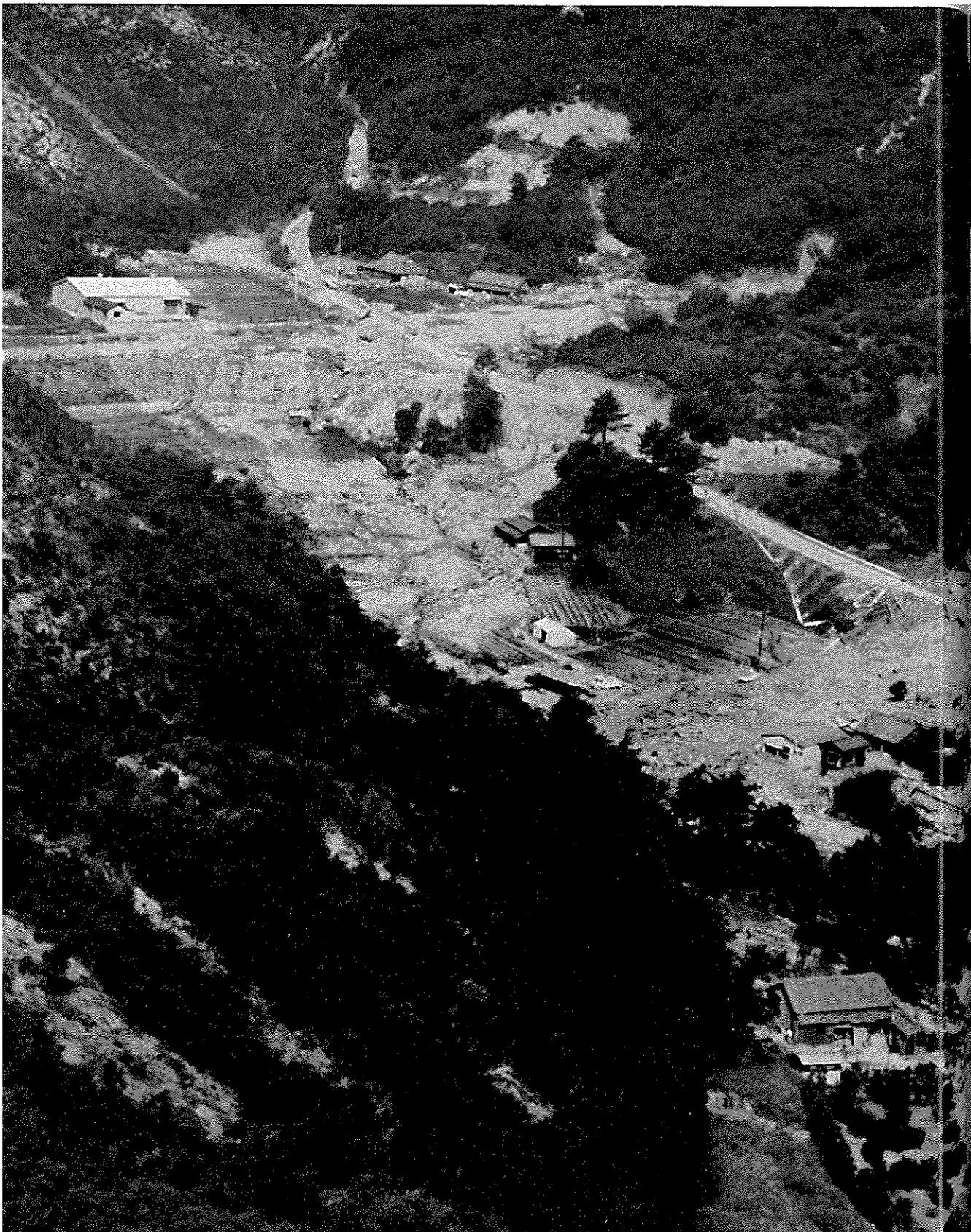


丸山附近



石の洪水（石場）





赤坂地区

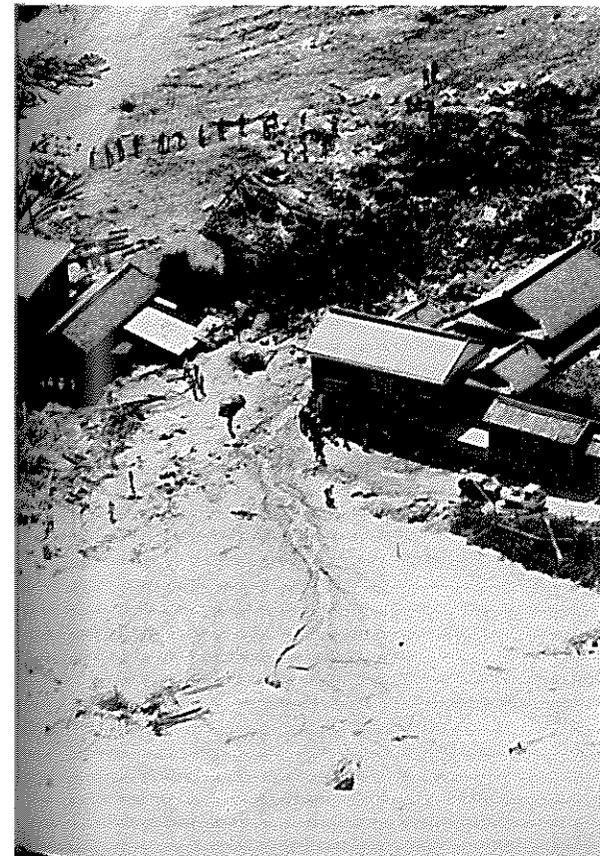
三都地区

上空から見た谷尻の状況





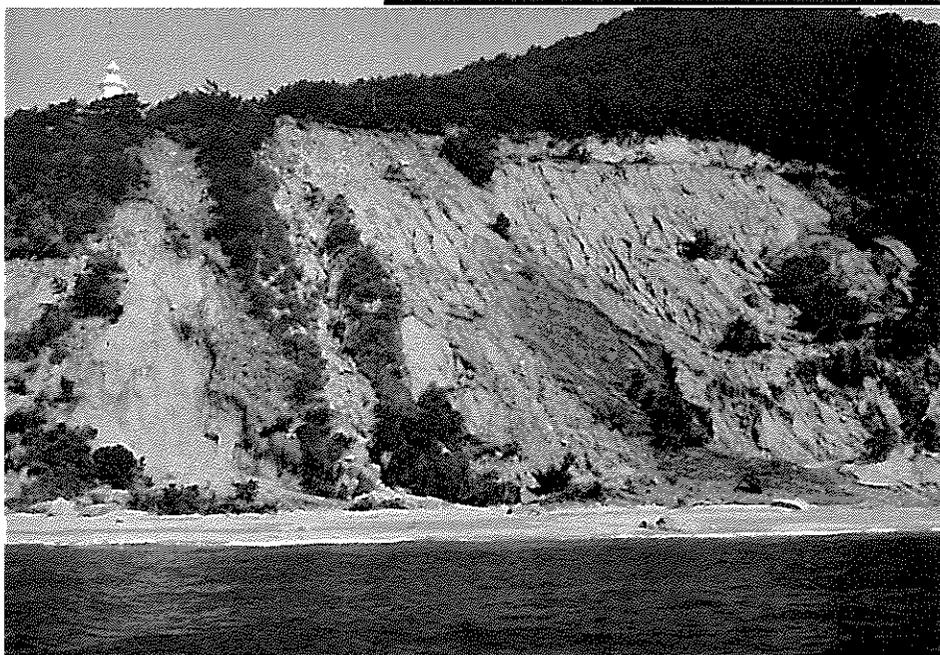
すべてを押し流した土石流のすごさ



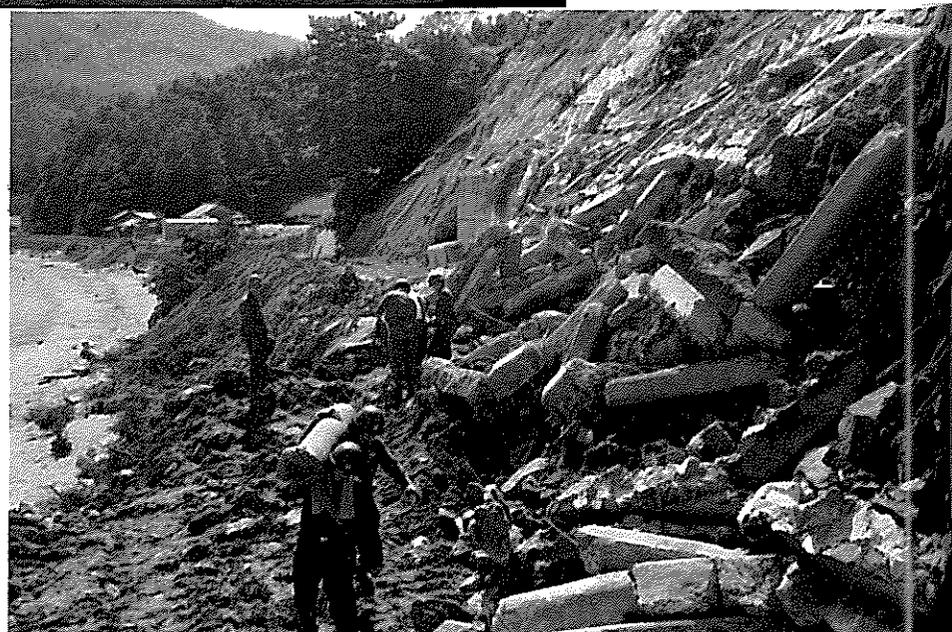
蒲野石場線▶



◀ 白浜燈台



▶ 目見ヶ谷



中山地区

昌永橋附近 ▶



奥中山線の被害



災害発生状況

1. 発生の場所 池田町全域

2. 発生の日時 昭和51年9月8日～9月12日

3. 発生の概況

昭和51年9月4日15時に発生した台風17号は、大型の勢力を保ちながらゆっくり北上してきた。しかも、9月10日18時頃から12日午前3時頃まで鹿児島島の南西約250キロの海上に停滞したまま動かなくなった。このため、台風の東側にあたる香川県は南の湿った空気が流れ込み県内全域に記録的な豪雨をもたらした。

特に、池田町では9月8日から降り始めた雨は10日午前4時30分大雨洪水警報が発令された後、午前5時から午前7時までに58ミリの降雨を記録、11日にはいつてからは時間雨量20ミリをこえる降雨が断続的に降り、12時から15時までに23ミリ、39ミリ、47ミリと集中的な豪雨となり、各地で山崩れ、河川の氾濫により被害が発生、その後も20時から21時にかけては時間雨量95ミリというおどろくべき降雨を記録した。すなわち9月11日、1日だけで522ミリという、年間雨量の約半分近くの降雨をもたらし、池田大池の決壊、谷尻地区の山津波など池田町全域にわたり、かつてない大きな被害を与えたのである。

4. 町災害対策本部の記録

月 日	時 間	経 過	備 考
9月8日(水)	18時30分	大雨注意報発令	○消防団員 消防署池 田分署員 の水防活 動はじま る。
9月9日(木)	18時	大雨洪水注意報発令	
9月10日(金)	4時30分	大雨洪水警報発令 各課長及び水防本部付職員非常招集	
	5時30分	池田町水防本部設置 被害情報入り始める	
	7時50分	目見ヶ谷にて山崩れ発生 吉野～神浦間は出水のため車輛通行不能	
	11時30分	県道蒲野石場線土砂崩れ発生(1ヶ所) 町道谷尻白浜線土砂崩れ発生(4ヶ所)、決壊(1ヶ所)	
	17時	水防本部パトロール隊を編成、町内をパトロール	

9月10日(金)	19時10分	谷尻吉田他十次宅裏の畑崩れる	
	19時50分	北条地区へ土のう積行う	
9月11日(土)		各地区より被害発生の報告多数あり	
	2時10分	百尋地区住民東浦公民館へ避難始める	
	4時40分	池田大池の増水による避難準備を放送	
	5時30分	池田大池の増水による避難予告	
	6時55分	香川県災害対策本部設置(小豆事務所に現地対策本部設置)	
	7時30分	三都郵便局浸水	
	8時10分	吉ヶ浦地区山崩れ	
	8時50分	町道日陽線(二面)土砂崩れにより通行不能 競川(二面)一部決壊	○小豆島各 地で被害 続発
	9時	県知事小豆島へ陸上自衛隊(善通寺)の災害派遣要請	
	10時15分	春日川(吉野)約20m石積崩壊の連絡あり	
	11時30分	浜条地区床上浸水の被害出始める	
	13時30分	平木地区一部土砂崩れ	
	14時15分	池田大川危険状態	
	14時30分	石場地区住民、竹生公民館に避難する	
	14時35分	池田大池危険状態のため附近住民へ避難命令指示	
	14時45分	池田大川沿線住民への避難命令 (池田町公民館、池中体育館へ避難開始)	○殿川ダム 放流開始
	15時05分	室生大池危険状態のため池田公民館二生分館に避難するように指示	○室生・南 蒲野・上 地を中心 に自治会 として災 害応急対 策を展開 (町対策本 部と連絡 調整)
	15時10分	石場地区住民内海町西村のオリーブ丘に避難	
	16時30分	池田町災害対策本部設置	
	19時20分	オリーブ丘に避難していた人は星城小学校へ避難する	
	20時10分	室生赤坂地区で土石流発生	
	20時30分	県知事は給水、救護物資輸送のため海上自衛隊要請	
	20時55分	池田大池危険状態のため、まだ避難していない人は、ただちに避難するように指示	
	21時	池田大池決壊(下流付近の家屋はほとんど床上浸水)	
	21時10分	役場庁舎浸水	
	23時	池田大川寸断状態	
	23時20分	谷尻地区で土石流発生	
9月12日(日)		〈谷尻地区、赤坂地区を中心に死者、行方不明者、負傷者、家屋の全壊、半壊、床上、床下浸水、道路の決壊	

9月12日(日)		農地の流失等本町未曾有の大被害の報が逐次災害対策本部へ… 死者行方不明者 谷尻地区 24名 赤坂地区 4名 等々…… >	
	1時	自衛隊派遣要請	○早朝より
	4時55分	平木地区土砂崩れにより家屋に被害発生との連絡有 (全壊3戸、半壊7戸)	停電及び
	7時	北地地区住民に池田中学校へ避難指示	電話回線
	9時20分	谷尻地区で山津波のため行方不明者多数の悲報有	故障のため
	13時45分	陸上自衛隊谷尻地区へ行方不明者救出の出動(高松を出発)との連絡有	連絡等に支障有
	14時20分	室生峠の県道小豆島循環線は寸断され通行不能	
	21時	県災害対策本部救援物資の輸送計画協議	
	21時45分	建設省は9月12日18時30分非常災害対策本部を設置した旨連絡有 ※対策会議、本部長(町長)以下班長(各課長)までの会、以後連日連夜開催し対策を練る ※遺体発見収容、谷尻地区6名、赤坂地区2名	
9月13日(月)	8時	自衛隊谷尻地区、赤坂地区へ出動(70名)	
	12時30分	大雨洪水警報解除 県災害対策本部長(知事)小豆島へ現地調査に出発	
	15時	台風は隠岐島の北90kmへ去り、四国地方はほとんど降雨はなくなる 警察機動隊、消防団員出動 ※遺体発見収容 谷尻地区 6名 赤坂地区 1名	
9月14日(火)	9時	町議会全員協議会	
	10時	診療船「さぬき丸」被災住民の診療を始める。	
	14時	避難所の一部解散	
	16時30分	陸上自衛隊小豆地区増援部隊現地へ向う (隊員600名、車両65台) 自衛隊、警察機動隊、消防団員出動 ※遺体発見収容 谷尻地区 3名	
9月15日(水)	9時20分	県災害対策本部給水船派遣、救援物資届く	
	16時30分	石場、牛ヶ浦地区道路ほぼ復旧	
	17時30分	県河川課員、被害状況調査に来町 警察機動隊、消防団員出動	

9月16日(木)	12時20分 19時10分	<p>※遺体発見収容 谷尻地区 1名</p> <p>政府調査団小豆島を視察</p> <p>電気は小豆島全戸で復旧</p> <p>自衛隊、警察機動隊、消防団員出動</p>	
9月17日(金)		<p>県道三都港平木線ほぼ復旧</p> <p>自衛隊、警察機動隊、消防団員出動</p> <p>※遺体発見収容 谷尻地区 3名 赤坂地区 1名</p> <p>谷尻地区、赤坂地区民作業に従事</p>	
9月18日(土)		<p>自衛隊、警察機動隊、消防団員出動</p> <p>※遺体発見収容 谷尻地区 4名</p>	
9月19日(日)		<p>池田町の仮設住宅数内定</p> <p>自衛隊、警察機動隊、消防団員出動</p>	
9月20日(月)		<p>仮設住宅建設着工</p> <p>自衛隊、警察機動隊、消防団員出動</p> <p>自衛隊第8施設群午後より逐次撤収</p>	
9月21日(火)		<p>自衛隊、警察機動隊、消防団員出動</p>	
9月22日(水)		<p>自衛隊、警察機動隊出動</p>	
9月23日(木)		<p>建設大臣視察に来町</p> <p>警察機動隊、消防団員出動</p>	
9月24日(金)		<p>高松地方气象台より3名来庁</p>	
9月25日(土)		<p>谷尻地区遺体捜索</p> <p>小豆現地対策本部より17号台風相談業務打合会の連絡有</p>	
9月26日(日)		<p>仮設住宅(石場)入居</p> <p>※遺体発見収容 谷尻地区 1名(行方不明者全員確認)</p>	
9月27日(月)		<p>仮設住宅(谷尻)入居</p> <p>定例町議会(災害の状況、合同葬等)</p>	
9月28日(火)		<p>合同葬儀の準備</p>	
9月29日(水)		<p>台風17号災害死没者合同葬儀(於池田中学校体育館)</p>	
9月30日(木)		<p>家屋の全壊、半壊等被災者、遺族への見舞金について検討</p> <p>赤坂の仮設住宅建設着工 避難所収容を終る</p> <p>対策会議(今後の体制等について協議)</p>	
12月28日	12時	<p>災害対策本部を解除</p>	<p>10月1日からの記録は省略</p>

避難と救援活動



懸命の救出作業を行う自衛隊員

1. 避難の状況

9月8日から降り始めた雨は、10日から11日にかけて非常に激しくなり、各地区に大きな被害を与えた。住民の避難はその激しく降る雨の中を消防団員等の誘導によって各避難所へ避難を始めた。しかも、避難所では、だれもがこのような大災害を予測しえなかったので、停電、断水等、厳しい条件によって、大変不自由な生活を余儀なくされた。

しかし、その共同生活では、お互いに助け合い、はげまし合って過したことは、その後の災害復旧に大きな

力を与えたであろう。

地区別避難状況

(9月11日～9月14日まで)

月日 \ 地区	池田地区	蒲生地区	中山地区	二生地区	三都地区	計
9月11日	437 [△]	0 [△]	239 [△]	220 [△]	466 [△]	1,362 [△]
9月12日	1,014	0	183	322	512	2,031
9月13日	902	0	0	294	244	1,440
9月14日	521	0	0	183	152	856
計	2,874	0	422	1,019	1,374	5,689

(町本部に連絡のあった収容人員のみ記載)

2. 炊き出しの状況

あのかかってない大災害にみまわれ、道路は土砂と泥水によって分断、水道は断水、電気はつかない、電話は不通となりお互いの連絡さえとれない状態の中で、9月11日から町内11ヶ所において、婦人会員、町役場職員その他各地区の人々によって炊き出し活動は行われた。

しかし、みんなが満足できるものではなかったであろう。

今回のこの体験を、今後に生かし、このような大災害の際には、自分達でせめて1日分の非常食をもって避難する準備が、常日頃から必要ではなからうかと思う。

炊き出し状況

(単位：食)

	朝	昼	夜	計
9月11日		1,203	1,303	2,506
9月12日	2,232	2,234	2,482	6,946
9月13日	1,935	1,907	1,897	5,739
9月14日	1,613	1,245	976	3,834
9月15日	750	826	741	2,317
9月16日	571	572	598	1,741
9月17日	337	364	328	1,029
9月18日	224	312	178	714
9月19日	211	377	296	884
9月20日	181	352	309	842
9月21日	188	262	196	646
9月22日	188	250	204	642
9月23日	197	185	185	567
9月24日	195	183	195	573
9月25日	195	195	183	573
9月26日	167	167	167	501
9月27日	86	86	86	258
計	9,270	10,718	10,324	30,312



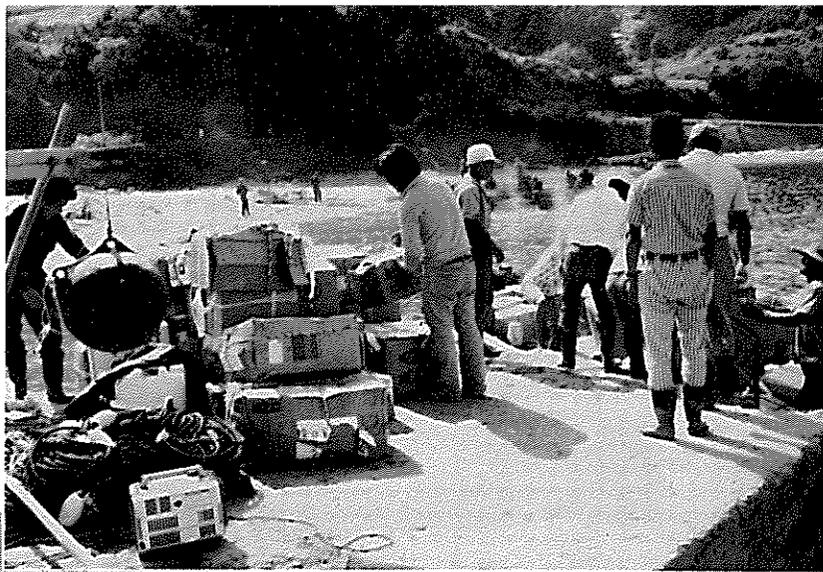
婦人会員らによる炊き出し活動

3. 自衛隊・警察機動隊・消防団の活動状況

災害後、直ちに救援救出及び災害復旧作業に派遣された自衛隊、警察機動隊、また地元消防団の昼夜をとわない連日の救援活動、遺体の搜索、道路の復旧等の力強い作業は、災害に打ちひしがれ、しずんだ気持の住民に対し、明日への活力とはげましを与えた。また不自由な生活にもかかわらず、黙々と作業に従事する隊員のみなさんに対し、私たち住民は言葉では、表わすことのできない感謝の気持でいっぱいだった。

	自衛隊	警察機動隊	消防団
9月9日	人	人	29人
9月10日			248
9月11日		35	530
9月12日		58	418
9月13日	70	71	232
9月14日	300	160	182
9月15日		186	101
9月16日	335	191	52
9月17日	665	191	57
9月18日	648	191	29
9月19日	636	40	65
9月20日	716	40	14
9月21日	150	40	
9月22日	150	40	
9月23日		40	
計	3,670	1,092	1,957

部隊名	人員	重機車両等	進駐日	転進撤収日
第8施設群	23人	45	9月11日	9月20日
	128	33	9月12日	9月20日
	136	40	9月14日	9月20日
山口第17普通科連隊	220		9月17日	9月20日
出雲特科第1大隊	80	20	9月17日	9月20日
対戦車隊	50	40	9月17日	9月20日
米子第8普通科連隊	220	20	9月18日	9月21日
広島第46普通科連隊	200	198	9月21日	9月22日
計	1,057	396		



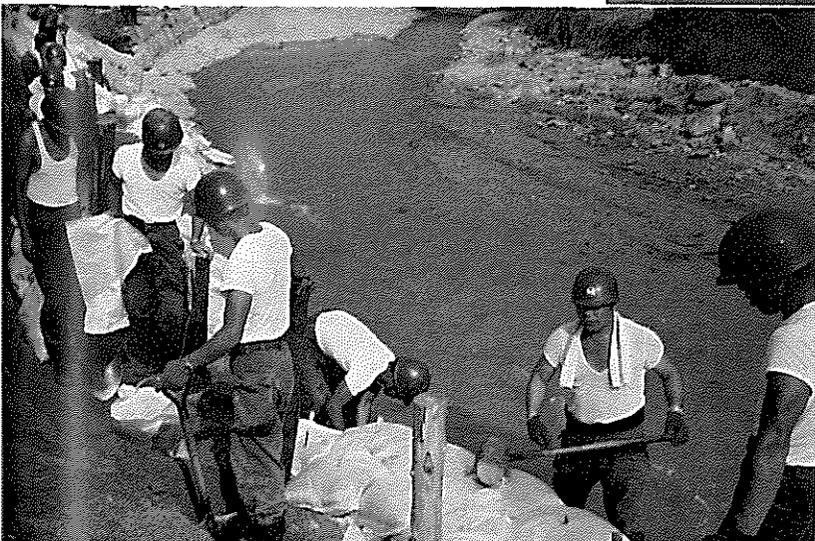
▼ 道路が不通のため海上からの救援活動

▲ 次々運びこまれる救援物資



▼ 災害復旧活動に汗を流す自衛隊員たち

▲ 海中での遺体捜索





被害の状況

1. 地区別被害状況

地区	調査区分	人的被害				建築物被害									
		死者	行方不明	重傷	軽傷	住家						非住家			
						全壊		半壊		一部損壊		床上没水	床下没水	全壊	半壊
						戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	戸数	戸数	戸数
池田地区	浜条						1	1			111	25		1	
	北条				1	2	1			4	9	45	5		
	平木					6	12	5	13	3	11	30	56	1	
	北地				1							14	111		
	迎地				2	1	1					46	52		
	上地							1	5	1		46	102		
小計					4	9	14	7	19	8	20	292	351	1	1
蒲生地区	東蒲生											19	34		
	中蒲生											10	16		
	西蒲生											13	42		
	入部											11	53		
小計												53	145		
中地区	中山				1	4	9	13	59			10	109	7	1
小計					1	4	9	13	59			10	109	7	1
二生地区	室生	4		4	5	12	37	2	9			33	104		
	二面				4	12	43	8	40	4	17	37	80	2	
小計		4		4	9	24	80	10	49	4	17	70	184	2	
三都地区	吉野							1	1	4	16	15	61		
	蒲野					1	4	5	16			16	50	1	
	南蒲野	24		4	6	21	74	5	16	6	25	1	45	2	
	神浦					1	1	1	2			12	81		
小計		24		4	6	23	79	12	35	10	41	44	237	3	
合計		28		8	20	60	182	42	162	22	78	469	1,026	13	2

2. 人的被害

死者	28名
重傷者	8名
軽傷者	20名

3. 建物被害

全壊家屋	60戸
半壊家屋	42戸
一部損壊家屋	22戸
床上浸水家屋	469戸
床下浸水家屋	1,026戸

4. 農林被害

区分	種別	箇所等	被害金額 千円
耕地	田	流埋没	5 ha
		冠水没	50 ha
	畑	流埋没	25 ha
		冠水没	60 ha
農林施設	農業施設	294 箇所	1,210,600
農畜林産	農作物	133 ha	631,356
	家畜	750 羽	880
	林産物	10 ha	2,000

5. 土木被害

区分	種別	箇所	被害金額 千円
土木施設	道路	135 箇所	780,000
	河川砂防	48 箇所	470,300

6. 水産被害

区 分	種 別	箇 所 等	被 害 金 額 千円
水 産	漁 港	4 箇所	100,000
	水 産 施 設	19 箇所	29,760
	漁 具	11 個	2,100
	漁 船	15 隻	5,030

7. 商工被害

区 分	種 別	箇 所	被 害 金 額 千円
商 工	製造・施設・その他	65箇所	450,000

8. 環境保健被害

区 分	種 別	箇 所 等	被 害 金 額 千円
水 道	上 水 道	1 箇所	6,000
衛 生	火 葬 場	1 箇所	200
	墓 地	3 箇所	15,500

9. 文教施設被害

区 分	箇 所	被 害 金 額 千円
幼 稚 園	2 箇所	333
小 学 校	3 箇所	2,682
中 学 校	1 箇所	3,532
そ の 他	2 箇所	3,500

10. 公共施設被害

区 分	箇 所	被害金額 千円
公 共 施 設	18 箇所	3.550
消 防 関 係	4 箇所	5.700

11. その他の被害

区 分	種 別	箇 所	被害金額 千円
そ の 他	山(崖)くずれ	190 箇所	584,000

被害総額

区 分	被害金額 千円
農 林 被 害	2,347,836
土 木 被 害	1,250,300
水 産 被 害	136,890
商 工 被 害	450,000
環 境 保 健 被 害	21,700
文 教 施 設 被 害	10,047
公 共 施 設 被 害	9,250
そ の 他 の 被 害	584,000
計	4,810,023

応急対策と防災対策

1. 堆積土砂・ゴミの排除

台風が去った後、町内の道路、田畑、河川、そして家の中まで土砂・ゴミ・ヘドロ等によって埋まり、一瞬にして無惨な姿と化した。

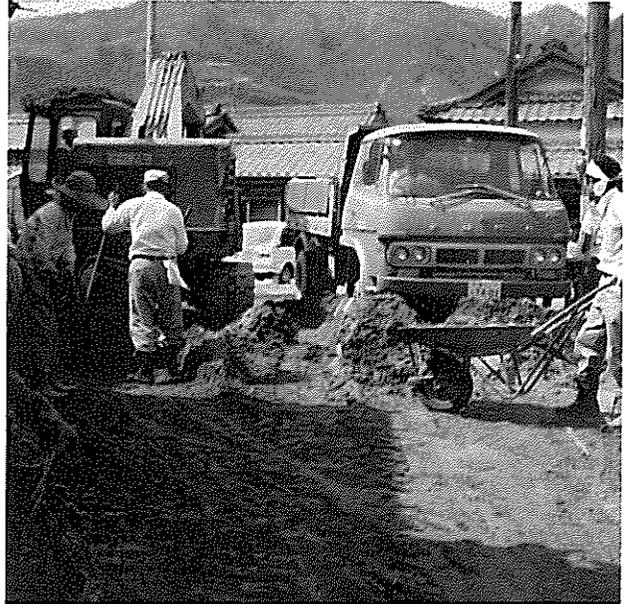
しかし、1日も早く復旧しなければと、住民の皆さん及び自衛隊を含め町外からの応援の方々の協力と援助によって取り除き作業が行われた。それらの土砂、ゴミは災害復旧工事により出される土砂とともに平木地区、谷尻地区を埋立て処理した。

埋立てた量は

平木地区 約152,000m³

谷尻地区 約71,000m³

合計約223,000m³にもなった。



▲ 土砂の取り除き作業をする住民

▼ 平木地区の埋立地



2. し尿処理対策

衛生上早急に処理しなければならないし尿については、町外からの応援、協力等により、9月30日までには、ほとんど処理することができた。

収集戸数 795戸 収集量 446,500ℓ

その内 処理船により海外投棄 377,370ℓ 土庄し尿処理場 68,130ℓ
 によって処理した。

し尿処理状況表

月日 区分	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日	9月22日	9月23日 ~9月30日	計
台 収集車台数	1	3	5	6	5	5	3	3	8	38
人 従事人員	3	9	15	18	15	15	9	9	24	114
戸 収集戸数	9	53	141	176	109	115	69	39	84	795
ℓ 収集量	7,056	18,836	91,998	106,480	57,276	66,286	36,180	17,370	45,018	446,500

3. 防疫対策

家屋への土砂の流入、浸水等によって衛生環境が非常に悪化していた。その上、時期的にも9月中旬ということで、食中毒、赤痢等の伝染病の発生が予想された。そこで、地区住民及び町外からの奉仕の方々等により、地区内の薬剤散布、井戸水の消毒、検査活動。また、保健婦による食生活、生活環境の防疫指導を行い、伝染病及び他の病気の発生子防に努めた。

予防機材

動力噴霧器 4台
 肩かけ手押 3台

使用薬品

消石灰 160袋(20kg入)
 クレゾール 420本(0.5ℓ入)
 オルソー防疫剤 60缶(18ℓ入)
 ハイクロン 5箱(16kg入)

予防活動状況

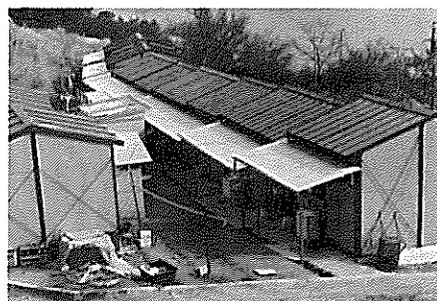
月日 区分	人 員	消毒戸数
9月16日	123人	351戸
9月17日	31	229
9月18日	57	241
9月19日	95	380
9月20日	6	60
9月21日	9	310
計	321	1,571

4. 住宅対策

全壊家屋60戸、半壊家屋42戸、その他町内のほとんどの家屋が被害を受けた。そこで、家屋を失い、明日からの生活に困惑している方々に対して、町内7ヶ所に44戸の応急仮設住宅を建設、入居していただいた。また、町内4ヶ所に30戸の災害公営住宅を昭和51年度、昭和52年度、昭和53年度の3ヶ年で建設し応急仮設住宅で不自由な生活をしている被災者の皆さんに入居していただいた。特に、谷尻地区、石場地区の住宅については、今後の災害に備えて、ピロティ方式とし、集会室もいっしょに設けている。

応急仮設住宅建設状況

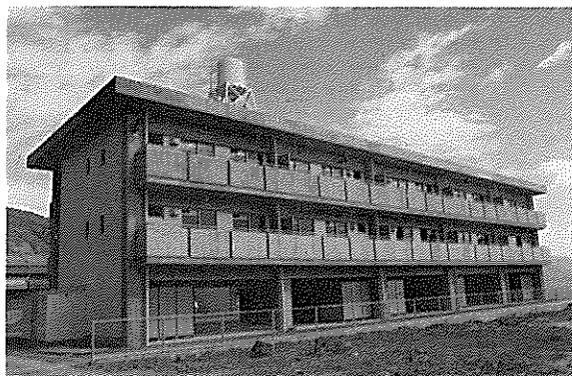
地区名	戸数	入居世帯数	入居年月日
池田	4戸	3戸	51. 10. 14
中山	4	3	51. 10. 16
二面	2	2	51. 10. 9
石場	8	6	51. 9. 27
赤坂	8	7	51. 10. 9
小蒲野	1	1	51. 10. 13
市神子	17	16	51. 9. 27
計	44	38	



建設された仮設住宅

池田町災害公営住宅建設状況

地区名	戸数	構造	規模	完成年月日
赤坂	8戸	簡易耐火2階	和室(6帖、4.5帖、3帖) K、浴室、トイレ	52. 9. 15
石場	6	中層耐火ピロティ方式	和室(6帖、4.5帖) 洋間(4.5帖)DK 浴室、トイレ	52. 10. 15
池田	6	簡易耐火2階	和室(6帖、4.5帖、3帖) K、浴室、トイレ	53. 3. 20
谷尻	10	中層耐火ピロティ方式	和室(6帖、4.5帖) 洋間(4.5帖)DK 浴室、トイレ	53. 7. 30
計	30			



谷尻地区の災害
公営住宅

5. 給水対策

水道施設の復旧の状況

数字は復旧率

地区名 月 日	池田	蒲生	室生	二面	東浦	吉野	蒲野	南蒲野	神浦	備 考 (給 水 車)
9月12日										
13日						66.7%				
14日	93.8%		100%	94.3%						給水期間(9/15~9/28)
15日		100%								○給水車 1日2回 1トン車1台 2トン車2台 (9/15~25)
16日										
17日										
18日					27.3%		26.8%			1日2回 2トン車2台 (9/26~27)
19日				100%			63.4%			
20日										1日2回 2トン車1台 (9/28)
21日							91.5%			
22日						100%				○給水 自衛艦による運搬 9月17日 9月20日
23日	96.6%							29.8%		
24日					81.8%			48.9%		
25日										その他、土庄町 からの運搬や、 本町の井戸水を 使用。
26日					100%		100%	83.0%	100%	
27日								100%		
28日										
29日										
30日										
10月1日										
2日	98.5%									
3日										
4日	100%									
5日										
6日										

6. 交通・通信・電気対策

道路通行制限解除の状況

路線名	解除日時	場所	解除内容
県道小豆島循環線	9月13日17時	土庄港～池田大池	大型車通行可能
	9月14日8時	池田大池～内海町竹生	普通車以下 但し夜間通行禁止
	9月26日17時	室生～内海町竹生	大型車通行可能 夜間通行禁止解除
県道三都港平木線	9月13日17日	平木～二面	普通車以下通行可能
	9月14日	吉野～蒲野	
		市神子～神浦	
	9月15日	二面～吉野	
	9月15日17時	蒲野～市神子	
	9月21日	平木～神浦	大型車通行可能
県道蒲野内海線	9月17日	内海町竹生～蒲野	普通車以下通行可能
県道神浦吉野線	9月14日	神浦～富士	
	9月22日	富士～吉野	
県道上庄池田線	9月14日	土庄町上庄～中山トンネル	大型車通行可能
		池田大池～薬師川	普通車以下通行可能
	9月24日9時	中山トンネル～薬師川	

電話の状況

日時	設置数	障害数	復旧数	り障数	復旧率
9.11 18時	1,923加入	118	0	118	0
9.12 "	"	269	0	269	0
9.13 "	"	309	0	309	0
9.14 "	"	428	7	421	1.6
9.15 "	"	429	131	298	30.5
9.16 "	"	429	255	174	59.4
9.17 "	"	429	333	96	77.6
9.18 "	"	429	362	67	84.4
9.19 "	"	429	429	0	100.0

電力の状況

区分	地 区	対象戸数	供給障害日時	復旧日時	障 害 の 原 因
電力	迎地、平木の一部	121 ^戸	9月12日 4時16分	9月12日17時05分	電線断線
"	上 地	130	9月12日 4時16分	9月12日18時50分	"
"	北地、上地の一部、室生の一部	180	9月12日 4時16分	9月13日19時15分	"
"	中 山	137	9月11日18時14分	9月12日11時35分	" 電柱到壊
"	中山の一部、小豆島ヴィラ	16	9月11日18時14分	9月13日21時30分	" "
"	東浦、室生丸山	55	9月11日 3時13分	9月16日11時00分	" "
"	室生、二面、長崎、小蒲野、蒲野、吉野	445	9月11日14時37分	9月14日20時30分	" "
"	二面の一部	37	9月11日14時37分	9月15日16時20分	" "
"	南蒲野、神浦	175	9月11日14時37分	9月17日15時05分	" " 電柱到壊流失

7. 教育対策

学校名 月 日	幼 稚 園						小 学 校					中 学 校
	池田	蒲生	中山	二生	三都	神浦分園	池田	蒲生	中山	二生	三都	池 田
10(金)	休園	平常	平常	平常	平常	平常	平常	平常	平常	平常	平常	神浦、南蒲野は休
11(土)		平常	休園	休園	休園	休園	休校	2時間授業	休校	休校	休校	休 校
13(月)		休園						休校				
14(火)		正常化	正常化					半日授業	正常化	半日授業		
16(木)	正常化			正常化			半日授業	正常化			神浦分園授業	
17(金)							正常化					半日授業
18(土)									正常化			
20(月)					正常化	正常化						
21(火)												
22(水)											正常化	正常化

8. 災害援護資金の貸付状況

貸付年月日	貸付金額				合計	
	350千円	500千円	850千円	1,200千円	件数	貸付金額
51年12月1日	20件	3件	6件		29件	13,600千円
12月7日	13	2		1	16	6,750
12月21日	1			1	2	1,550
12月22日	27	3		12	42	25,350
12月24日	1		1	1	3	2,400
12月26日	2			2	4	3,100
計	64	8	7	17	96	52,000

(災害援護資金制度)

◎世帯主がおおむね1ヶ月以上の負傷をした場合

- 損害が家財の $\frac{1}{3}$ 未満の場合 35万円
- 損害が家財の $\frac{1}{3}$ 以上の場合 70万円
- 住居が半壊した場合 85万円
- 住居が全壊した場合 120万円

◎世帯主に負傷がない場合

- 損害が家財の $\frac{1}{3}$ 以上の場合 35万円
- 住居が半壊した場合 50万円
- 住居が全壊した場合 85万円

◎特例 住居の全体が損壊か、もしくは流出し、またこれと同様と認められる特別な事情がある場合 120万円

◎期間 10年(うち3年据置) ◎利率 年3%(据置期間無利子)

◎所得制限(一世帯) 185万円

9. 防災建設課の設置

1日も早く災害復旧及び防災対策に全力を傾注するために、行政機構の改革を行い、昭和52年1月5日から新たに防災建設課を設置現在に至っている。

設置当時は職員数24名(内臨時職員6名)で構成、全力を上げ災害復旧事業を遂行。昭和53年度末までにはほとんどの工事を完了した。

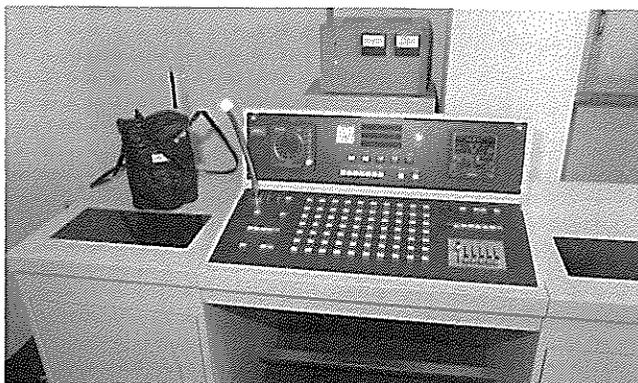


災害復旧事務を行う職員

10 広報・防災(行政)無線の設置

今回の災害を教訓に、非常の際における通信連絡体制を確立し、被害を最少限にいとめるために広報、防災(行政)無線を設置。

これにより、停電中にも役場から町内各地区に広報活動が可能、また、道路が分断、電話が不通の時にも無線により役場との通信連絡が行えるようになった。



行政防災無線配置図

◎ 親局 (基地局)

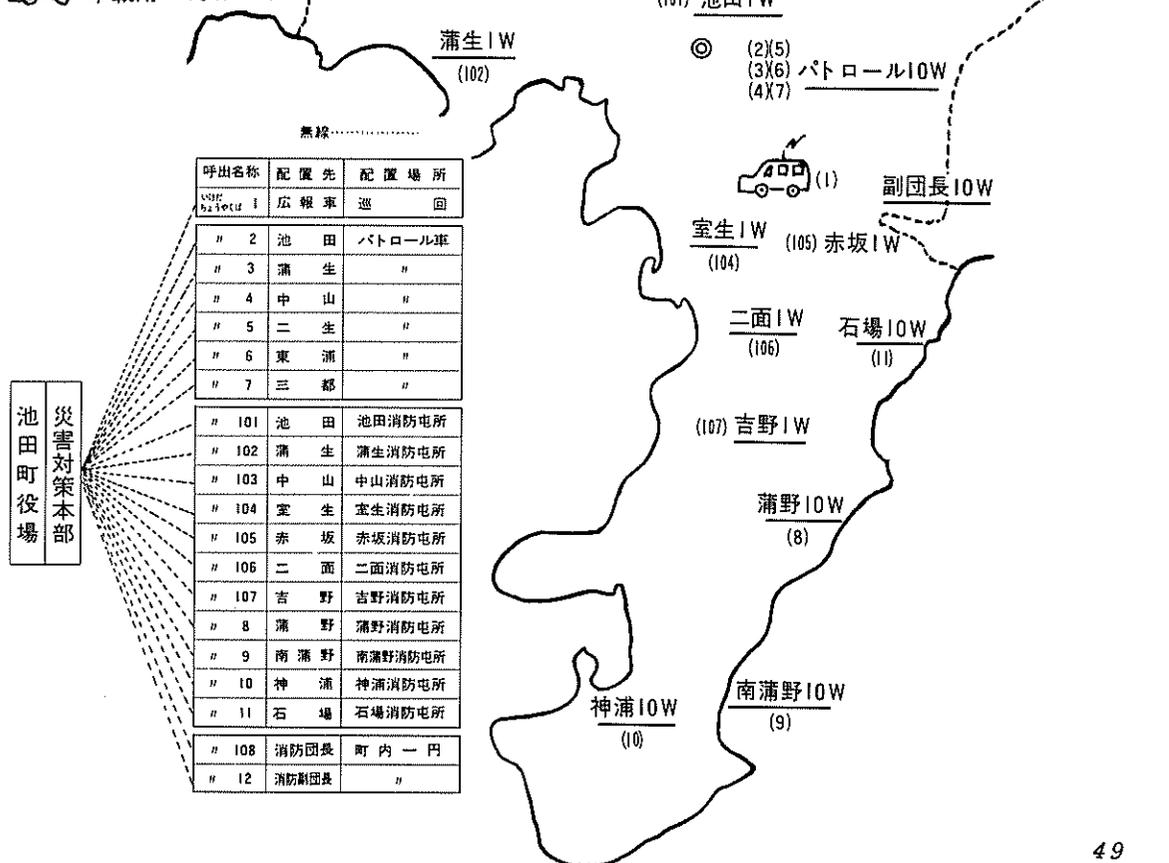
○ 移動局 10W = 11

1W = 8



車載用

10W = 1



11. 避難所予定施設

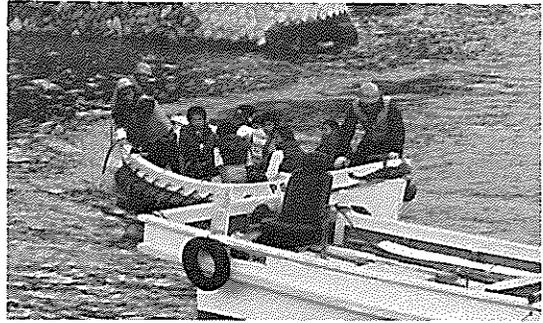
	避難場所				一時避難場所				
	避難所名	収容人員	呼出し 可能人員	電話番号	集落名	避難所名	収容人員	呼出し 可能人員	電話番号
入部	蒲生小学校	500	500	5-0007	入部	香川県双子浦職員寮	50	0	5-0441
						天理教聖踏分教会	100	0	5-0770
						森口道治氏宅	60	60	5-0659
蒲生	蒲生小学校	500	500	5-0007	西蒲生	西蒲生老人クラブ	30	0	呼出し 5-1579
					中蒲生	農協蒲生事業所	30	0	5-0226
					東蒲生	中東蒲生生活共同会館	60	30	呼出し 5-1377
						保安寺	60	0	5-0247
中山	中山小学校	400	400	5-0159	中山	中山小学校	400	400	5-0159
						西中山倶楽部	20	0	
						奥中山倶楽部	30	0	
池田	池田小学校 池田中学校	1,200	1,200	5-0028 5-0066	浜条	池田保育所	80	50	5-1433
						亀山八幡宮社務所	70	0	5-0205
					平木	栄荘	70	70	5-0334
	池田町農業協同 組合本所	150	0	代 5-0410	平木 北条 北迎地 上地	池田小学校	1,200	1,200	5-0028
						池田中学校	5-0066		
	池田町城山会館	60	100	5-2082	北条	池田町城山会館	60	100	呼出し 5-0410
	室生	農協二生支所 室生事業所	50	50	5-0027	室生	農協二生支所室生事業所	30	0
同上集荷所							30	0	
太田 栄氏宅							20	20	5-1868
二面	二生小学校	500	500	5-0118	二面	二生小学校	500	500	5-0118
						二面奥公民館	30	30	
吉野	正法寺	50	0	6-0003	吉野	正法寺	50	0	6-0003
						中元義幸氏宅	30	0	6-0522
	池田町 公民館三都分館	100	0	呼出し 6-0041		森川一美氏宅	25	0	6-0722
						森川正義氏宅	20	0	6-0706
蒲野	三都小学校	700	700	6-0007	蒲野	三都小学校	700	700	6-0007
					小蒲野	竹内正氏宅	60	0	6-0463
南蒲野	三都小学校	700	700	6-0007	目見ヶ谷	中岡実氏宅	30	0	6-0043
						山口保氏宅	30	0	6-0746
					吉ヶ浦	浜本縫製工場	20	0	6-0331
						山本正昭のり工場	40	0	6-0638
					市神子	安田食品工業市神子工場	40	0	6-0536
						南蒲野公民館	30	0	6-0541
谷尻	浜崎保重氏宅	50	0	6-0626					
神浦	神浦自治会館	50	0	呼出し 6-0280	神浦	神浦自治会館	50	0	呼出し 6-0280
						三都幼稚園神浦分園	20	0	6-0061
	三都幼稚園 神浦分園	20	0	6-0061	富士	旅館 伊古井	50	50	6-0336
東浦	三都小学校	700	700	6-0007	長崎	三都小学校	700	700	6-0007
					小池	東浦公民館	50	0	呼出し 5-0979
					牛ヶ浦	東浦公民館	50	0	呼出し 5-0979
赤坂	石場公営住宅 集会所	50	50	呼出し 5-0979	百尋	東浦公民館	50	0	呼出し 5-0979
					石場	石場公営住宅集会所	50	50	呼出し 5-0276
					赤坂	岡豊子氏宅	30	0	5-0377
丸山	じん芥焼却場事務所	20	0	5-0893	丸山	じん芥焼却場事務所	20	0	5-0893

12. 防災訓練の実施

再びこのような大惨事を繰り返さないように、災害から一年後の昭和52年9月7日防災関係機関が一体となり、災害時における心構えと防災活動の向上を図り、住民の防災意識の高揚と防災体制の強化充実を推進するため、水防、通信、避難等の総合防災訓練を実施した。

また、昭和53年7月23日には三都地域を中心とした防災訓練を実施した。そして今後このように防災訓練を実施し、非常時の際に十分な対処ができるように、日常生活の中に、防災に対する心構えを植えつけないなければならないだろう。

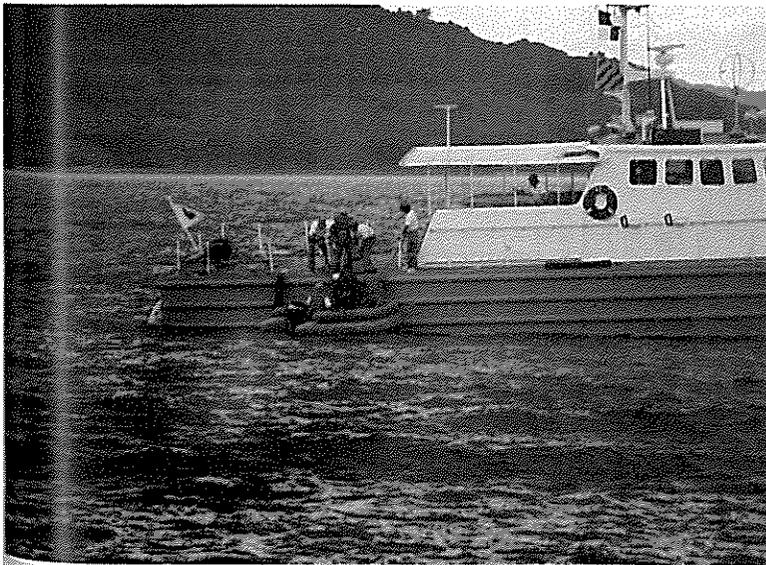
消防団員による水防訓練 ▶



▲ 海上避難訓練のようす



▼ ゴムボートから救助艇へ



池田町総合防災訓練実施細目

訓練種目	実施機関等	時 間														
		15時					16時					17時				
		10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50
	町本部															
	町本部															
広報訓練	町本部															
非常召集訓練	町本部 消防池田分署 消防団															
通信連絡訓練	町本部 消防池田分署 消防団															
避難誘導訓練	町本部 土庄警察署 消防団 地区総代 住民 坂手海上保安署															
水防訓練	消防団 消防池田分署															
炊き出し訓練	町本部 池田町日赤奉仕団															

実 施 方 法

- 15時 大雨・洪水・注意報発令
- 16時 大雨・洪水・警報発令
- 訓練災害対策本部設置

- 広報無線放送により、訓練実施に到るまでの想定状況の報導（道）
- 情報・注意報・警報・避難指示・勧告の一斉周知

- 警報発令とともに災害対策本部員・消防団・消防分署職員・職員の動員
- 担当区域・危険区域へ配置

- 防災・消防無線により災害情報の交信・町内雨量の連絡
- 孤立防止無線電話の交信

- 訓練災害対策本部よりの広報無線放送による避難勧告（4時30分全町一斉）
- 各地区において誘導員の指示に従い避難する
- 避難場所において誘導員は避難人員等を確認する
- 避難訓練の際に最も安全な場所・経路を検討し自主的に選定して下さい。

- 水防工法・水難救助訓練を、池田大川迎地橋において実施

- 池田小・中学校給食室において池田町日赤奉仕団の方々によって非常炊き出し、配分訓練

災害復旧事業の状況

1. 災害復旧状況

町 工 事

(単位 千円)

種 別	決定総額		事業費総額		昭和51年度		昭和52年度		昭和53年度		
	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	
公共土木	河 川	56	463,342	56	431,122	15	221,195	32	202,857	9	7,070
	道 路	126	630,040	126	557,490	26	144,371	74	349,240	26	63,879
	橋 梁	1	541	1	480	0	0	1	480	0	0
	小 計	183	1,093,923	183	989,092	41	365,566	107	552,577	35	70,949
漁 港	8	16,153	8	16,153	8	16,153					
港 湾	2	2,909	2	2,909	2	2,909					
農 地	210	432,482	191	445,191	30	110,000	110	248,183	51	87,008	
農 業 施 設	361	1,265,383	358	1,363,048	72	290,000	173	603,000	113	470,048	
林地崩壊防止	10	22,833	10	25,913	5	10,580	4	12,253	1	3,080	
林 業 施 設	24	24,908	24	24,230	4	9,507	19	13,281		1,442	
都 市 災 害	27	77,758	27	77,758	27	77,758					
漁場推積樹林排除	1	13,504	1	13,504	1	13,504					
小 計	643	1,855,930	621	1,968,706	149	530,411	306	876,717	166	561,578	
合 計	826	2,949,853	804	2,957,798	190	895,977	413	1,429,294	201	632,527	

県 工 事 (池田町分)

(単位 千円)

事業種別		箇所数	事業費	備 考
災害復旧事業	河 川	42	406,419	(内 池田大川分 11ヶ所 229,668)
	道 路	145	783,417	
	橋 梁	1	2,507	
	砂 防	0	0	
	海 岸	1	2,228	
	計	189	1,194,571	
災害復旧助成事業		1	282,500	8,633
激特砂防事業		29	2,778,390	
緊急急傾斜地崩壊対策事業		2	134,400	
治 山 事 業		38	724,542	
合 計		259	5,114,403	

2. 写真で見る復旧概要

(1) 町 工 事

竹 生 川 事業費 114,053千円

昭和53年 3月30日 完成

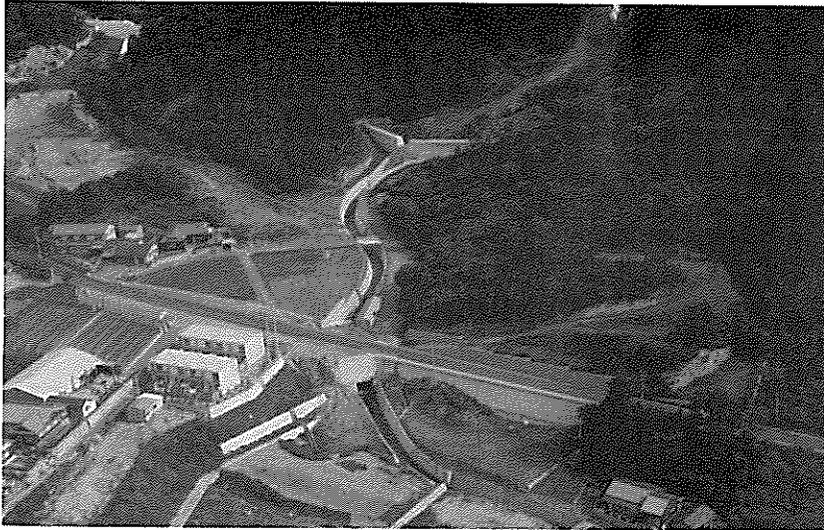
河川復旧延長 $L=958.72\text{ m}$ 護岸コンクリート $L=722.5\text{ m}$ 床止工 5ヶ処

谷止工 1ヶ処

帯 工 6ヶ処

$W = 3.0\text{ m}$

$H = 1.8\text{ m}$



谷 尻 川

事業費 57,612千円

河川復旧延長 $L=307.6\text{ m}$

ブロック積 $A=968\text{ m}^2$

床打コンクリート $V=97.4\text{ m}^3$

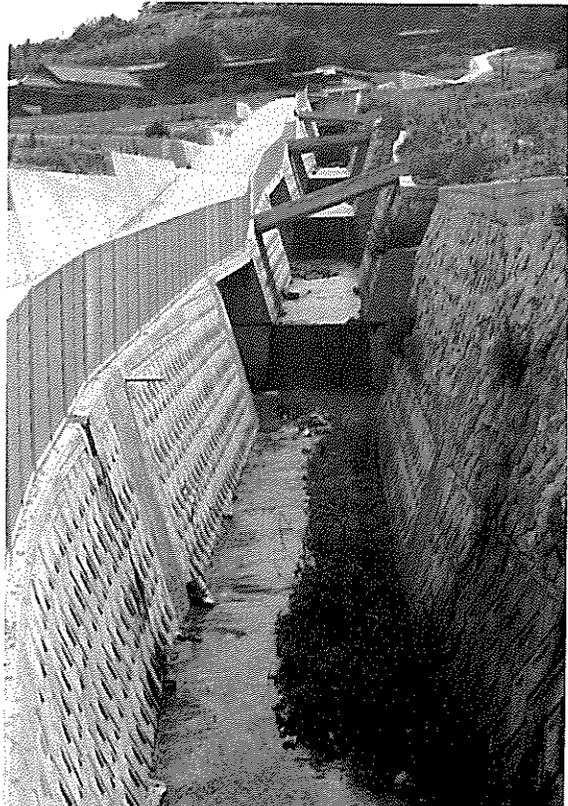
床止工 10ヶ処

帯 工 3ヶ処

$W = 2.0\text{ m}$

$H = 1.5\text{ m}$

昭和52年 3月28日 完成



柿の木谷サレ線（調24号）

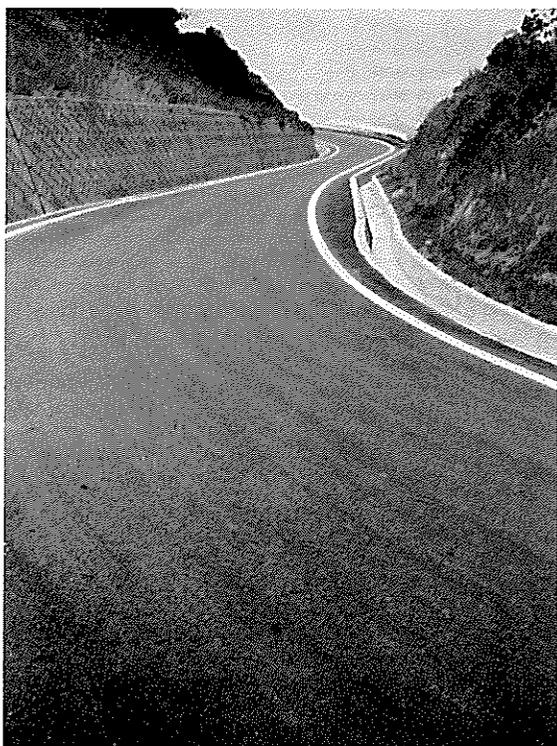
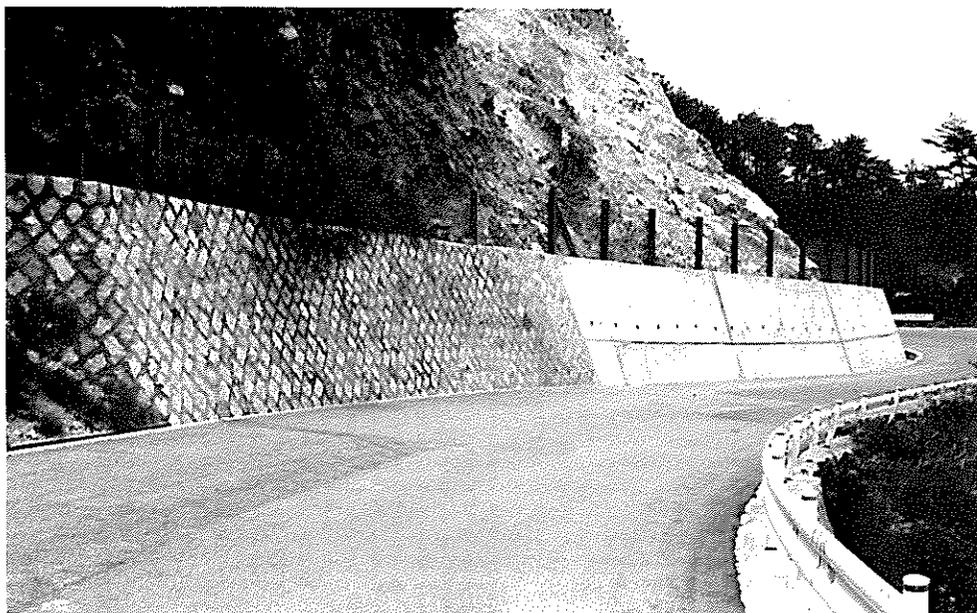
事業費 29,595千円 昭和53年3月30日完成

道路復旧延長 $L=221.6\text{ m}$

石積 $A=185.8\text{ m}^2$ 擁壁 $H=3.0\text{ m}\sim 4.0\text{ m}$ 舗装 $A=388.0\text{ m}^2$

ガードレール $L=116.0\text{ m}$

ストーンガード $L=118.0\text{ m}$



谷尻白浜線

事業費 192,362千円

道路復旧延長 $L=2.130\text{ m}$

$W=4\text{ m}$

昭和53年3月30日完成

農地復旧

谷尻地区

事業費 16,589千円 復旧面積 0.95 ha 昭和54年1月31日完成



上地地区

事業費 131,979千円 復旧面積 10.03 ha 昭和54年2月20日完成



農業施設復旧

池田大池

昭和53年 3月30日完成

事業費 67,157千円 復旧延長 255 m

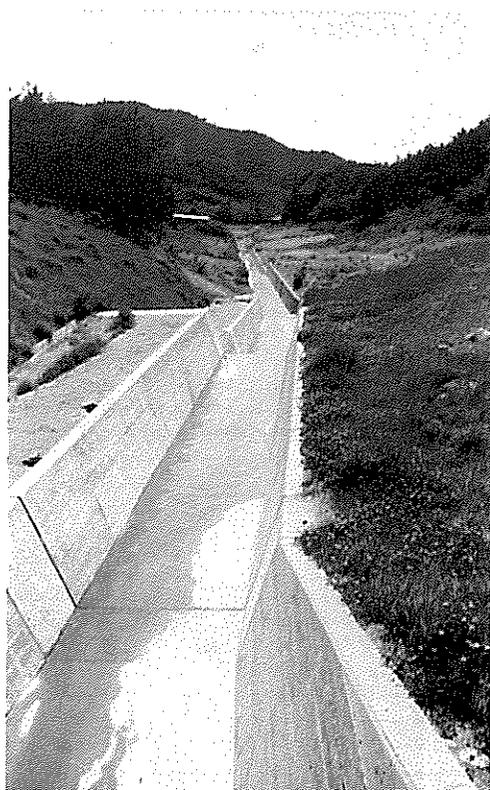


室生丸山水路

事業費 24,986千円

水路延長 399 m

昭和53年 3月30日完成



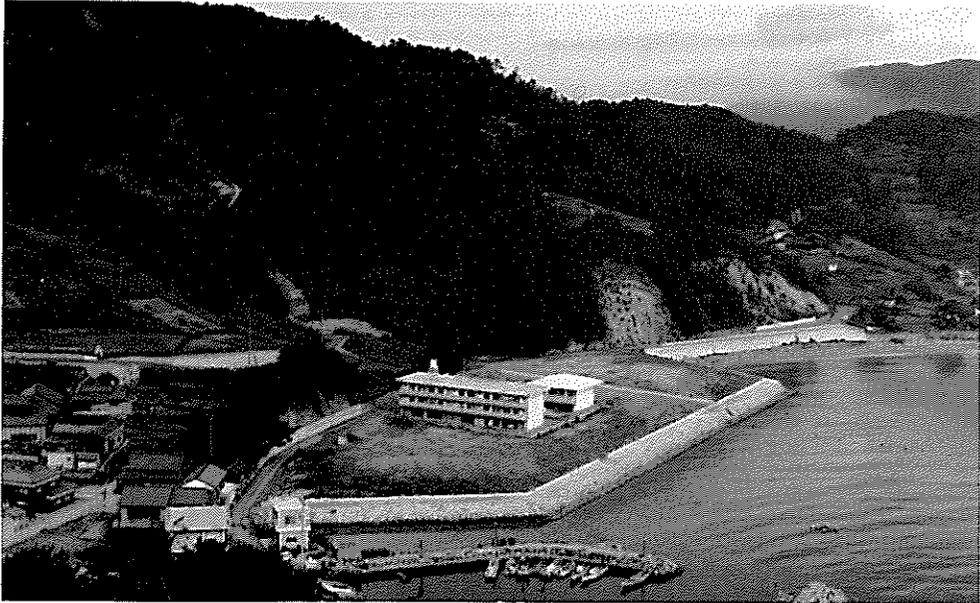
谷尻地区の埋立て

事業費 53,980千円

昭和53年 3月31日完成

面積 $A = 11,332\text{m}^2$

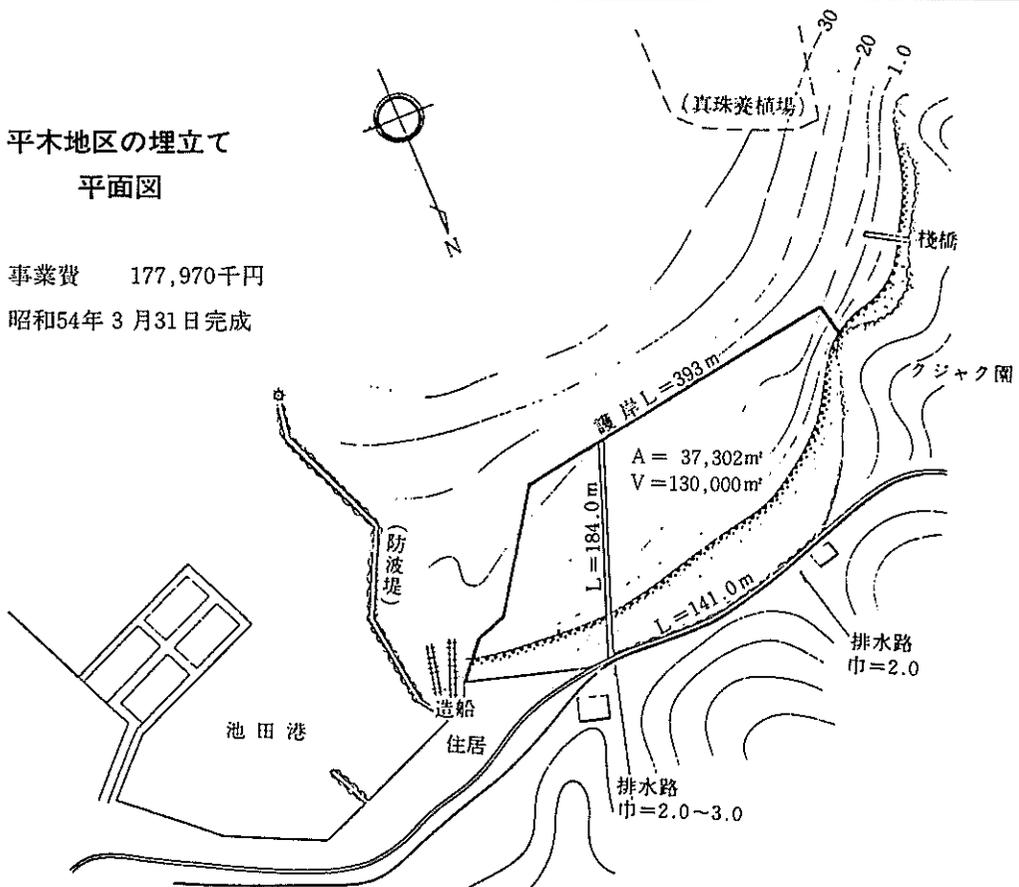
持込土量 $V = 53,000\text{m}^3$



平木地区の埋立て 平面図

事業費 177,970千円

昭和54年 3月31日完成

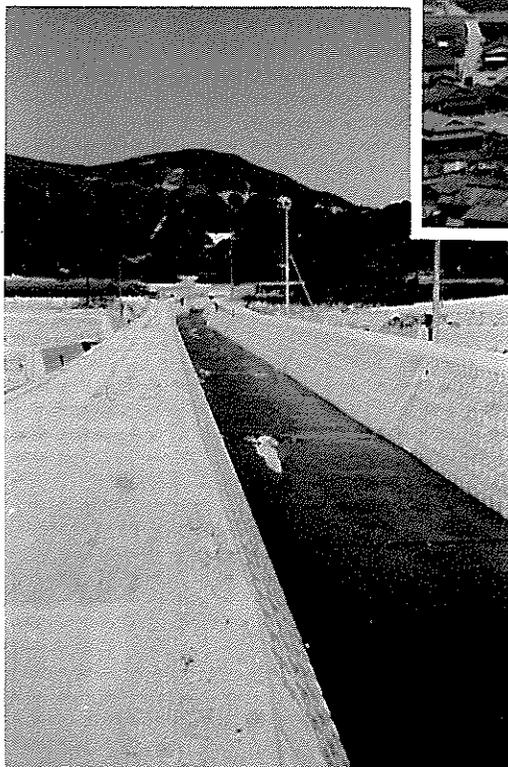
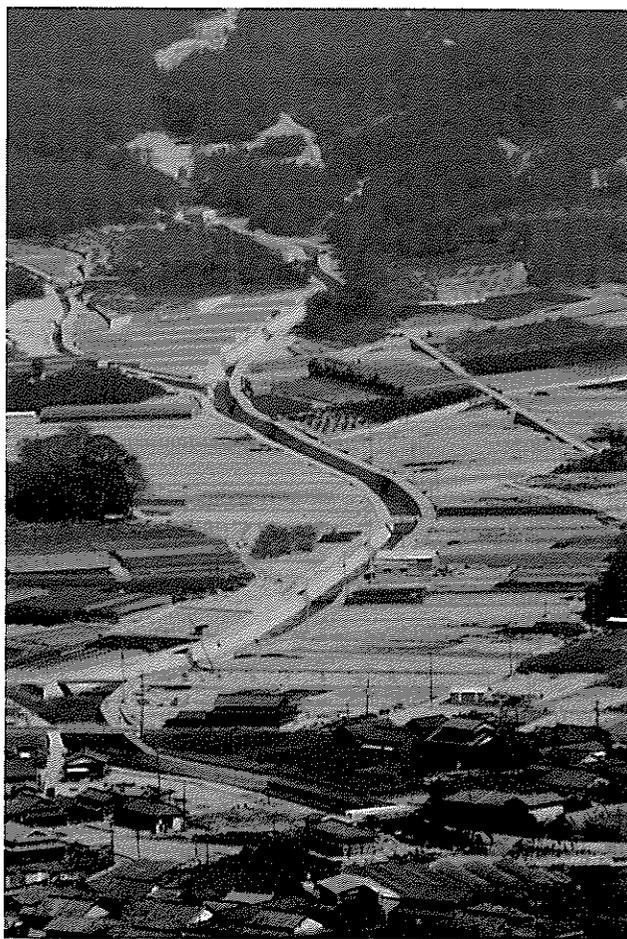


(2) 県 工 事

池 田 大 川

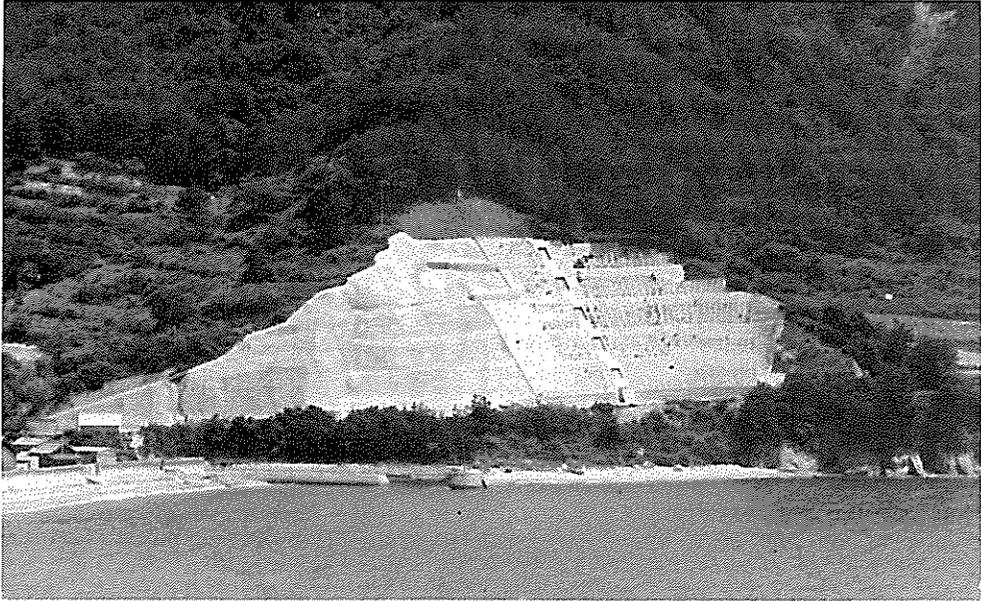
事業費 518,801千円
災害復旧事業 227,668千円
災害復旧助成事業 282,500千円
他 費 8,633千円

護岸工 L=3,645.1m
根継工 L= 998.6m
路側工 L=2,814.3m
床固工 N= 25.0ヶ処
帯 工 N= 36.0ヶ処
橋 梁 6.0 基
昭和54年3月30日完成



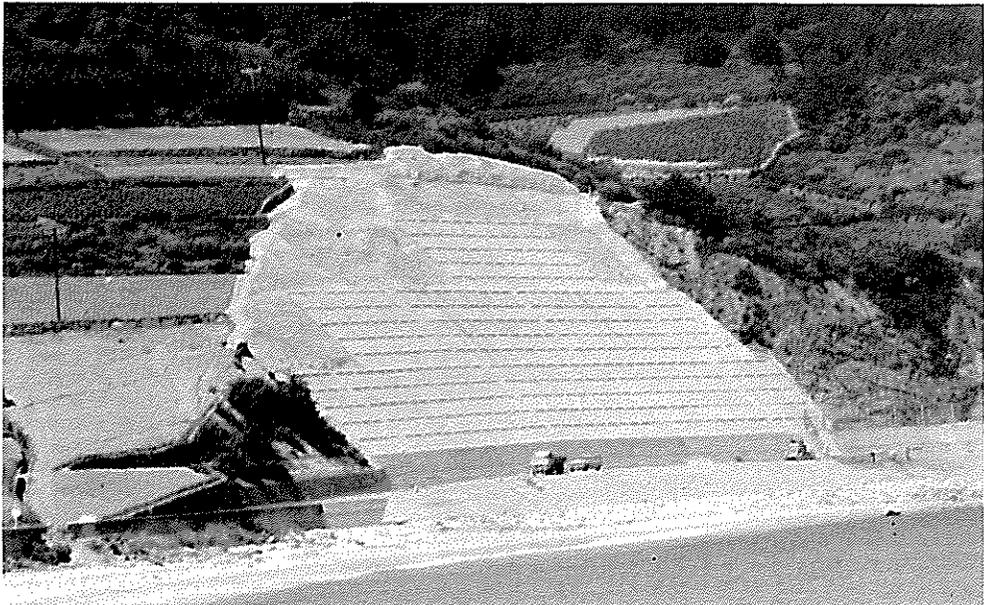
県道三都港平木線（二面）

事業費 2,378万5千円 昭和53年3月2日完成 山留擁壁 L=51.7m
道路復旧延長 L=74.0m 法枠工 A=128.0m² コンクリート吹付 A=840.0m²



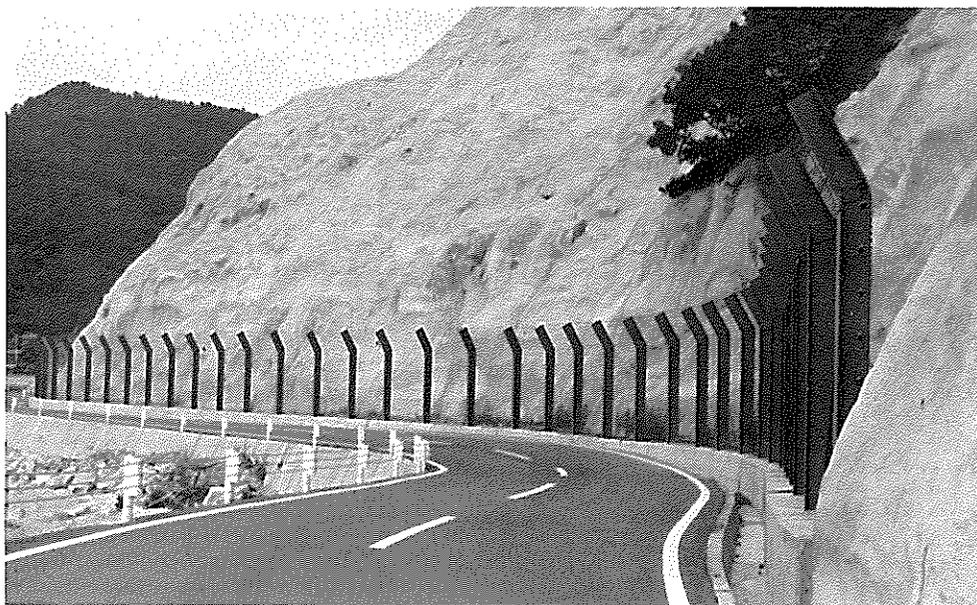
県道三都港平木線（目見ヶ谷）

事業費 8,377万円 昭和53年4月30日完成(線越施行) 擁壁コンクリート L=109.1m
道路復旧延長 L=195.0m 法枠 L=88.8m² A=1,840.0m² 舗装 A=810.0m²



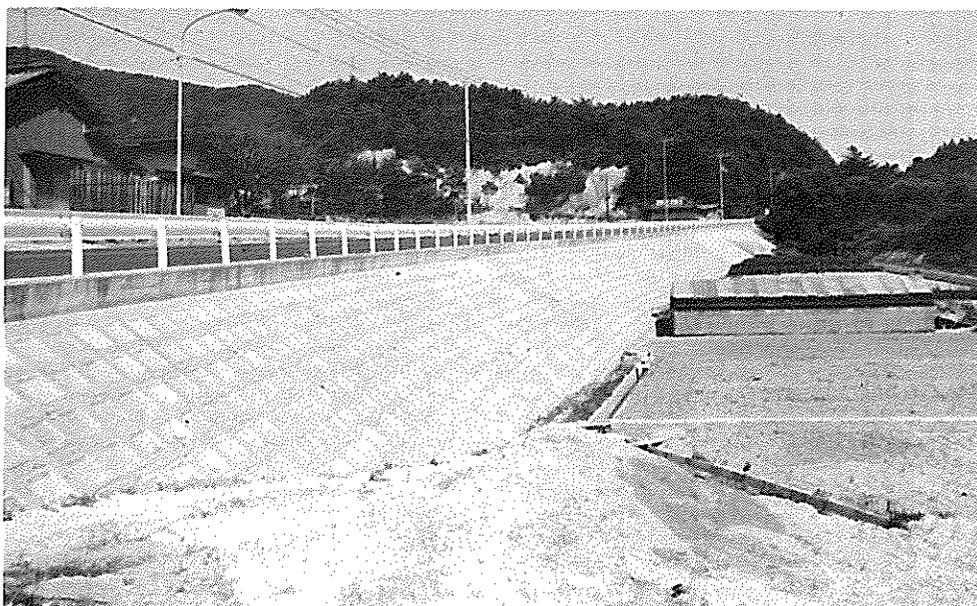
県道蒲野内海線（蒲野）

事業費 15,625万 5 千円 昭和53年 8 月25日完成 コンクリート吹付 A = 7,643.0m²
道路復旧延長 L = 310.0m 擁壁コンクリート L = 265.5m 舗装 A = 1,902.0m²



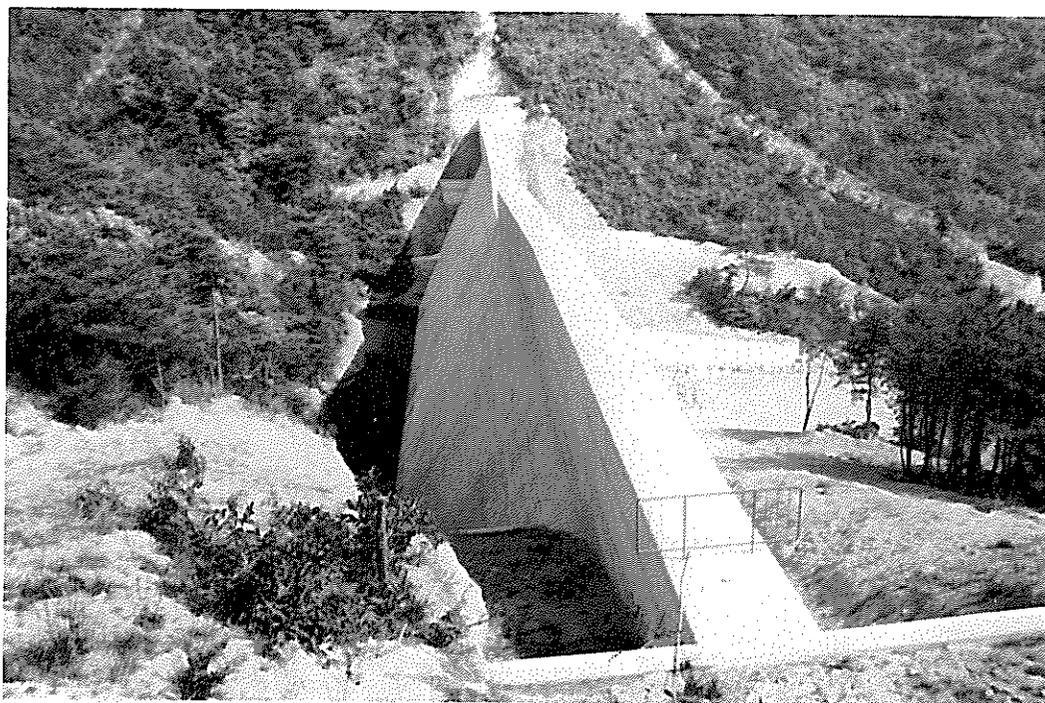
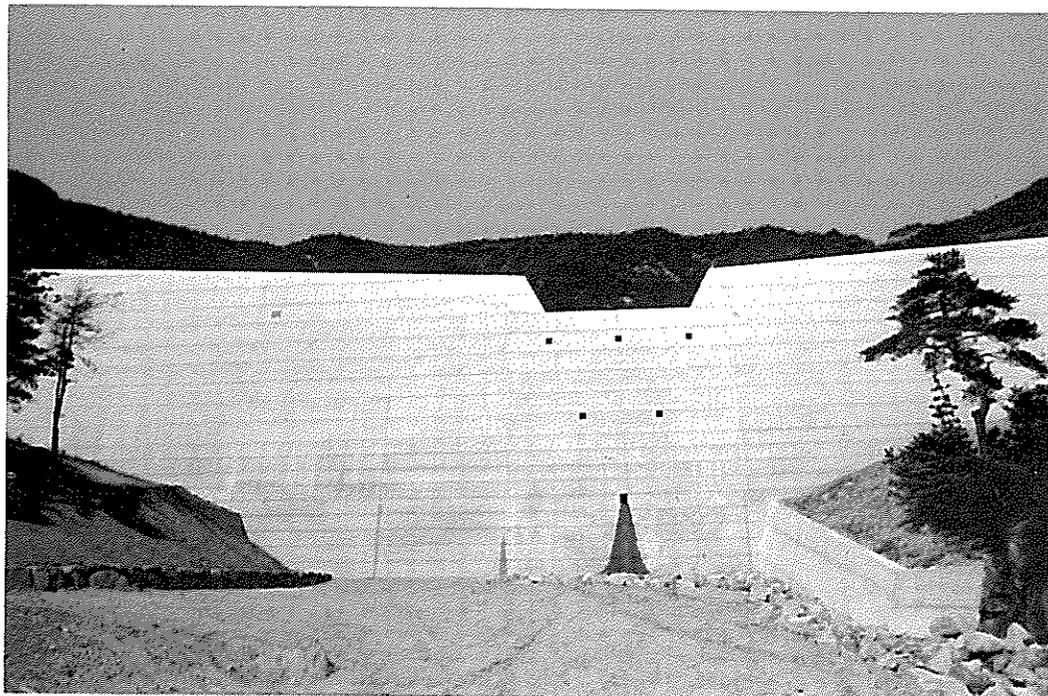
県道小豆島循環線（丸山）

事業費 1,490万 3 千円 昭和52年 3 月30日完成 舗装 A = 331.0m²
道路復旧延長 L = 62.5m 路側ブロック積 L = 55.7m A = 270.2m²



激特砂防ダム（河川）

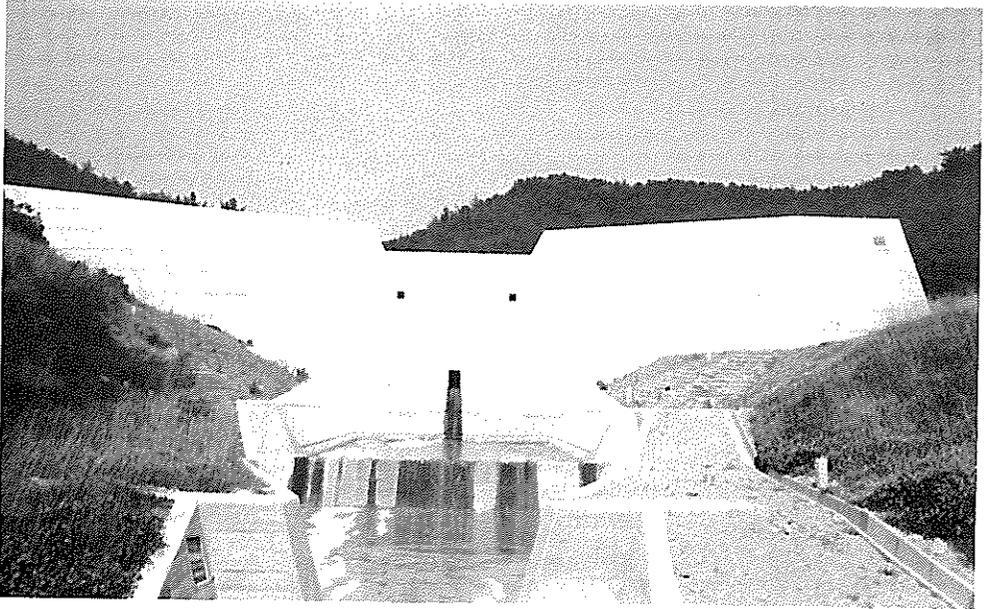
赤柴川（上地） 事業費 37,350万円 昭和54年3月完成
H = 18.0m L = 135.5m V = 16,851m³



大谷川(室生)

○ダム 事業費 11,691万円 昭和53年3月完成 $H=10.0\text{m}$ $L=111.0\text{m}$ $V=4,442\text{m}^3$

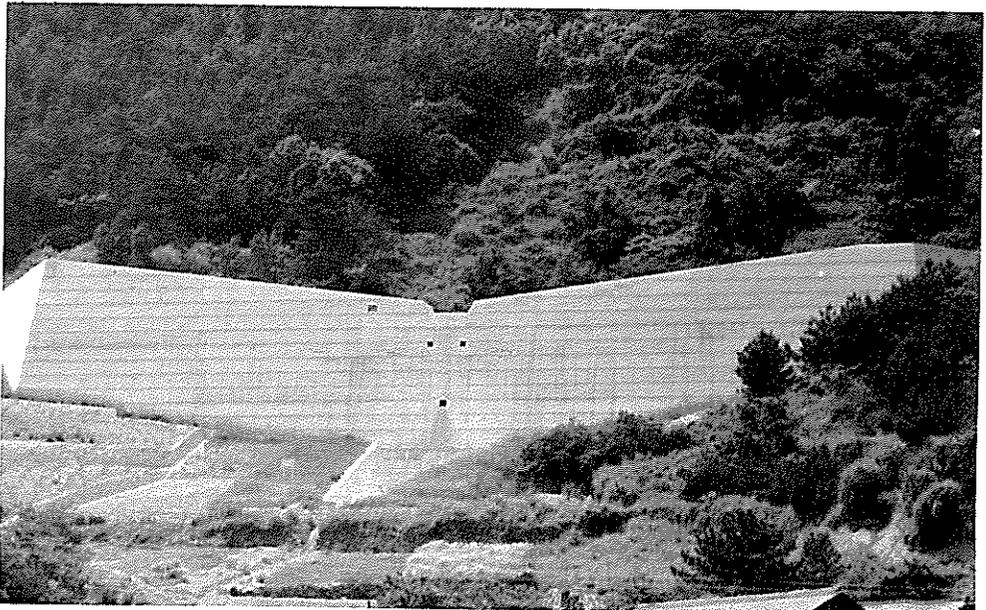
○流路工 事業費 1,884万円 53年10月完成 $H=1.5\text{m}$ $L=91.1\text{m}$



吉ヶ浦川

事業費 17,961万円 昭和53年11月完成

$H=13.0\text{m}$ $L=119.0\text{m}$ $V=8,244\text{m}^3$

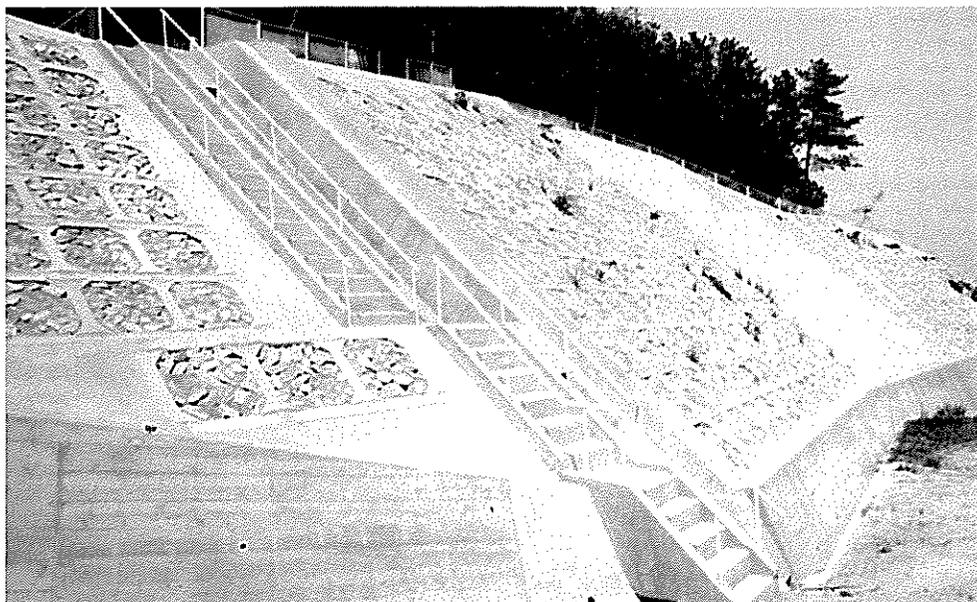


急傾斜地崩壊対策

吉ヶ浦地区

事業費 5,510万円 昭和54年3月完成

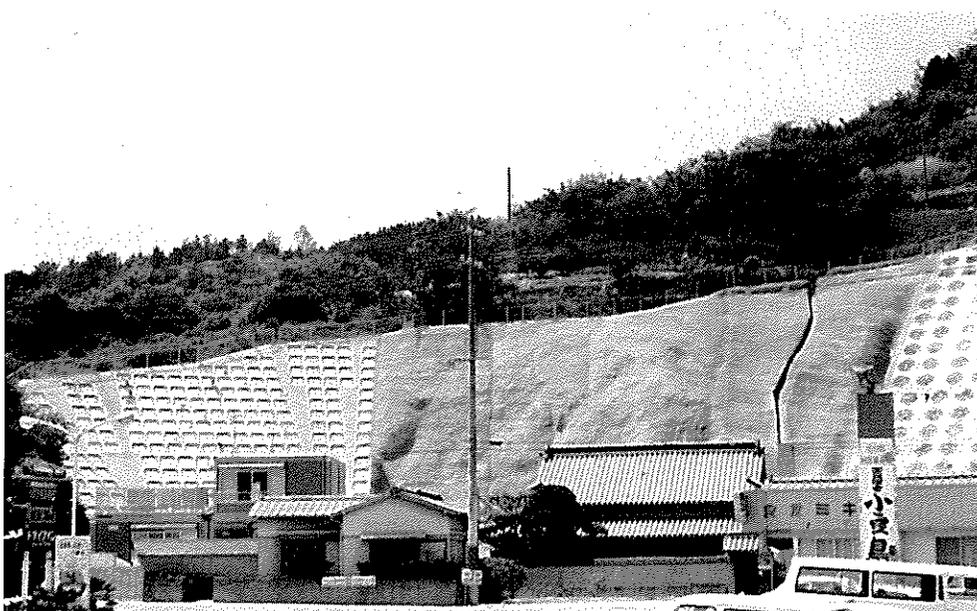
法面工 1,470m² L=135.0m



清水谷地区（平木）

事業費 7,930万円 昭和54年度完成予定

法面工 1,562m² L=105.0m



激特砂防ダム (林務)

石 場

事業費 3,000万円 昭和54年 3月完成

H=8.0m L=51.5m V=1,246.1m³



谷止工

H= 8.0m

L= 35.5m

V=6,537.0m³

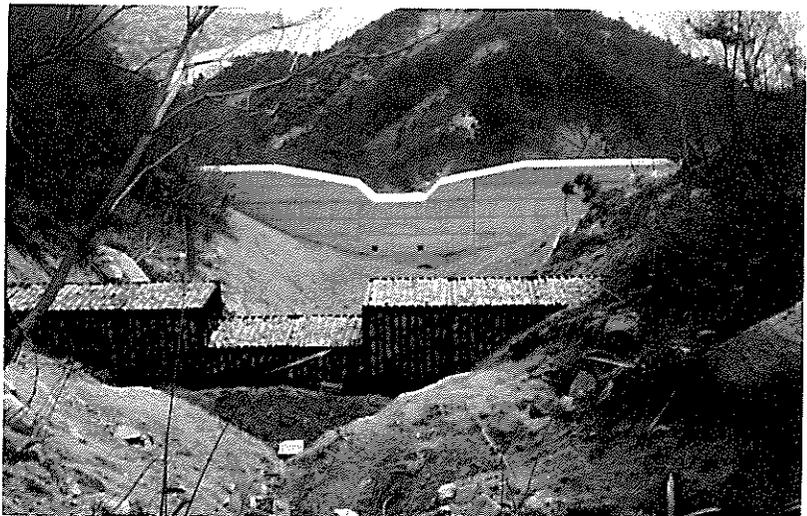
H= 16.0m

L= 4.1m

事業費

2,195万 6千円

昭和53年 3月完成



賢 東
(吉野)

谷止工

H = 6.0m

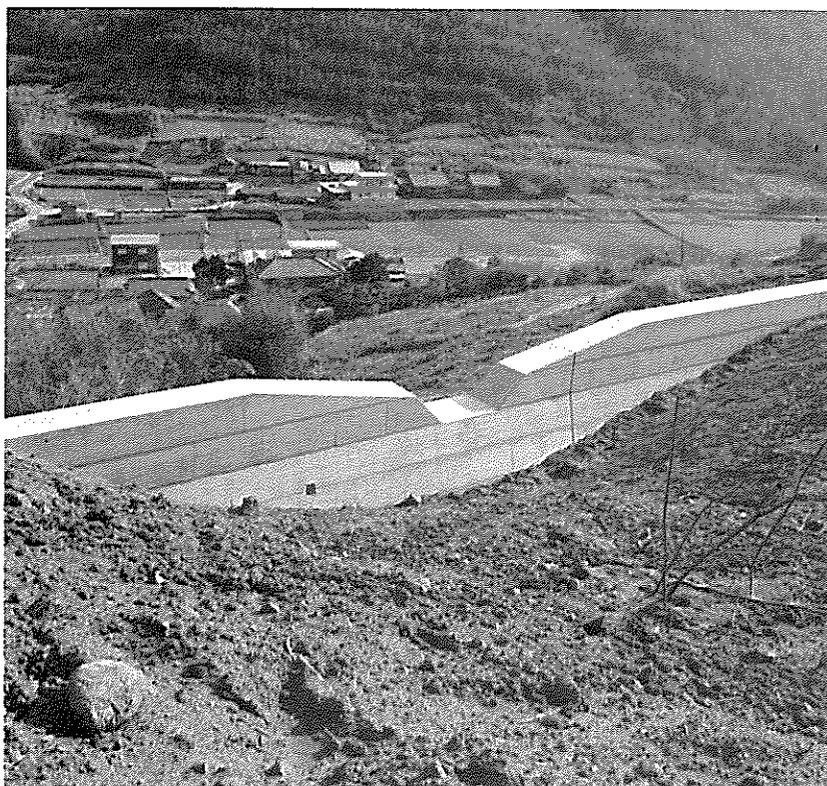
L = 58.5m

V = 832.8m³

事業費

2,122万円

昭和54年3月完成



大石ヶ谷
(中山)

谷止工

No.1

H = 7.0m

L = 34.0m

V = 464.6m³

No.2

H = 7.0m

L = 32.0m

V = 480.3m³

事業費

2,200万円

昭和54年3月完成



義 援 金 の 内 訳

◎ 指定義援金

区 分	件数	金 額 (円)
災害復旧費へ	9	10,140,000
教育関係へ	4	1,457,900
被災者へ	3	48,100
地区自治会へ	3	657,021
婦人会へ	1	20,000
青年団へ	2	22,500
計	22	12,345,521円

◎ 一般義援金

区 分	件数	金 額 (円)
個人からの見舞金	65	2,453,353
企業からの見舞金	28	6,270,876
協会からの見舞金	13	1,148,920
公共団体からの見舞金	7	2,110,111
募金カンパされた見舞金	11	33,411,091
その他団体からの見舞金	56	9,411,940
計	180	54,806,291円

合計 件数 202件

金額 67,151,812円

義 援 金 配 分 内 訳

◎ 指定見舞金

区 分	件数	支 出 額 (円)
災害復旧費充当	1	10,140,000
教育委員会	13	1,457,900
被災者	5	48,100
地区自治会へ	3	657,021
婦人会	1	20,000
青年団	1	22,500
計	23	12,345,521円

◎ 一般見舞金

(個人)

区 分	件数	単位	支 出 額 (円)
死亡者	27	20万	5,400,000
重傷入院者	5	5万	250,000
軽傷者	16	1万	160,000
全壊家屋	53	15万	7,950,000
半壊家屋	23	5万	1,150,000
床上浸水家屋 一部破損世帯	326	2万	6,520,000
計	450		21,430,000円

(その他)

区 分	件数	支 出 額 (円)
仮設住宅付帯施設	6	491,400
全壊世帯(暖房器具)	48	631,500
〃 (スグレ)	256	234,000
〃 (扇風機)	72	1,165,500
死没者世帯お供	12	32,400
災害復旧費充当	1	30,821,491
計	395	33,376,291円

支出 合計 67,151,812円

◎ 義 援 金

▶明田正太郎（北地）50,000円▶新日新聞大阪厚生文化事業団564,328円▶朝日生命保険相互会社松江支店150,000円▶安部さかえ（神戸市）10,000円▶荒尾たけ（鳥取市）30,000円▶安樂寺別院小豆島巡拝団（岡山市）12,930円▶池田町オリープラブ50,000円▶池田町海友婦人会30,000円▶池田町議会100,000円▶池田町職員組合262,000円▶池田町農業協同組合10,000,000円▶今西永児（西宮市）5,000円▶今治市立富田小学校児童会48,000円▶大磯産業京都店6,000円▶王鞍道子（京都市）10,000円▶大阪砕石KK1,000,000円▶大阪市長大島清500,000円▶大阪市立墨江幼稚園PTA代表11,500円▶大阪府立東大阪勤労青少年ホーム10,020円▶大島春子（石川県）10,000円▶大下清（大阪市）50,000円▶大田智子（静岡県）10,000円▶青梅市青年団国内研修生22,500円▶岡員司（大阪市）50,000円▶岡野庄二（入部）50,000円▶岡山フィッシングクラブ20,000円▶小田ナミ（福岡県）2,000円▶小田西婦人会（広島県）77,405円▶御牧婦人会（京都府）62,600円▶大野城市市民（福岡県）133,000円▶貝塚市役所水道部職員一同60,000円▶香川県3,171,800円▶香川県観光協会30,000円▶香川県教育委員会義務教育課長10,000円▶香川県共同募金会18,428,300円▶香川県現地災害対策本部寄託取扱分〔一吉証券KK岡山支店小豆島営業所（土庄町）神戸小豆島会長藤本忠一（神戸市）香川県観光協会会長中川以良（高松市）土庄税務署長（土庄町）大阪小豆島会長丸本正雄（大阪市）山口労災病院有志一同（山口県）KK竹中土木東京本店営業部営業課多田満（東京都）中央准看護婦学校生徒職員（東京都）KK佐伯建設（大分市）三ヶ島中学校生徒会（埼玉県）日本金属プレスKK社長高橋重広（北九州市）匿名6名（大川郡長尾町）かどや製油KK従業員（土庄町）上田信男（土庄町）米田銅器製作所（高岡市）綾歌町老人クラブ連合会長土居三郎（綾歌町）林ヨシノ（多度津町）京都市南区地域連合婦人会長安室多三枝（京都市）香川県身体障害者協会（高松市）愛知県立足助高等学校生徒一同（愛知県）〕1,202,000円▶香川県高等学校生徒一同・香川県高等学校校長協会300,000円▶香川県公民館連絡協議会5,000円▶香川県市町教育委員会連絡協議会10,000円▶香川県小豆事務所職員一同・土木事務所職員一同30,000円▶香川県小中学校管理職員協議会10,000円▶香川県小中学校校長会10,000円▶香川県生命保険協会56,000円▶香川県町村会84,000円▶香川県冷凍空調設備工業協会10,000円▶香川相互銀行20,000円▶香川大学教育学部附属坂出中学校生徒会員一同44,898円▶香川大学教育学部附属坂出中学校職員会17,525円▶鹿島建設KK2,000,000円▶鹿島建設KK四国支店100,000円▶カトリック教会カリタス・ジャパン（東京都）250,000円▶片山直美・小袖清美（岡山市）4,000円▶蒲生小学校児童会17,745円▶蒲生小学校・幼稚園PTA26,000円▶川口建設事務所川口正男（土庄町）10,000円▶関西医科大学附属香里病院労働組合10,000円▶幹清会会長吉井真澄（京都市）35,000円▶北地地区敬老会74,950円▶北地地区老人会北陽会51,500円▶喜田憲一郎（多度津町）5,000円▶木下勝（内海町）30,000円▶京都新聞社会福祉事業団44,027円▶京都正法会一同50,000円▶熊野邦子（大阪市）10,000円▶鉦褌製品販売KK高松出張所30,000円▶弘信大師会会長森口隆真（京都府）50,000円▶真昌講（神戸市）100,000円▶洪万（大阪市）400,000円▶神多野幸次（東京都）2,000円▶KK小松製作所小豆営業所長酒樋喜美雄30,000円▶琴以教会

幼稚園園長斉藤義信（札幌市）10,000円▶KK佐伯建設社長川崎力太100,000円▶KK佐伯建設四国支店長堤稔夫200,000円▶佐伯建設工業KK200,000円▶佐柄重信（寝屋川市）50,000円▶重清一二乃・美和・容子（徳島県）3,000円▶静岡県立静岡工業高等学校二年生一同40,170円▶柴田小四郎（吉野）30,000円▶清水建設KK高松支店300,000円▶宗教法人普明会教団徳島出張所200,000円▶庄司政夫（大阪市）150,000円▶小豆更生保護婦人会30,000円▶小豆郡医師会100,000円▶小豆郡地教委連絡協議会1,272,900円▶小豆郡土地改良事業推進協議会300,000円▶小豆島貨物運輸街500,000円▶小豆島生コンKK2,000,000円▶小豆島農協労働組合（土庄町）20,000円▶小豆島バスKK社長堀本文次200,000円▶小豆島病院200,000円▶小豆島ライオンズクラブ200,000円▶小豆島ライオンズクラブ・小豆島東ライオンズクラブ195,000円▶小豆島獄友会10,000円▶小豆島霊場会20,000円▶小豆島ロータリークラブ・高山ロータリークラブ・宿毛ロータリークラブ400,000円▶昭和電工KK100,000円▶真言宗総本山善通寺蓮生善隆管長150,000円▶真言宗総本山善通寺山地善信事務局長80,000円▶新日本婦人の会香川県本部30,000円▶住友生命保険相互会社高松支店長小池忠治50,000円▶陸上自衛隊善通寺部隊隊員一同50,000円▶聖徳風会桜井良嘩（堺市）500,000円▶全国部落解放運動連合会池田支部8,100円▶善通寺市長・職員一同70,000円▶第一生命保険相互会社高松支社長（高松市）100,000円▶大正興業KK代表取締役川西忠男50,000円▶鯛谷清一（高松市）250,000円▶高千穂電気KK幹部一同（東京都）100,000円▶高橋佐一（大阪市）500円▶高松一高1年12組今熊・山口・村上3,000円▶高松信用金庫総務部長乃村哲夫1,000,000円▶高松鮮魚商業協同組合80,000円▶高松楽心講代表柏本玄良12,000円▶丹生モトエ（奈良県）10,000円▶中部善意銀行50,000円▶長営又造（大阪）300,000円▶町村議会議長会290,000円▶天理教教会本部50,000円▶天理教香川教区（高松市）250,000円▶天理教聖踏分教会（入部）50,000円▶東京小豆島会200,000円▶東伯一心会（鳥取県）20,000円▶東洋建設KK高松支店200,000円▶東和建設KK社長島村彰（東京都）100,000円▶徳島県町村会23,900円▶戸田悦子（札幌市）10,000円▶土庄税務署長10,000円▶土庄税務署職員一同20,000円▶土庄町青年連合10,000円▶十面沢婦人団体（青森県）20,000円▶直井春一（丸亀市）3,000円▶中島寛次（奈良市）30,000円▶中島良隆（佐賀県）10,000円▶中野間房子（箕面市）12,500円▶中東蒲生昭和会15,000円▶七支の会（北地）13,000円▶西口敏博（三原市）10,000円▶二生小学校児童会7,021円▶日本社会党香川県本部100,000円▶日本自由メンヂスト源ヶ丘教会（東大阪市）35,000円▶日本生命小豆島支部職員一同50,000円▶日本赤十字社香川県支部・香川県1,200,000円▶日本赤十字社香川県支部9,900,791円▶日本フィルコンKK京都工場10,000円▶日本民主青年同盟香川県委員会70,000円▶入部地区自治会117,600円▶野口裕（香川県）30,000円▶野中守（高松市）10,000円▶野々上紋平（大阪市）1,800円▶白洋産業KK呉営業所17,625円▶原志&（川西市）10,000円▶ピーチ磯釣クラブ一同（岡山市）16,000円▶東・中・西蒲生自治会199,000円▶広瀬八重子（東浦）30,000円▶日之出市場センター（福山市）24,000円▶百十四銀行KK500,000円▶兵庫県立相原高等学校人文地理班一同3,000円▶福島哲男（東京都）3,000円▶福田リヨ（奈良県）10,000円▶藤岡照幸（室生）140,000円▶富士ゼロックスKK高松営業所一同20,000円▶古河第一高等学校定時制四年生一同（茨城県）12,213円▶平和商事KK（東京都）500,000円▶

保賀喜夫（京都市）2,000円▶星野理容所（土庄町）10,000円▶本町小学校（白鳥町）9,000円▶マルヒ物産KK（静岡県）10,000円▶三谷ハルエ（志度町）30,000円▶明治生命保険相互会社50,000円▶守山三郎（吉野）10,000円▶安田食品KK三都工場（南蒲野）21,000円▶山口政子（大阪市）20,000円▶大和郡山市消防署（奈良県）18,311円▶大和市立引地台中学校生徒会（神奈川県）20,000円▶山本義武（大阪市）50,000円▶(株)ユーカリコンサルタント武部長久10,000円▶吉田町職員組合（愛媛県）5,000円▶吉田町婦人会連絡協議会（愛媛県）62,100円▶吉野地区中条組10,000円▶吉村チオ子（京都市）10,000円▶駿河台日本大学病院看護科一同（東京都）150,000円▶霊法会 奥野良一（大阪市）10,000円▶霊場巡拝日本仏心会長・高野山大師教会東伯支部長（鳥取県）200,000円▶匿名3件28,002円

◎ 救 援 物 資

▶マルヨシセンター▶葵東・西・南ライオンズクラブ（高松市）▶KKタカラ洋裁（土庄町大部）▶真砂照元（北地）▶西原金属工業KK▶小豆島青年会議所▶日清製粉KK坂出工場▶創価学会香川県本部▶百十四銀行▶富丘コンクリートKK▶創価学会大阪本部▶真砂正義▶大阪市住吉区我孫子町町内会高橋秀勝▶共産党香川県本部▶香川県信用組合（高松市）▶真砂久四郎▶幸田輝男▶松本高男（観音寺市）▶近藤貞雄（国分寺町）▶中村和夫（滋賀県）▶小野田和也（和歌山市）▶天理教香川教区▶片山佳子（伊丹市）▶金山雅志（山本町）▶丸岡道代（丸亀市）▶垣生保育園中矢豊子（松山市）▶簡易保険加入者ホーム島津ヤエ（静岡県）▶久保喜巳枝（大阪府貝塚市）▶竹崎治義（大阪市）▶真中寿美子（茨木市）▶小野勝子（白河市）▶中村敬之（御殿場市）▶六沢ふじい（茨城県）▶沢柳広人（愛知県）▶平山純一（海南市）▶本城屋洋服店荒木未春（観音寺市）▶江東治子他（京都市）▶オリオン交易KK（神戸市）▶熊野邦子（大阪市）▶広光初子（南国市）▶京明KK（京都市）▶中井美幸方新婦人の会仏生山班（高松市）▶北見良子（東京都）▶英シズエ（東京都）▶石橋益代（松山市）▶大久保製麺KK▶新日本婦人の会（高松市）▶朴木豊吉（富山県）▶福地（香川郡）▶中村保（京都府）▶創価学会池田支部▶城北生協太田智子（静岡県）▶甲斐健一（福岡市）▶稲葉兼資（大阪市）▶向出明（枚方市）▶萩本民夫▶藤野好晴（大阪市）▶四方尚（京都市）▶広島小学校児童会一同（丸亀市）▶佐藤秀信（坂出市）▶井上百合子（高槻市）▶藤沢邦子（高松市）▶山田宣広（大阪市）▶林清（東京都）▶H・I（兵庫県）▶佐野和雄（埼玉県）▶秋山錦治（静岡県）▶淑徳与野高等学校保育課1年A組（埼玉県）▶西岡（名古屋市）▶榎本久雄（千葉県）▶森口勇（川西市）▶末広一子（大阪市）▶秋山功（玉野市）▶京都市民より▶津崎勝弘（御所市）▶森本勇吉（大阪府）▶鬼塚政子（堺市）▶脇屋まさ子（東京都）▶溝上文子（大阪府）▶早川恵美子（東京都）▶水野幸子（仙台市）▶杉浦節子（神奈川県）▶服部利明（大東市）▶田中功（岩手県）▶前田睦子（高松市）▶梅原うた（綾部市）▶米田弘（東京都）▶香川県大阪事務所（大阪市）▶寒川操（高松市）▶仙波千鶴子（呉市）▶小玉光郎（島根県）▶鏡山（大阪市）▶漆原（大阪府）▶谷村仁子（広島県）▶喜美子・正子・久子（古河市）▶大阪民主商工会▶大崎貞夫（京都市）▶岡本登美夫（川口市）▶西八重子（池田市）▶増田公子（福生市）▶梅津貞子（山形県）▶月星製作所婦人部（石川県）▶三木松

雄（川崎市）▶岩崎ユキ（東京都）▶中原信子（東京都）▶上坂くら（東京都）▶酒巻文子（東京都）▶佐藤イサノ（三野町）▶梅林子ども会（神戸市）▶草間半保（茨城県）▶森田伍一（静岡県）▶宗教法人大乘教団企画部（東京都）▶生徒会家庭クラブ（山口県）▶加藤明（北海道）▶県立柳井高等学校（山口県）▶橘会婦人会（滋賀県）▶天川進一（埼玉県）▶多田まつえ（埼玉県）▶土屋玲子（千葉県）▶山本三和子（伊勢市）▶町立三石第一小学校生徒会（北海道）▶山本介延子（東京都）▶松井健（東大阪市）▶大網農業協同組合（千葉県）▶生協内美容室（神戸市）▶須田洋子（宮城県）▶佐重一雄（横浜市）▶老人会新山クラブ（千葉県）▶大野亨（東京都）▶セブンスデーアドベンチスト岡山協会（岡山市）▶小室アサ（日野市）▶手島美三（豊島区）▶佐伯吉憲（東京都）▶玖珂保育園（山口県）▶井上妙子（観音寺市）▶岡山協会（岡山市）▶尾持智子・高山まさみ（松本市）▶富永ふみ（神戸市）▶老人会新山クラブ一同（千葉県）▶原口俊一（四条綴市）▶下波婦人会（愛媛県）▶中西浄子▶洋田美都（兵庫県）▶斉藤海養（佐伯郡）▶岡本桃（横須賀市）▶宮沢民子（東京都）▶石渡京子（東京都）▶吉崎芳二郎（東京都）▶木村義子（東京都）▶伊藤孝（東京都）▶岡崎ミサホ（富山市）▶郵政宿舎荒佳子（札幌市）▶中島清一（宇都宮市）▶内村節子（東京都）▶岩崎和子（東京都）▶佐伯吉憲（東京都）▶加藤建夫（大和郡山市）▶田島英重子（東京都）▶磯久敏夫（東京都）▶金井ミキ（東京都）▶速水都子（船板市）▶広瀬元一（山梨県）▶国立市立第一小学校 児童一同（国立市）▶佐々木知子（東京都）▶日本ビニールコードKK新田忠成（八王子市）▶山口浩良（和歌山県）▶沢田恵子（東京都）▶鎌田知子（東京都）▶御宿町立岩和田小学校（千葉県）▶宮田正信（東京都）▶平野寿子（徳山市）▶古後妙子（東京都）▶山本恭子（横浜市）▶仲田真里（横浜市）▶武田よしの（宮城県）▶斉田いし（東京都）▶藤田康夫（八王寺市）▶三木和子（東京都）▶門井克夫（茨城県）▶浄弘貴子（奈良市）▶藤田節子（八王寺市）▶鳥川篤子（東京都）▶博田諭（兵庫県）▶小川明美（桑名郡）▶高村エミ子（宮城県）▶鈴木富貴子（東京都）▶岡本桃子（横浜市）▶服部製作所（茨城県）▶中林功（大阪市）▶久保洋子（松山市）▶平沢綾子（東京都）▶里和雅代（東京都）▶藤原俊晴（宮城県）▶木下紀雄（横浜市）▶石丸キヨノ（岩国市）▶見附ニット工業協同組合（新潟県）▶大道こちよ（兵庫県）▶久保田美代子（東京都）▶向井勝栄・土居繁一・東原民夫・東原正一・東原敏夫・十河春男・尾崎秋夫・向井繁一・天雲正一・東原弘・清川忠・東原要・東原輝夫・東原義数・野田巧・野田正治・十河幸・木下信雄（香川町）▶松本みつ（日向市）▶松原寿子（坂出市）▶日本基督教団春日東教会山城順▶合田香代子（愛媛県）▶馬淵祥子（仙台市）▶田中チヨ（山口県）▶小松めぐみ（仙台市）▶山口勉（福岡県）▶飯盛菊枝（神奈川県）▶尾崎桂子（愛媛県）▶高階節子（豊島区）▶内林節子（世田谷区）▶谷口真三（豊島区）▶成田市立西中学校郵便友の会（千葉県）▶桜井慶子（東京都）▶尾内保之（豊島区）▶鎌ヶ谷市立南部小学校（千葉県）▶聖塔建設会長（東京都）▶カンダ洋品店（宮城県）▶西村麗子（東京都）▶野中聖幸（大川鐘ヶ江誌友相愛会）▶川本憲義（広島県）▶村田恒治（大阪市）▶北本清子（大阪市）▶新日本婦人の会県本部（山口県）▶笹田ひさ子（松原市）▶北中町婦人会（滋賀県）▶長本エキ（浦和市）▶福知山市石原遷喬小学校児童会▶ひかりマンション江村美代子（横浜市）▶永田英正（富山県）▶岡田サヨ子（室生）▶山田敏男（光市）▶水谷花子（豊中

市)増田鎮子(豊中市)▶小堀久子(東京都)▶井上胖(東京都)▶田村つね(群馬県)▶国会
捜検員一同(東京都)▶角豊信(東京都)▶平岡房江(小金中市)▶鈴木進次(足立区)▶稲東
美子(東京都)▶内田とし子(横浜市)▶大黒正一(豊中市)▶相本輝(東京都)▶三原悦代(東
京都)▶田原輝子(東京都)▶飛田マリ子(西宮市)▶梶文彦(東京都)▶栄光幼児グループ(東
京都)▶第一相模湖総B(相模原市)▶善通寺市東部小学校児童会▶大前好治(宝塚市)▶清水
幸之助(富山市)▶古森芳子(福岡県)▶三楽食品KK▶ボランティア協会(茨城県)▶藤崎長雄
(福岡県)▶加藤ちよ(東京都)▶小田敬一郎(富田林市)▶見の口親睦会婦人部(高松市)▶
志波静子(長崎県)▶高松市宝町婦人部▶第一本部久保原大B(相模原市創価学会)▶上地光子
(仙台市)▶山根雅記(鳥取県)▶長田信一郎(静岡県)▶山田隆郎(広島県)▶長尾ハル子(綾
南町)▶藤田幸子▶美星婦人会東永砂支部片岡美智子(岡山県)▶村山なぎ(津山市)▶中村ユ
キコ(神戸市)▶佐藤光子(島根県)▶香川県盲児光の家(高松市)▶美星婦人会東永砂支部室
山礼子(岡山県)▶松村(山口市)▶大藪光子(西宮市)▶上田テツ(大阪府)▶細川スミ子(観
音寺市)▶坂出商業高等学校家庭クラブ▶福岡武男(倉敷市)▶石川文雄(横浜市)▶村上裕子
・和久統子(徳島市)▶山田早苗(坂出市)▶三竹克己(東京都)▶まるいち支店従業員一同▶
佐藤実江子(広島県)▶三浦掟子(東京都)▶KK染の森川・森川博司(京都市)▶天理小学校6
年1組(奈良県)▶栄光幼児G(東京都)▶金光教御所協会(奈良県)▶浜田義雄(東京都)▶崎
本裕子(深谷市)▶管沼千代子(東京都)▶梅沢久子(糸魚川市)▶浅井(東金市)▶西山重平
(仁尾町)▶各井志奈栄・川中マツ・吉田一夫・小仲春輝・長田義弘・大倉ミキオ(島根県)▶
町立東小学校児童会(琴南町)▶西キミ子(東京都)▶是松麗子(泰野市)▶山本卯三郎(生駒
市)▶塚本幸恵(調布市)▶加藤のぶ(東京都)▶馬場多恵(守山市)▶粕谷勇(甲府市)▶安
原閣婦人部一同(塩江町)▶川瀬健一(島根県)▶広郵便局長▶安部芳子(引田町)▶河北恭子
(東大阪市)▶蓮尾克彦(大牟田市)▶田中トリ子(宇和島市)▶掛谷金二(生駒市)▶岡田マ
サエ(三木町)▶森田伍一(静岡県)▶柴田昭子(東京都)▶石田公美子(東京都)▶三田智子
(京都府)▶宮坂恭子(東京都)▶上川美代子(三重県)▶中村富子(牟礼町)▶玉伝小学校(和
歌山県)▶武智美子(大阪府)▶岡本まつ子(東京都)▶都市ビル設備KK(東京都)▶高野力(木
更津市)▶新日本婦人の会多度津支部田中直美▶観音寺一高家庭クラブ▶鳥居敬子(東京都)▶
藤田武則(東京都)▶町内会一同(大阪府)▶土屋(新潟県)▶日本赤十字社静岡県支部大堯津
地区長▶安田火災海上保険楠田豊(福岡市)▶斉藤海蔵(広島県)▶西信子(滋賀県)▶小野光
子(東京都)▶岡田マサエ(三木町)▶日本赤十字社福井県支部▶台町内会婦人部浅見(鎌倉市)
▶宮村喜代子(奈良県)▶塩崎かよ子(東京都)▶山内幸男(京都府)▶黒辺ヒロ子(枚方市)
▶藤原久男(玉野市)▶直井幹夫(丸亀市)▶小坂秀一(東京都)▶阿部多美子(玉野市)▶藤
元美幸・シゲ子(福岡県)▶藤村武子(茨木市)▶猪原末松(滋賀県)▶白川勝子・白川鈴子(観
音寺市)▶吹田市民より▶古川博一(奈良県)▶大坪誠(山口県)▶飯村伸二(岡山県)▶竹中
重雄(和歌山県)▶下川路隼子(東京都)▶木暮寿子(東京都)▶粟原美智(東京都)▶望月綾
子(静岡県)▶森尻秀子(新潟県)▶西岡京子(玉野市)▶林千枝子(新潟市)▶小林ソメ(郡
馬県)▶田中孝(加賀市)▶柳川清和(神戸市)▶遠坂省三(大阪府)▶夕部忠子(土佐中村市)

▶児高キヨフ（安芸郡）▶KKセキ（大阪市）▶岡本マツ子（広島市）▶西門民江（奈良県）▶深沢（富山市）▶棚元治彦（東京都）▶福田憲嗣（東大阪市）▶近石よしみ（大阪市）▶山下郁夫（奈良県）▶荒井和子（五日市）▶望月八千代（清水市）▶日本ビニールコートKK新田忠茂（八王寺市）▶富山（木更津市）▶浅井正保（愛知県）▶銜江口無線（長崎市）▶岡崎廸（福島県）▶黒地ヒロ（枚方市）▶見満かおる（千葉市）▶笠原（鎌倉市）▶石田有紀（東京都）▶塩沢明枝（甲府市）▶石江喜一（千葉県）▶奈良豊子（観音寺市）▶ナガローブ平野一号棟自治会婦人部（大阪市）▶角井キミ（神奈川県）▶小野寺恵・山毛美千代（東京都）▶太田敏子（福岡県）▶吉丸三樹子（埼玉県）▶相村元治（京都府）▶柴田明子（東京都）▶日中ヤスエ（東京都）▶阿部悦子（東京都）▶軽井沢郵便局島山▶西野美智子（東京都）▶鎌塚歌代子（奈良県）▶小川明子（西宮市）▶土井喜男（京都府）▶小山勇（広島市）▶宇田川弘子（東京都）▶厚木中学校（神奈川県）▶高橋 和（東京都）▶樋浦光子（東京都）▶斉藤かつ子（東京都）▶川崎幸子（西宮市）▶坂口千代子（三重県）▶細川仲子（藤沢市）▶木戸秀子（福井県）▶那須幸子（福岡県）▶神足すみえ（明石市）▶藤田ナミ子（愛媛県）▶滝沢泰男（長野県）▶新井美奈子（鎌倉市）▶つくし子供会（静岡県）▶小藪治美（町田市）▶宮本和昭（池田市）▶前野八千代（太田区）▶小谷秀輝（金沢市）▶安達盛次（大東市）▶山下邦子（佐賀県）▶大竹初子・紀美（福井県）▶山本紀子（福井県）▶石川能正（四日市）▶粕谷清司（市川市）▶岡本則子（京都府）▶KK岩林メリヤス（東京都）▶中西浄子（東京都）▶田中トシ子（愛媛県）▶大町昭和会婦人部（北海道）▶梅本亀乃（山梨県）▶金光教大野町教会信徒会（大分県）▶加藤正臣（名古屋市）▶猪川恵美子（千葉市）▶木全孝子（東京都）▶遠藤隆洋（福岡県）▶今立ヤエノ（島根県）▶NHK厚生文化事業団（高松市）▶池田竜太（東京都）▶蜂須賀豊（岡崎市）▶竹内弥（新潟県）▶林久江（多度津町）▶大阪警察学院附属高等看護学院自治会▶天理教引田分教会（引田町）▶銜千葉一心堂（北海道）▶北留間清徳（東村上市）▶南史子（東京都）▶津久井トシ子（栃木県）▶高野弘子（木更津市）▶西川文博（東京都）▶栗崎清（東京都）▶鷲柴正義（静岡市）▶谷口ヨシエ（北海道）▶土居富美子（大阪市）▶塩梅さち子（金沢市）▶丸山丸一郎（豊中市）▶中本一馬（大阪市）▶エビス子ども会井上百寿雄（山口県）▶河本一子（福岡県）▶大日本除KK東京支店▶佐世保市福祉事務所▶大野原小学校（大野原町）▶井上久彦（福岡県）▶古屋光雄（平塚市）▶岡本子ども会（鎌倉市）▶小松マツ・大倉幹雄（島根県）▶石川悠（栃木県）▶佐野紀美子（狭山市）▶川村元男（群馬県）▶松根敦子（川崎市）▶矢野文子（福岡市）▶崎本啓子（保谷市）▶渡信枝（福岡市）▶佐藤ゆう（東京都）▶小早川ウタ（東京都）▶第四銀行三条支店（新潟県）▶桜川良（名古屋市）▶鈴木不可止（日南市）▶尾内保之（東京都）▶田中喜代美（千葉県）▶奈良帝塚山小学校1年生星組松木義大▶安富けさみ（豊中市）▶佐藤正子（東京都）▶陸沢中学校職員生徒一同（千葉県）▶小山愛子（丸亀市）▶永島登美江（横浜市）▶佐野一雄（横浜市）▶中村豊・高木光代（奈良帝塚山小学校3年生組）▶多田正憲（高松市）▶渡会文子（山形県）▶下松社会福祉協議会長高田秀次（山口県）▶越智蜂子（吹田市）▶柴田照元（東京都）▶佐田味典子（石川県）▶堀越さだめ（千葉県）▶中塚瑤子（東京都）▶蓮井和子（福岡市）▶野村島（保谷市）▶板東みよ（東京都）▶古根村みち子（厚木市）▶多田志衣（東京都）▶丸山

幸枝(東京都)▶高湯正志外5名(広島市)▶間仁田弘子(川崎市)▶佐野和雄(埼玉県)▶三木桂吾▶永良哲郎(兵庫県)▶松田幸衛(高知県)▶飯泉光好(東京都)▶山内優美子(近江八幡市)▶みなど幼稚園父母の会(東京都)▶吉沢和美(千葉県)▶松井喜久(東京都)▶北山与之吉(東京都)▶前橋市一市民▶堀場美恵(京都市)▶田中賀代子(大阪府)▶森口登美子(京都市)▶小豆島病院▶宇野房子(大阪府)▶宮本利彦(東京都)▶市川益雄(東京都)▶大阪府岸和田市一市民▶久保ハルエ(高松市)▶浦田清子(岸和田市)▶武田義一(大阪市)▶生方秀夫(玉野市)▶大阪市立墨江幼稚園▶城西荘園自治会長・谷幸男(高槻市)▶安光カチ(府中市)▶西山徳隣(大阪市)▶茨木市長重富敏之▶三箇二丁目婦人会(大東市)▶第2相生老人クラブ会長篠田伸吉(東京都)▶山田文子(千葉県)▶片山光子(神戸市)▶石田存(宝塚市)▶平山五十子(東京都)▶新日本婦人の会多度津支部▶土屋正利(豊橋市)▶平岡千代子(呉市)▶井形和子・安田好子・福部芳美(丸亀市)▶三上隆行(松原市)▶小川一男(横浜市)▶小高正治(埼玉県)▶笠木菊二(東京都)▶内田定世(保谷市)▶大久保明子(東京都)▶松熊美佐子(大阪市)▶松井清一(飯山町)▶木村まつえ(函館市)▶粟山ほか5名(東京都)▶武田久(大阪市)▶佐田味典子(石川県)▶スワキ(島根県)▶全逋信労働組合広島中郵便局分会有志▶高山啓子(東京都)▶菊田真男(横浜市)▶原厚子(和歌山)▶山口敏江(東京都)▶河西真治郎(東京都)▶木内里子(三鷹市)▶杉立美恵(東京都)▶畑富美代(東京都)▶相場春治(東京都)▶小野寺瑛(東京都)▶中橋昭子(大阪市)▶川島容子(東京都)▶渡辺堪造(東京都)▶苗代美代子(大阪市)▶石津奎子(三鷹市)▶八尾久宝園第一町会10組・19組・9組・6組・16組・18組・1組・17組・14組・8組(八尾市)▶マンション福原・北野吉彦(八尾市)▶櫻村(高松市)▶大西実(岸和田市)▶加藤雅子(広島市)▶糸川ちづる(観音寺市)▶上田豊作(静岡県)▶山内洋子(岡山市)▶月溪幹(京都市)▶星野昌英(滋賀県)▶保沢広子(甲府市)▶長住田隆(稲沢市)▶丸亀商業高等学校家庭クラブ一同▶遠山八重子(愛媛県)▶邦正子(玉野市)▶升田政江(広島県)▶山田清広(千葉県)▶浅野知己子(堺市)▶竹浦子供会育成会(広島市)▶森本邦敏(玉野市)▶大西武雄(玉野市)▶小野祥子(観音寺市)▶深沢広子(甲府市)▶石川禎子(山形県)▶部落解放同盟香川県連合会▶佐伯建設工業KK四国支店▶ハトヤ商店▶千葉市立弥生小学校1年2組(千葉市)▶間組四国支店▶日本専売公社▶香川県創価学会(高松市)▶百十四銀行頭取中篠晴夫▶おきな堂野村整司▶高松西南ライオンズクラブ▶小仁井高志商店(岡山市)▶奥村組(高松市)▶マサゴスーパー(北地)▶日産自動車KK(高松市)▶香川県町村職員共済組合事務局長・安芸武▶土庄富丘生コン▶KK大本組高松営業所所長・村尾啓一(高松市)▶西日本建設業保証KK香川支店山地弘造▶日本放送協会高松放送局営業部副部長河野孝男▶日産建設KK四国営業所(高松市)▶讃岐鉄工KK営業部鉄構営業課▶日本共産党香川県委員会▶吉岡金庫▶小豆島生コンKK▶河西建設KK河西清一▶鹿島建設香川出張所▶堀本荒一(岡山市)▶大阪商工団体連合会三国良雄(大阪市)▶大都工業KK高松営業所▶理水化学KK大阪営業所▶三菱信託銀行高松支店財務相談室▶朝日生命保険相互会社高松支社社長・土庄営業所所長▶不動建設KK四国営業所所長吉田恒彦▶御牧婦人会会長村田タカエ(京都府)▶蜂須賀豊(岡崎市)▶讃岐薬品KK(高松市)▶二生小学校児童会▶大阪市長大島靖▶田中チヨ(山口県)▶高橋源市(埼玉県)▶向山美

鈴（山梨県）▶高橋深雪（佐世保市）▶河合寿美子（東京都）▶小倉福江（小田原市）▶竹中カマト（和歌山県）▶上川勝行（東京都）▶平井美代子（福井県）▶タイスベルカ（愛媛県）▶上野幸恵（東京都）▶ネジの高山（東京都）▶高橋（東久留市）▶藤原孝子（大阪市）▶青井美枝子（宇都宮市）▶上川勝（東京都）▶高橋秀喜（町田市）▶小倉福江（小田原市）▶田中ひさよ（長野県）▶小川裕子（横浜市）▶景山恒信（岡山市）▶四元マサ子（広島市）▶大曾根孝治（仁尾町）▶木原節子（高松市）▶肥田こむら（岡山県）▶岡山初子（中村市）▶高橋等子（広島県）▶赤崎幼稚園（岡山県）浅沼組社宅一同（八尾市）▶沖中芳郎（広島県）▶岡崎喜美子（大阪府）▶杉本繁夫（枚方市）▶松永明子（清水市）▶加藤直隆（京都府）▶滝本真人（和歌山県）▶斉藤文男（佐倉市）▶戸谷田美子（四条綴市）▶大北晃（善通寺市）▶松島操子（東京都）▶佐藤昇（栃木県）▶川島ハル（東京都）▶大森陽一（栃木県）▶重信節子（広島県）▶藤平伊佐美▶内田早苗（静岡県）▶吉沢国夫（栃木県）▶南部子供会（横浜市）▶矢部喜代子（千葉県）▶杉原則子（広島県）▶今井好子・横出博子（和歌山県）▶池田市一市民▶黒柳光夫（豊田市）▶金光初江（山口市）▶川辺礼助（東京都）▶鈴木さだ・ぎん（沼津市）▶織田種子（山口市）▶小倉匡勝（京都市）▶青木正治（東京都）▶佐竹悦子（高知県）▶カンタKK（宮城県）▶大西和子（豊浜町）▶小森房江（芦屋市）▶村井ボルト津営業所（三重県）▶本多（横浜市）▶若杉莊原田泉（東京都）▶中村高子（牟礼町）▶内山紀男（札幌市）▶椿武彦（三重県）▶駒井康子（東京都）▶中尾寿美子（東京都）▶井沢はまる（東京都）▶小沢静江（東京都）▶与那国稔恵（沖縄県）▶東京友の会（東京都）▶岡田（三木町）▶泉大津郵便局郵便課▶谷尻美代子（北海道）▶根本国男（東京都）▶岡沢よしこ（高松市）▶木村（茅ヶ崎市）▶塩見純子（大阪市）▶広野進（枚方市）▶花木富子（広島市）▶城立喜三郎（丸亀市）▶町内会一同（枚方市）▶日本植物KK（岡山県）▶藤田節子（八王寺市）▶荒井昭（石川県）▶梅田チヨ（京都市）▶吉田一（東京都）▶成田有年（宇治市）▶山本（京都市）▶町立千種保育園（三重県）▶保坂誠（新潟市）▶上村薫（三重県）▶秋安初美（福岡市）▶小池ゆき（福岡市）▶後藤公美（岡崎市）▶日本赤十字社群馬県連支部（前橋市）▶サクラ洋品店（丸亀市）▶木本悠義（和泉市）▶竹内章雄（津山市）▶鷺谷はま子（東京都）▶清水幸之助（富山市）▶中藤千鶴子（玉野市）▶嶋田慶久（倉敷市）▶蓮井芳子（東京都）▶谷内泰子（大阪市）▶渡辺昭一（沼津市）▶平岡千代子（呉市）▶池上文雄（玉野市）▶山並きみよ（仙台市）▶近藤信行（池田市）▶高橋松蔵（宮城県）▶菊池秋雄（釜石市）▶六地区子供会一同（東京都）▶飯坂藤野（島根県）▶新谷きみえ（埼玉県）▶松平たか子（小田原市）▶藤原久男（玉野市）▶田中トクエ（坂出市）▶中村（日野市）▶日下久美子（観音寺市）▶明善学園家庭クラブ（高松市）▶中村富子（牟礼町）▶斉藤田鶴子（日野市）▶大沢厚子（浦和市）▶大池康子（島田市）▶藤沢邦子（高松市）▶石川輝久男（三木町）▶伊藤栄寿（四日市）▶広野進（枚方市）▶角地チトシ（枚方市）▶大森馬吉（白鳥町）▶北川きん（池田市）▶角道晴（京都市）▶池田啓二（奈良県）▶野村幸子（東京都）▶渡辺明子・加藤千恵子・沢村克美・増田幸世・松本祥子・藤沢節子・渡辺ちえ子・鈴木ちえ子・岡村恵子・仲田るみ子・高木晃子・鈴木良子・紅林たつえ・高木時江・紅林昌代（島田市）▶町会婦人部滝瀬ゆう子（東京都）▶六地区子供会一同（小平市）▶高森芳夫（東京都）▶川島ハル（東京都）▶本多（横浜

市) ▶長岡節子(広島市) ▶平川幼稚園(栃木市) ▶幸田正昭(東京都) ▶新原妙子(東京都)
▶高瀬聖美(東京都) ▶寒川社会福祉協議会(神奈川県) ▶斉藤優(千葉県) ▶近藤喜代子(東京都)
▶星京子(三鷹市) ▶田中浪子(京都市) ▶日本セメント ▶千葉県大利根土地改良区 ▶田
久保美智子(武蔵野市) ▶宮内鶴子(東京都) ▶沢ふみ子(長野県) ▶片山照美(松江市) ▶赤
塚 碩夫(大阪市) ▶寺田正中(東京都) ▶金子サヨ(東京都) ▶多賀町立小学校PTA(滋賀
県) ▶こぶし班(新日本婦人会台東支部) ▶直島正夫(東京都) ▶佐藤まさ子(豊島区) ▶象印
マホービンKK(大阪府) ▶小豆島ライオンズクラブ ▶鴻巣北中学校3年4組(埼玉県) ▶福本善
美(大阪府) ▶日本キリスト教団京都教区事務所 ▶生野民主商工会(大阪市) ▶石井(千葉県)
▶葉本ナミ子(八尾市) ▶黒島敦子(玉野市) ▶五十嵐商事KK(新潟県) ▶今西永児(西宮市)
▶長勝寺(遍路さんより) ▶新日本婦人の会山口支部(山口市) ▶しらうめ幼稚園(清瀬市) ▶
熊野道子(豊中市) ▶小豆郡内海町坂手第5班納税組合つばい米昭 ▶森田勇(兵庫県) ▶三木修
(堺市) ▶須田洋子(宮城県) ▶向井弘子・香取美枝子(茨城県) ▶白炭晶子(宮城県) ▶浦田
佐知子(船板市) ▶佐藤孝子(船橋市) ▶早川恵美子(東京都) ▶日本セメントKK(東京都) ▶
藤田由紀(川崎市) ▶喜山聖子(東京都) ▶秋山勝子(東京都) ▶斉藤フヨ(東京都) ▶関川美
代(東京都) ▶岩田光江(東京都) ▶小林洋子(東京都) ▶真海操(東京都) ▶藤田浩司(東京
都) ▶飯田富美子(東京都) ▶北沢みきこ(東京都) ▶日本ビニールコードKK(八王寺市) ▶粟
栖寿美子(大阪市) ▶青木義道(神奈川県) ▶橋本明子(潮来町) ▶小野寺文(東京都) ▶間下
征子(東京都) ▶池田啓子(秋田市) ▶全連浜南支部港南分会青年部(横浜市) ▶小倉春子(東
京都) ▶野村銀雄(東京都) ▶井上実(東京都) ▶佐伯吉憲(東京都) ▶井上信次(東京都) ▶
斉藤実(東京都) ▶島田良憲(秋田市) ▶藤田赤二(東京都) ▶寺瀬雅子(東京都) ▶新日本婦
人の会山口県本部 ▶伊藤安子(東京都) ▶片山民子(東京都) ▶岡尾光彦(八王寺市) ▶飯盛菊
枝(神奈川県) ▶金丸幸雄(長崎市) ▶傍嶋左和子(八尾市) ▶飯田知子(八尾市) ▶角地チト
シ(枚方市) ▶新原妙子(東京都) ▶山口陽子(東京都) ▶岩崎和子(東京都) ▶増井八五郎(滋
賀県) ▶奥原良子(北海道) ▶寺田正中(東京都) ▶掛谷信子(保谷市) ▶秋本恭子(東京都)
▶岡本ツヤ子(丸亀市) ▶宮間鶴子(東京都) ▶平沢敏夫(横須賀) ▶大木寿江(東京都) ▶斉
藤裕夫(東京都) ▶大隅陽子(桶川市) ▶辻村うめ(東京都) ▶亀川フユ(東京都) ▶高瀬聖美
(東京都) ▶中窪キク(甲賀町) ▶田中シズ(新潟市) ▶小沢直子(愛媛県) ▶芝直美(愛媛県)
▶島ひろみ(福岡県) ▶伊藤キヨ(東京都) ▶武部亮一(東京都) ▶岡本則子(向日市) ▶篠崎
昭男(茨城市) ▶片山光二(宇治市) ▶天保(町田市) ▶川崎松雄(京都市) ▶平井友明(玉野
市) ▶船橋一夫(愛知県) ▶日下部勇(京都府) ▶細野服装学院(東京都) ▶高瀬町社会福祉協
議会(高瀬町) ▶紀伊民報(田辺市) ▶川村秀子(高松市) ▶佐藤イサノ(三野町) ▶浜中利
基男(京都市) ▶KK若登三沢登(八王寺市)

※(上記は町災害対策本部受付分のみですので、本部を通さず現地届けられたもの等につい
ては記載もれがあるかもわかりませんが、ご了承下さい。)

災害を体験して

災害対策に思う



西田卓荘（前土庄土木事務所長）

昭和51年9月10.11.12日の3日間は、私にとって忘れることのできない悪夢のような日々でした。台風17号による集中豪雨は、この日小豆島の全土を襲い、主要幹線道路は各地でズタズタに寸断され、多数の崖崩れや山津波が発生し家屋がつぶされ、田畑が流されたり、全島で死者39名、全半壊家屋545戸に及ぶ大きな被害をもたらしたのです。特に池田町の谷尻地区は、三方を山に囲まれ、港はおだやかな入江となり、恵まれた静かな地区でしたが、記録破りの豪雨により白浜山東斜面に発生した崩壊は一瞬にして土石流となり谷尻地区に襲いかかったのであります。そのため、19戸が倒壊、24人がなくなれば家屋や田畑等すべて土砂の下に埋まる等、その惨状は目を覆うばかりでした。被災後しばらくは、まだまだ土石流の深いツメ跡があちこちに赤茶けた山膚をさらし、流れ落ちた土砂は田畑を埋めつくしたままで雑草が生え茂り、被災者の方々の仮住居である応急住宅が私には心暗く胸をしめつける思いがしたものでした。

一方において、島民達は悲しみをのりこえて、オリーブの実る平和の島「小豆島」の復興に雄々しく立ち上り、復旧も急ピッチですすんだおかげで、あれから2年余りたった今では被災地の痛々しい傷跡もいえ、被災前以上豊かで住みよい観光地「小豆島」が再建されつつあります。すなわち、上部の山腹の崩壊ヶ処には砂防ダムが島内で53ヶ処（事業費50億円程度）も完成し、今や防災トリアとしてたくましい勇姿をみせ、荒れ果てた田畑も排土作業による原形復旧もすすみ、それと平行して農業構造改善事業としてガラス張り温室が建設され、近代的な菊の生産団地として生まれ変わりつつあります。一方、災害公営住宅も再び襲ってくるかもしれない災害に備えて、鉄筋コンクリート造りの立派なものが島内で12団地（103戸分）完成したと聞いています。このように復旧が順調に進んだ理由として次のことが考えられます。

- (1) 台風下において、自衛隊員、自治消防隊員、各地奉仕団の方々が応急作業に、避難誘導に又、救援活動にとめざましい活動をされたこと。
- (2) 河川、砂防、道路等の復旧に必要な用地買収については、関係者の方々の深い協力とご理解により、殆んどスムーズに行われたこと。
- (3) 建設工事の執行にあたっては、地元建設業者は勿論のこと、島外から大手業者50社の応援を得て、積極的に復旧に取り組んだこと。
- (4) コンクリート、セメント等の建設資材が多量に必要であり、これの不足が心配されたが、資

材業者の採算を度外視してのご協力によりなんとか都合がついたこと。

(5) 17号台風後、今日まで2年半程、台風の来襲は皆無で、大雨らしきものもなく二次災害の発生がなく、工事が予想以上のテンポですすめられたこと。等々であります。

次に今後の災害対策としてであります、

- (1) 急傾斜地や溪谷等に砂防堰堤の工事や山地崩落の斜面に緑化工事を行うこと。
- (2) 急傾斜地での宅地造成や、山林の乱開発は山の保水機能を失なうと同時に水脈を変え、山津波を誘発することも考えられるので、これらの行為を厳しく規制すること。
- (3) 危険地帯にある家は、安全な海岸か埋立地に移転すること。又、安全な場所に避難所を設置すること。
- (4) 河川の拡巾や堤防嵩上等の河川改修工事を行うと共に、常時河川浚渫を行い、水を流れやすくすること。
- (5) 常時浸水地帯には下水道事業を起し、排水施設を増強すること。

以上の対策が必要と私は考えます。

最後に、災害は忘れた頃に突然やってくるものであります。官民一体となって島百年の大計のため、今後共、災害対策に最大限の努力を傾け、取り組まれて、いついつまでも平和な島でありますようにと、心から願うものであります。



忘れ得ぬ大災害に思う

山本久義（前南蒲野地区総代）

変わりゆく社会情勢の激しい中で、私達は、過疎化が進む郷土を守って、住みよい地域づくりをと願い、互いに努力してきました。

ところが、忘れることのできない去る51年の台風17号は、空前の豪雨をもたらし、この平和なわが郷土を悪魔のごとく襲い、畑や家屋を一瞬にして流失崩壊させ、何物にも替えることのできない多くの人々の尊い生命まで奪い去ってしまいました。人の力では如何ともしがたかったこととはいえ、あまりにも無惨に変わり果てた惨状をみて茫然と立ちすくんでしまった9月12日の朝のことは、つい先日のようにさえ思えてなりません。2年有半の歳月では到底そのショックを癒すことはできず、肉親を失ったご遺族の心中は如何ばかりかと察するになお計り知れぬものがあります。

だれもが一度も体験したことのない大惨事の悲しみや怒りや失意の錯綜する大混乱の中で、まず何よりの急務は、被災者の救済と、行方不明者の搜索でした。一刻もはやく全員が発見されることを一心に願いました。陸海自衛隊、県警機動隊、消防団員、その他各方面の方々の適確な判断と懸命な搜索活動によって全員収容できた時の感慨は生涯忘れることはできません。

また、町内の皆様の我を忘れての救援活動や、各地から差しのべて下さった真心のこもった温かい救援の手は、不安と混迷の私達に、復興再建への活力を与えて下さいました。

町当局をはじめ、国、県の関係の方々のご尽力によりまして、復旧防災工事が着々と進められお陰をもって、一応一段落したことに、地区民一同深く感謝し、新しい郷土づくりの気力を高めている次第です。

今は亡き方々の在りし日の面影や業績を思う時、新たな悲しみがこみ上げてきて心が痛みます。私達の心の中には、この方々の美しい姿がいつまでも残ることでしょう。

ここで私達が考えなければならないことは、この災害で得た悲しい教訓を今後になんかして、再びこのような惨事を繰り返さないようにすることです。

それにはまず何よりも、毎日の生活の中で、いつも安全が保たれているということが大切です。安全が脅されるのでは、生活の安定も繁栄もありません。

自然は常に万物に恵みを与えていますが、一つ違えば、あのような全く想像もつかない出来ごとを生じさせる恐ろしい反面をもっていることを痛感しました。このような自然の中に住む人間として、自然の脅威からのがれ、うまくこれを利用していかなければなりません。また機械化が進み、スピード化した現代社会の中にひそむ危険に対しても、あらゆる防災対策を講じなければならないことは言うまでもないことでしょう。砂防堰堤ができ、防災工事が進んで安全度は高まりましたが、それが完全に保たれるわけではないので、常日頃から自分の安全は自分で守るということを実感して、物事に対処していかなければならないと思っています。

さらにまた、災害を通じて、人の尊厳と、人の力を結集することの大切さと、その力の偉大さを強く感じました。人は1人ではどうにもなりません。また、大勢の中で1人の反対のために事が成し遂げられない場合もあります。1人1人の人間が、個々の意見や立場を生かしながら、全体の向上発展を計っていくことが必要だと思えます。

そして、地域住民が互いに深く理解し合い、助け合い、励まし合って、安全で住みよい郷土づくりをしたいと願っています。



台風17号災害をうけて

八木 成 晴（室生地区総代）

一、天災か人災か

年間雨量に勝る雨量が、数日に集中された豪雨が災害をもたらした事は、全く天災というべきだとも思う。

大学の調査による地質的地殻構造の必然性も明らかになったし、更に今後も土砂流の発生が予想される地質からの天災的要因と肯定すべきであろう。

数年前の数日間燃え続けた山火事による裸山が岩石の転落を増幅したことも事実であろう（石

場地区)。

山上開発による種々の整備工事による崩壊し易い堆積土を各所に蓄積し、集中水勢の奔流をまねき表面部の震動変化による雨水の地中浸透を容易にしその増量による一部表土の地沁りの崩れを助長したとも考えられる。県道の嵩上げ改修の際に於ける暗渠口の狭小による簡単に閉塞されたために流路変更を来たし人家被害を増大した点(奥山)等調査不十分管理不十分の人災的要因が極めて多いとも思われる。

今後この災害分析による対策の樹立が避難対策周知連絡網の整備以上に大切ではなからうか。

二、救援をうけて

全国各地からの救援物資をうけて限りない感謝を捧げるとともに、社会の荒廃をいわれる現代のうち、尚、美しい心の底流が身に泌みて人間と社会の健全性が確信された。

激しい被災を経験した地域からの質、量ともに強い心の暖かさを感じることが出来たのは、云いしれぬ受けた者の受ける者への真情にうたれ人の生き方を教えられる思いであった。

三、救済されぬ罹災者

林ちよこさんは、産後の休養で実家に帰り回復帰阪の予定を一日延期したために罹災した。両親と祖父母は死亡し、自分は腰部以下不能の傷害をうけた。土砂と材木にはさまれた下半身、数尺の近くで母は土中に埋没している。まだ生命は断っていないがどうする事も出来ない。救出後、高松、大阪と数病院を経たが、結局どうにもならぬまま将来半身不随のままの生活を続けなければならなくなった。夫とその家庭は当初とは変化して遂に離婚、子供2人とも面会も出来ない、いま再訓練の生活を努力している。春秋に富む今後の苦悶の人生は一面、死、以上のものかもしれない。この町に生まれ、この町で成長して、この町に帰って災害を受けた。でも一片の住民不記載は何の援助も与えられなかった。町外に避難した地区民のことばにも、行政区外のための救援差があったかの言葉もある。非現実的な救済活動が許されていていいものか、最大の疑問である。

四、復旧工事について

原状復旧が本論で一部改良された地域もあるが、水路、農地等の工事計画実施に当り不思議でならない思いをさせられた。巨費を投じて復旧工事の施工である。被災者自身も負担する。利用性の増大による価値性の上昇を計る事で、禍を転じて福とする。経費の制約は勿論考えなければなるまい。然し限度の見通し概算は不可能なことではない。個人負担が増加しても復旧後の合理性を尊重しなければなるまい。現地主義、法適用の柔軟性を極力要望したい。生きた行政がほしい。

五、これから

災害要因の分析検討と防災対策の検討が、われわれの今日的義務であることは、言をまたない。行政的対策もさることながら、住民一人一人の精神的、行動的、物理的対応準備の確立を計ることが最要事ではあるまいか。



昭和51年災害（17号台風）の発生状況と 池田町消防団第4分団の出動記録

岡 覚（前池田町消防団第4分団長）

9月8日以来、小豆島全域にわたり1,200mmから1,400mmという年間雨量が、僅か4・5日間で降り、河川の決壊、山津波による悲惨な大災害は今もなお脳裏に焼きついてはなれません。

9日夕刻大雨洪水注意報発令により、団員を召集し、午後9時より室生の大池ならびに新池の巡視に出た。36年災害の堤防決壊で室生地区に大きな災害をもたらしたので、9日の夜は休むことなく、3回にわたり室生地区を巡回した。

翌10日午前6時30分池田消防分署より池田町役場に、水防本部設置の連絡を受けた。

10日午前9時30分頃、分団長、副分団長、班長4名の計6名で河川の水位を見て廻り、午前10時から11時まで池の内豊栄川で橋につまっていた草や竹などの取除き作業を行う。

10日午後2時団員出動、竹生、鶴留とし子宅の北側に土俵250俵積み上げ、午後4時10分終了し、団員一部室生に帰る。午後5時10分より池田町公民館二生分館にて待機し、夜団員4班に分れ、1班5名で室生地区を巡視する。

11日、赤坂県道にて長さ10mにわたり地割れを発見し、直ちに附近の住民に避難の指示を与えた。午前10時40分位、竹生後藤榎宅の北山より小さな山津波があり、団員12名で140俵の土俵を積み、午前11時10分頃終了し、池田町公民館二生分館に引揚げる。午後2時20分頃、後藤宅に2回目の山津波が押寄せ。室生より団員10名で再び土俵積を行い、午後3時30分頃終る。午後4時、赤坂、岡豊子宅の上にある池が決壊し、家の両側に土俵積を行う。午後4時30分頃赤坂県道が50mにわたり、決壊し交通不能となった。午後4時40分、団員は室生地区及び赤坂地区、竹生地区と3班に分れ、各地区で土俵積又は流上、土砂などをかわす。午後4時50分、竹生県道で土俵積とパネル18枚を使って流水をかわす。午後8時7分まで土砂をかく。午後5時室生丸山より赤坂まで約1.5kmの間、土砂、流木などで交通不能となり、その直後停電し、電信不能となった。雨は一段と激しくなり、午後8時10分山津波の前ぶれあり、午後8時13分頃、全員に早く逃げるようにと大きな声で叫ぶ。午後8時15分頃大きな音響と共に山津波が押し寄せ、あっという間に避難者24名と家屋をのんでしまった。降りしきる暗い豪雨の中で、避難者の助けを求める叫び声がある。こちらに聞き、寒さと恐ろしさに震えた。更に午後8時20分頃2回目、そして午後8時25分3回目の山津波が起った。赤坂地区14戸の内、全壊10戸、半壊2戸という無残な状態となった。住民の安否を気遣いながら冷たい雨の中で長い長い一夜を過ごした。

翌12日午前5時、団員6名で救出作業にかかり19名を救出し、赤坂避難所（岡万民宿）に誘導避難させ、5名の行方不明者があることを確認する。午前6時40分頃徳島測候所の予報では、今後なお西日本を中心に500～600mmの降雨量があるという情報が入り、更に危険を感じたので午前7時10分団員全員と室生青年団、消防OBの方々の協力を得て室生農協支所に全員避難する。午

前10時より地区民及び第4分団全員で不明者の救出捜索に当り、午前10時20分頃1名を遺体で発見、タンカーで内海町竹生浜まで運ぶ。午後3時30分頃1名を遺体で発見する。午後4時40分頃全員池田町公民館二生分館へ引き揚げる。午後6時より各地区総代、議員、分団役員で今後の対策について話し合い、午後10時より2班に分かれ室生地区を巡視する。

13日午前8時より、団員21名、住民50名、自衛隊員40名、県警機動隊22名で不明者の捜索に当る。手がかりなく全員午後5時引揚げる。

16日午前7時30分、団員10名、住民60名で捜索に当る。手がかりなく全員午後5時引揚げる。

17日午前7時30分、団員15名、住民50名、捜索に当る。午前10時20分、最後の1名を遺体で発見し、午後2時40分竹生地区を引揚げる。

翌18日は、団員、住民共に疲労が激しく一日休養をとる。

19日 団員16名で谷尻へ行く。

9月22日午前10時より、団員12名で室生地区46戸の井戸替えをする。午後6時終了。

9月23日奥山県道の下、暗渠の土砂除去作業を行い、午後1時全員引揚げる。

以上悪夢のような災害状況と団員の出動状況をかいつまんで申上げましたが、9月9日以来、長かった水防や捜索に団員の方々、そして室生地区住民の方々には、激度の疲労にもかかわらず一丸となってお協力して下さったことに対しまして、深甚の謝意と敬意を表すると共に、尊い犠牲者となられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申上げる次第であります。

このような未曾有の甚大な災害を体験し、消防団員の1人として、又池田町住民の1人として今後常々気象情報に注意し、いち早く避難誘導をする必要性を痛感すると共に、決意を新たにするものであります。

この悲しい教訓をもとに、関係当局と住民の皆さんが力を合わせて、復旧事業と今後の防災対策に全力をあげ、再び悲しみの歴史を繰り返さないよう、最大の努力をすることこそ、尊い人命を奪われた犠牲者の御霊をお慰め申し上げる道に他ならないと信じます。



昭和51年 第17号台風を顧みて

浜 岡 久美子（池田町漁業協同組合職員）

私の故郷、谷尻が土石流のため一瞬にして、民家21戸を押し流し、尊い24名の人命も瞬時にして、失われた時のことを大変悲しく思います。

以前の私の住家のあった土地に来る度に、私が過した屋根裏での36時間を思い出します。あの一瞬の出来事から一日半、私たち姉妹は家の下敷きになり、どうにかして早く気づいてもらおうと一生懸命二人でできるかぎりの事をしました。けれど最後には、力もなく声もでなくなり、どうすることもできず、本当に辛かった。この長い間生きた心地はしませんでした。透き間から日が差し込んできた時、ほのかに貯金箱が見えたので、貯金箱をふって早く気づいてもらおうと必

死でした。それから数時間たち、近所の人に居場所をわかってもらえた時は本当に大変嬉しかった。この嬉しさは、体験者でなければ、わからないと思います。今思えば、二人でいられたこそ気が確かで、又、二人力を合わせ、長い間耐えられたと思います。

その後、二年間仮設住宅で過し、いろいろ、さまざまな不便さ、辛さを味わい災害に遭わなかった家を見る度に、いろいろと考えますが天災と思って諦めてきました。二度とこのような大災害には遭いたくありません。

最後に災害で全国からいろんな救援物資を頂き、本当に心から有難く感謝致します。復興のなった谷尻砂防、谷尻川また復旧の民家を目の前に、皆様方のご配慮、心から感謝致します。

こわかった台風17号



浜 口 礼 子 (三都小学校 六年)

わたしの家は、おばあちゃん、おとうさん、おかあさんと兄弟4人で仲よく平和に過ごしていました。でも昭和51年の台風17号の時おとうさんは、消防団員だったので市神子へ行きました。それから何分かたってわたしの家に水がはいってきました。近所のおばさんたちが水を出すのを手伝いに来てくれました。それから何分かたち水がひいていきました。おばあちゃんが近所のおばさんたちに、「うちはえいから家に帰って。」と言って帰ってもらいました。あとおばあちゃんと、おとうさんの姉と、お兄ちゃんが水を出し、久志と、おねえちゃんといんきょへ行って三人でいると、こわかったのでおもやのほうに行きましたが、お兄ちゃんと、おばあちゃんがまた、「いんきょへ行っとき。」と言ったので行きましたが、2・3分たつたたないうちに「ドーン」とかみなりが、いっぺんに10個も20個もいっしょに落ちたような音がした。わたしたちは、びっくりして階段をかけ下りて、くつをはき、まどから外を見ると、わたしの家がなかった。わたしはほつたを何回もつねってみたがとてもいたかった。もうわたしたち三人は、「助けてえ」とけん命にさけぶほかなかった。それから5分ぐらいたち、まどから、おとうさんと、おかあさんが助けに来てくれ、小さい順から出ていきました。わたしが「おかあさん、おばあちゃんと、お兄ちゃんはどこ」と聞くと「下じきになっとなや」と言い浜崎さんのおばあちゃんに「はいらして」と言ってまどからはいらしてもらいました。げんかんにくつを置こうとしたら「ベキベキ」という音がすると同時に水が入ってきました。「おばあちゃん、水がはいってきた」というと「二階へ行っとき」と言われたので二階にいと、おばあちゃんがあがってきて、「服がぬれとなやろ」「ううん、わたしたち二人はぬれてないけど久志が」と言うと、学君の制服を着せてくれました。それからねていると、おばあちゃんと、お兄ちゃんの声が聞えた。それから何時間かたって、お兄ちゃん、おばあちゃん、おばあちゃんという順番で出てきました。三時間ぐらいたって保安庁の船が来た。けが人、おとし寄りの順に次々

に船に乗っていった。わたしたちは一番最後に乗りました。波が大きくてこわかったけど、おとうさんと、おかあさんといっしょになったからあまりこわくはなかった。久志は安心してねむっていた。坂手につくと、おとうさんと、おかあさんは、おばあちゃんについて行ったので、わたしたちは星城小学校へ行きました。それから夜になって、おかあさんの妹がむかえにきてくれたので、おばさんの家に行きました。何日かたち合同そう式の9月29日プレハブ住宅で家族みんなにあったので、とてもうれしかったです。

合同葬儀

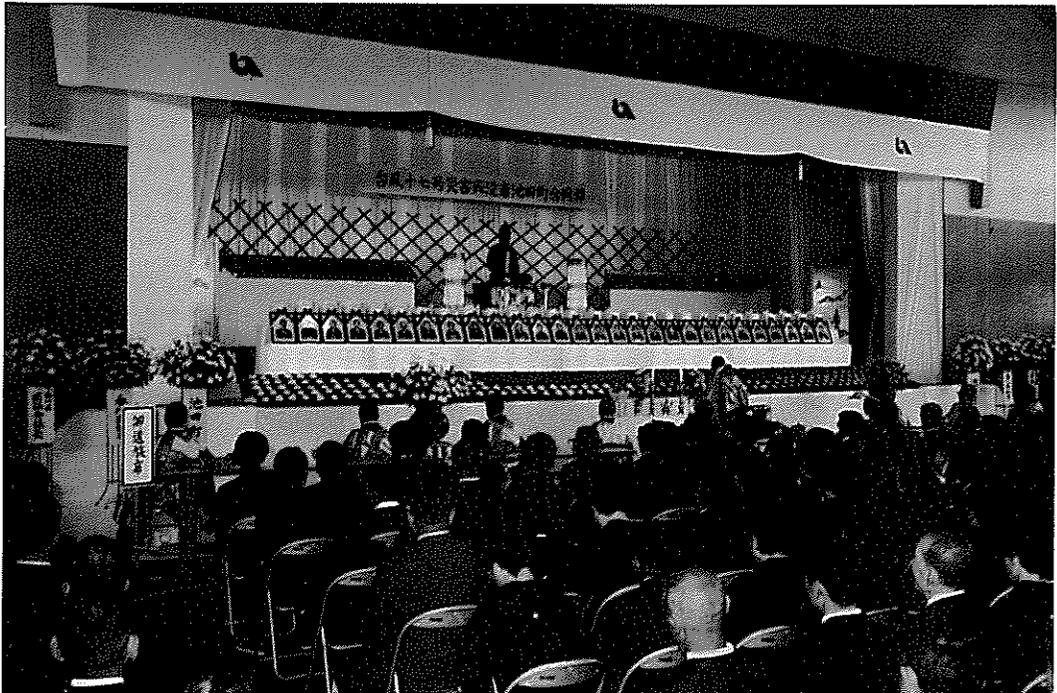
台風17号がもたらした集中豪雨による災害から18日たった、9月29日午後2時から池田中学校体育館で、悲しみも新たに「台風17号災害死没者池田町合同葬儀」が行われました。

多数の参列者は、白黄の菊の花で飾られた28名の死没者のありし日の姿の遺影に対し、ごめい福を祈るとともに、「二度とこのような悲惨な災害を繰り返すまい」と誓いました。

式は真言宗総本山善通寺蓮生善隆管長ら11人の僧侶の読経に始まり、佐々木町長は「28名の方々の安らかなごめい福をお祈り申し上げるとともに、再びこのような悲しみの歴史を繰り返すことのないように最善の努力を尽すことをお誓いします」と弔辞を述べ、続いて前川忠夫県知事、被災地区を代表して八木成晴室生地区総代、小磯治芳県議会議長、大森登喜男町議会議長が悲しい別れの弔辞を述べると、式場内にすすり泣く声があふれました。

遺族の中には、家を離れて勉学中の娘さん一人を残して、家族全員が家とともに濁流にのまれた方、結婚式を目前に迎えて、楽しい新生活を夢みながら働いていた娘さんが一瞬にして祖父母、両親を失うなど、言語に絶するものがあり、悲しみに包まれたご遺族の焼香姿が参列者の涙を誘っていました。また、式場へ行けなかった人たちは、午後2時30分泥にまみれながら復旧作業の手を休め、一分間の黙とうを捧げ、死没者の方々のごめい福をお祈りしました。

永遠の眠りについた犠牲者の皆さん……………安らかにお眠り下さい。



(昭和51年台風17号災害死没者)

氏名	住所	生年月日	年令	被災場所
明田 達雄	香川県小豆郡池田町大字蒲生甲919	昭 5. 3.23	46	赤坂
林 仁助	〃 大字室生893-第1	明 26.11. 5	82	〃
林 稔	〃 〃	大 13. 5.15	52	〃
林 隆子	〃 〃	大 13. 6. 1	52	〃
浜口 ハツエ	香川県小豆郡池田町大字蒲野3228	明 44. 1.15	65	谷尻
下本 仲次郎	〃 蒲野3181	明 29. 2.23	80	〃
下本 シモ	〃 〃	明 41. 2.20	68	〃
下本 照雄	〃 〃	昭 3. 2.11	48	〃
下本 恵美子	〃 〃	昭 6. 5. 3	45	〃
下本 照美	〃 〃	昭 22.12.10	28	〃
岩崎 浪次	〃 蒲野3244	大 4. 9.20	60	〃
岩崎 イサノ	〃 〃	昭 3. 3.12	48	〃
中岡 利太郎	〃 蒲野3251- 1	明 38. 9.23	70	〃
中岡 ヒサエ	〃 〃	大 5.11.15	59	〃
浜岡 アサノ	〃 蒲野 3210	明 35. 3. 1	74	〃
谷上 久一	〃 蒲野3235	明 42.11.18	66	〃
谷上 テルコ	〃 〃	明 43.11. 5	65	〃
谷上 節男	〃 〃	昭 9. 2.14	42	〃
谷上 節子	〃 〃	昭 11. 8.21	40	〃
谷上 久喜	〃 〃	昭 35. 5.20	16	〃
谷上 明宏	〃 〃	昭 37. 8.25	14	〃
岡田 茂	〃 蒲野3231	大 元. 8. 1	64	〃
岡田 ヨシ子	〃 〃	大 13.11.28	51	〃
下口 イチ	〃 蒲野3180	明 31. 7.23	78	〃
山本 テルノ	〃 蒲野3278	大 10. 2.15	55	〃
山本 徹	香川県小豆郡土庄町湊崎甲928- 6	昭 22. 2.17	29	〃
中岡 イチ	香川県小豆郡池田町大字蒲野3166	明 18. 2.15	91	〃
中岡 ミドリ	〃 〃	昭 2. 1. 8	49	〃

弔 辞

無念、無情の台風17号は悲しくも28名の方々の尊い生命を奪い去ったのであります。返す返すも痛惜の極みであります。

本日、ご遺族の方々並びに香川県知事さんを始め来賓多数のご参列を賜り、ここに池田町合同葬儀を執り行うに当り、町民を代表して謹んでご霊前に額づき謹んで弔辞を申し上げます。

過ぐる9月8日台風17号の来襲を受け、降り続いた雨は日増しに雨量を増大し、11日からは大豪雨となり各所で山崩れ、山津波を引起し、河川、溜池の氾濫、堤防の決壊、家屋の倒壊、流失相次ぎ、菊如等大切な農地を洗い流し、平和な我が池田町を一瞬にして修羅の巷と化せしめ殊に傷しくも、28名の方々の尊い生命を奪い去ったのであります。

更に、重軽傷者28名、全壊家屋60戸、浸水家屋1,495戸と被害は全戸数の80%に及び、又、道路、河川、農地等大損害を蒙ったのであります。

しかし私達は、これにくじけてはなりません。涙を振るって皆さんと共に、皆さんの深い理解と協力をいただいて全力を挙げて、この災害復旧に取り組み、池田町にとって未曾有のこの難局を乗り切って前進する決意であります。ただただ惜しむらくは尊い生命を失なわれた28名の方々は今や幽冥、境を異にし、呼べど答えず、叫べど帰らず、再びあの元気なお姿に接することができません。ご遺族の方々のご心中如何ばかりかと万感胸に迫り断腸の思いを禁じ得ない次第でございます。

又、ご遺族の方々の中には、実家を離れてとおく勉学中のご長女一人を残して全家族が家と共に山津波に吞まれ、又、目睫に控えた結婚式を夢みながら異郷の地で就職しておられたご息女が一瞬にして祖父母、両親を失う等、数々の目を覆う悲惨な姿は正に筆舌に尽し難く言語に絶するものがあります。

今はただ、亡き28名の方々の安らかなご冥福をお祈り申し上げると共に、再びこのような悲しい歴史を繰り返すことのないように、最善の努力をお誓い申し上げます次第であります。

終りに鑑み、28名の方々のご霊魂は永久に安らげくこの地鎮りまして、ご遺族の方々に対し限りないご加護を賜りますよう、ひたすら祈念して弔辞と致します。

昭和51年9月29日

池田町長 佐々木 武 雄

本日ここに、今次台風17号による集中豪雨によって、悲しくも犠牲となられた28柱の皆様のご告別式が執り行われるにあたり、謹んで弔辞を申し上げます。

谷尻の皆様、室生の皆様、かくも多くの皆様と一変にお別れしなければならないとは、何と悲しいことでしょう。

あまりにも酷い天の仕打ちが恨めしくこの大災害が予知できずして、皆様方をお守りすることができなかった私達の無力さが今更のように悔まれ、申し訳なくて胸が一杯であります。

思えば里の皆様が朝夕親しまれたあの裏山や段々畠が千ミリを越す豪雨によって、11日の真夜中に雪崩のように奔り、瞬時にして皆様方を土石の中に閉じ込めてしまいました。

この驚くべき悲報に駆けつけた町ご当局をはじめ、消防団や警察、自衛隊など延数千人の人達の懸命の救助活動にもかかわらず、遂に28柱の皆様をお救いすることができませんでした。

とくに15日もの長い間、独り渚の砂子に埋み、眠っておられた御霊のことなど思いますときまことに断腸の思いであります。

最愛の肉親を失なわれたご遺族のご心はいかばかりか、お慰めの言葉もありません。

私達が決して忘れてはならないことは、皆様が遺されたこの尊い教訓であります。

これからは、県を挙げ、力を合せて再びこのような惨事を繰り返さないため、万全の方策を講ずることをここに固くお誓い致します。

在天の御霊、どうか安らかにやすみ下さい。そしてとこしえにわがふるさとをお護り下さいますようひたすらお願い申し上げてお別れの言葉と致します。

昭和51年9月29日

香川県知事 前川 忠 夫

未曾有の今次大災に依り不幸、災危に生命を失われました皆様のご霊前に謹んで心からの弔辞を捧げます。

過疎という波風の中で、静かな老後の生活を守りつつ地域連帯の一員として務を尽して郷土を守られていた十余人の老人の方々、世代の中心として活動されつつ在った壮年の方達、更に未来を夢見て学窓に励みつつあった中高生の谷上君ご兄弟、不慮の今私達何んと申し上げてよろしいやら捧げる言葉がございません。

10日、11日と豪雨襲来の子報の度を増し、たたきつける雨足の激しさに不安を感じつつ、水勢、監視に身を呈して過ぎれんとしたその夜でした。予想だにしない強大な山崩れが土砂流となり一瞬に部落を埋没しました。数分間の出来事でした。退避の判断も許さない全く瞬間でした。

一家全員、夫妻ともども雨着姿のまま、又学用品を手にしつつ生命を奪われた皆さんの心事を偲ぶとき身も心も限りなくうずきます。自然の猛威抗すべき術なしとはいえ、非常の極み哀悼の辞もございません。

只一人残された文子さん、両親と祖父を失なわれた林さん、病床で知る妻子の訃報、帰るのを安心してして待ち続けた明田さん、事情を異にしてもその心情を察し言葉を絶します。

9月3日の高令者学級で古稀の集を開き意義ある今後を誓った中岡君もいまはなく、幽明世界を異にし数日前の明るかった皆さんをただ偲ぶのみになりました。

今はひたすらにご冥福の安かさを祈念するのみでございます。

残り得た私達は連帯により里の再建を第一とし、一致協力その復興に努力いたします。

自然破壊の愚を悟り、順応と防災の最善を尽して皆さんの失われた生命の意義を無にすることなく、団結努力を尽します。ご遺族、ご近親の皆さんに対し、血縁、地縁の心情を深く刻み義をつくして幽界での皆さんの安かさを念じ続けます。

どうかこの私達の誓いをせめてものこととしてご冥福下さいますようお願いいたします。

昭和51年9月29日

被災地区代表 室生地区総代 八木成晴

本日ここに池田町ご主催の下に、去る17号台風により不慮の厄災にあわれました28柱の合同告別式が、全町民皆様方の深い悲しみのうちにこのように厳粛に執り行われるに当り、謹んで敬申の誠を捧げます。

思えば悲痛極まりもない9月11日でございました。不意に本土を襲った17号台風は、本県の瀬戸内海沿岸東部を中心に、かつてない集中豪雨をもたらし、とくに本町谷尻地区では34戸中20戸を、また赤坂では20戸中12戸を一瞬のうちに押し流し、91才の中岡イチさん、池田中学2年在学中の谷上明宏君などあわせて28名の尊い生命を奪い去り、昨日まで平和であった町を瞬時にして悲痛と慟哭の町と化したのであります。とくに下本照雄さんのご一家は6名のご家族中5名までが水魔の犠牲となられ、高校生の三女ふき子さんがただ一人生き残られたうえふき子さんのお母さんの恵美子さんは連日数千人の方々のご出動捜索の結果さる26日漸くご遺体が発見され、ふき子さんは半カ月ぶりにお母さんと無言の対面をされる等という異例の出来事もあり、町民各位のご傷心はもとより、私共もただただ哀傷痛惜の念を深くするばかりでございました。

ただこの上は、私共は県議会の総力をあげて、国・県・町民の皆様方と相協力し、一日も早く皆様方の郷土の復旧と再建に努めますとともに、再びこのような惨事を繰り返すことがないように懸命の努力を致す決意を固くしているところで、またこのことのみが、今は亡きみ霊をお慰め申しあげる唯一の道かと存するのでございます。

茲にご列席の皆様方とともに深くご霊前に額いて、今は亡きみ霊のご平安をお祈り申し上げ意余って言足りませぬお弔らいの言葉といたします。

在天のみ霊よ、どうか私共の徴衷を来り、お享け下さらんことを！

昭和51年9月29日

香川県議会議長 小磯治芳

本日ここに池田町主催のもとに、台風17号災害死没者池田町合同葬儀が挙行せられるにあたり、池田町議会を代表して謹んでご霊前に敬悼の誠を捧げます。

思えば去る8日午後より12日の午後にかけて当町を襲った未曾有の豪雨は一瞬にして濁流となり河川、家屋等を破壊し、あなた方28名の尊い生命を断ちましたことは、誠に痛ましく痛恨の情に堪えない次第であります。

あなた方の内にはおさな子や、ご円満なご夫婦また最愛のご家族などその時までお元気で過していたあなた方を不慮の災禍とはいえ一瞬にして奪い去ったことは唯々驚愕の外はなく誠に痛恨の極みでございます。

生者必滅とは申せ死の運命などとあきらめきれぬでしょうか、更にご遺族のご心中を思えば何ともお慰めの言葉もなく誠に悲しいことでございます。心から哀悼の誠を捧げる次第です。

この荒廃した郷土は今復旧の意欲に燃え、全町あげて作業に励んでおります。あなた方の犠牲を無駄にすることなく、この度の災害を尊い教訓として人間尊重の精神に徹し、何をさておいてもご遺族の援護に努めあわせて、池田町の再興をはかる決意でございます。

どうかあなた方のみ霊にご遺族の上にも限りなきご加護とお導きを下されますよう信じ、み霊の安らかに冥せられんことをお祈り申し上げ弔辞といたします。

昭和51年9月29日

池田町議会議長 大 森 登 喜 男

感謝状

県知事感謝状

池田町消防団

町長感謝状

浜条地区総代	武部 文治	池田町議会議員	浜口 貞雄
北条地区総代	川口 武利	南蒲野地区民生委員	谷口 竹夫
北条第二自治会会長	角田 杉松	池田町消防団第4分団	
平木地区総代	野村 庄左	池田町消防団第7分団	
迎地地区総代	藤本 正一	池田漁業協同組合	
上地地区総代	岡田 正治	国際フェリー株式会社	
中山地区総代	岡 一孝	池田町婦人会	
室生地区総代	八木 成晴	東京小豆島会	
南蒲野地区総代	山本 久義	愛媛県越智郡伯六町	広則丸
石場地区組長	大石幸次郎		
赤坂地区組長	洲本 通男		(順不同)

あの、本町全域にわたり被害を与えた、未曾有の大災害に救助・救援活動及び災害復旧等に昼夜をいとわず、特に、ご尽力されたことに感謝の意を表し、上記の方々並びに団体に対して感謝状をお送りしました。

まことにありがとうございました。

編集を終えて

本町に未曾有の大災害をもたらした昭和51年9月の台風17号災害……。この災害と復旧の状況を記録しておくと共に、再びこのような大災害を被らないことを念じつつ編集委員を引き受けた。さて、編さんにとりかかると色々な問題点にぶつかった。例えば、被害の状況等は記録したり写真を撮る余裕もなかった状況下で十分な記録が残っていません。また、あの痛ましい被災の時期から二年有余の歳

月が経っており、報道機関等の資料に頼らざるを得ない実状であった。復旧関係についても県事業等は主管が異なるので、ご無理をお願いして資料を集めた。従って編集を終えた段階でも果して初期の目的が達成できたかどうか心残りの点も多くあるが、ともかくも編集を終えたという安堵感と、願わくばこのような記録の編集は今回だけでピリオドをうてることを強く念じている。



当時のすごさが残る……ここまで水が

編集委員

明田 信夫	緋田 善晴
岡野 俊昭	藤本 忠成
中沢 義隆	三木 剛
平井 忠勝	(五十音順)

主な参考資料提供者

香川県広聴広報課

香川県消防防災課

香川県土庄土木事務所

香川県小豆事務所

香川県林務課

四国新聞社

(順不同)

貴重な資料をありがとうございました。

厚くお礼申し上げます。

昭和51年9月台風17号の集中豪雨による 災害と復旧の記録

印刷 昭和54年3月10日

発行 昭和54年3月30日

編集 池田町災害の記録編集委員会

発行 池田町

〒761-43 香川県小豆郡池田町大字池田2100の4

印刷 有限会社 向進舎印刷所

〒761-41 香川県小豆郡土庄町甲6193-27